

岩手県総合計画審議会

令和3年度第3回県民の幸福感に関する分析部会

日時：令和3年6月17日(木) 9:30～12:00

場所：盛岡地区合同庁舎 8階 講堂B

次 第

1 開 会

2 議 題

(1) 分野別実感の分析について

(2) その他

3 閉 会

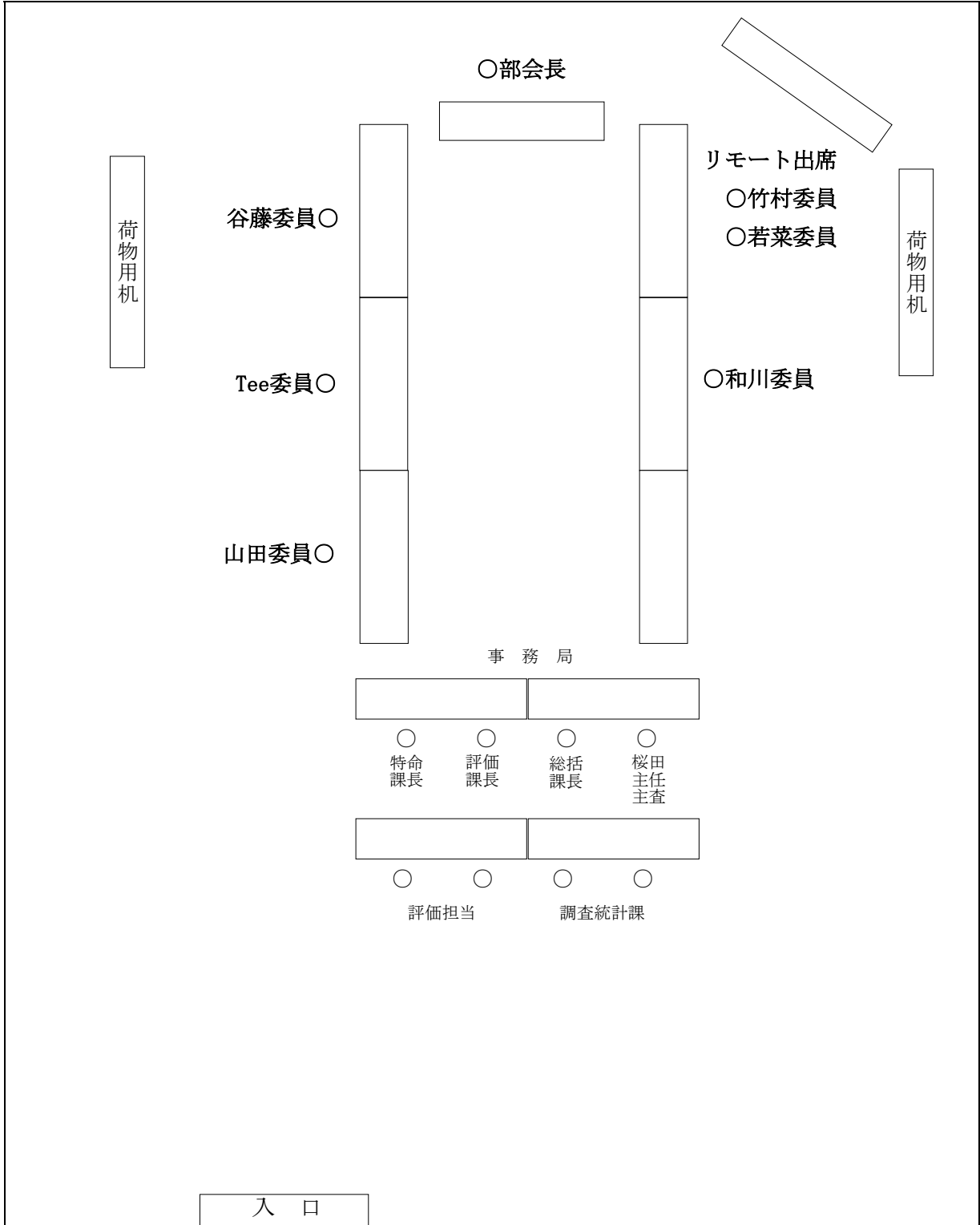
配付資料一覧

- 資料1 県民意識調査 属性別分析について
- 資料2 【県民意識調査】分野別実感「子育て」について
- 資料3 補足調査における「歴史・文化への誇り」の回答理由について
- 資料4 令和3年度年次レポート素案

第3回県民の幸福感に関する分析部会 座席表

日時：令和3年6月17日（木）9：30～12：00

会場：盛岡地区合同庁舎 8階 講堂B



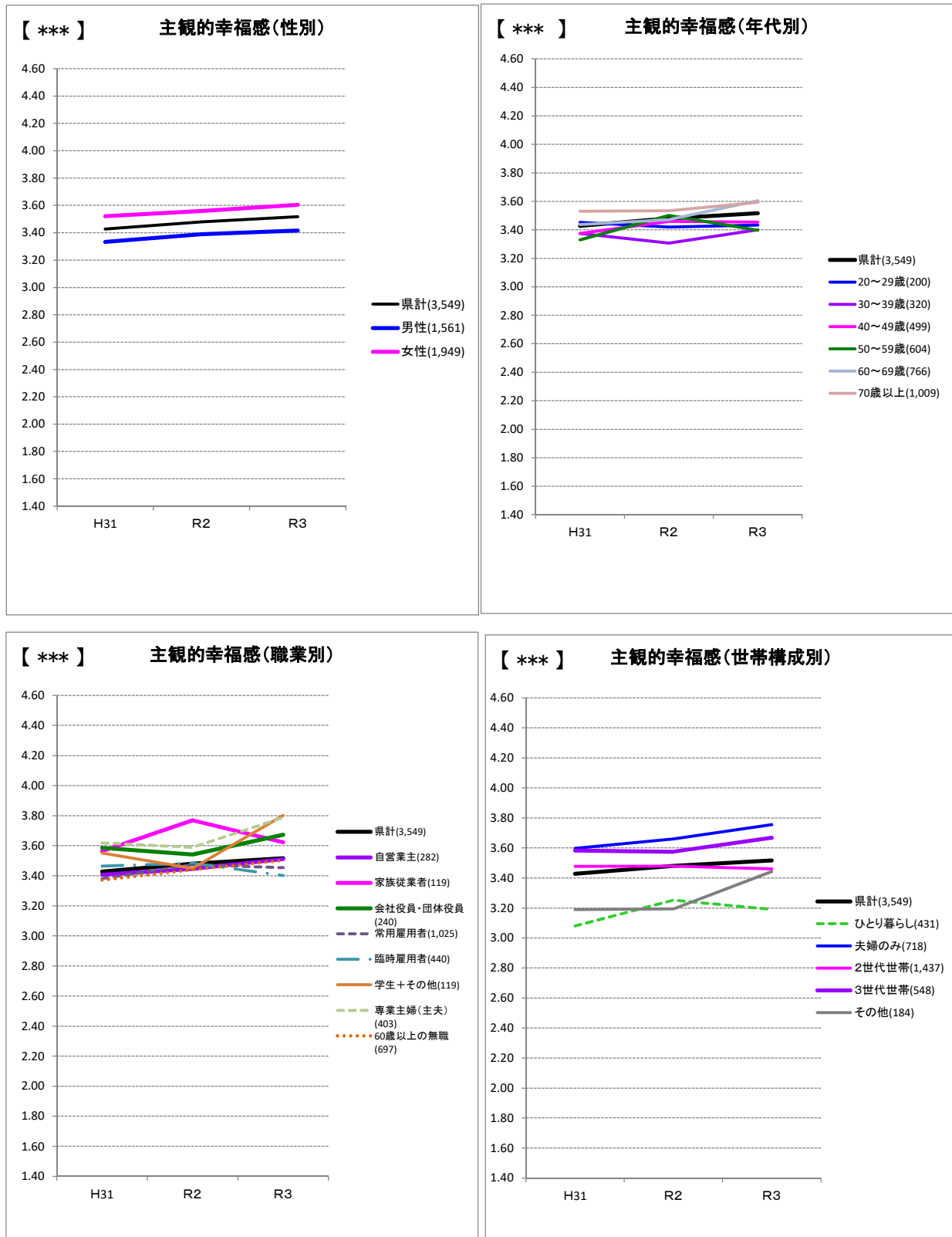
県民意識調査 属性別分析結果

【県計】【主観的幸福感】あなたは現在、どの程度幸福だと感じていますか。

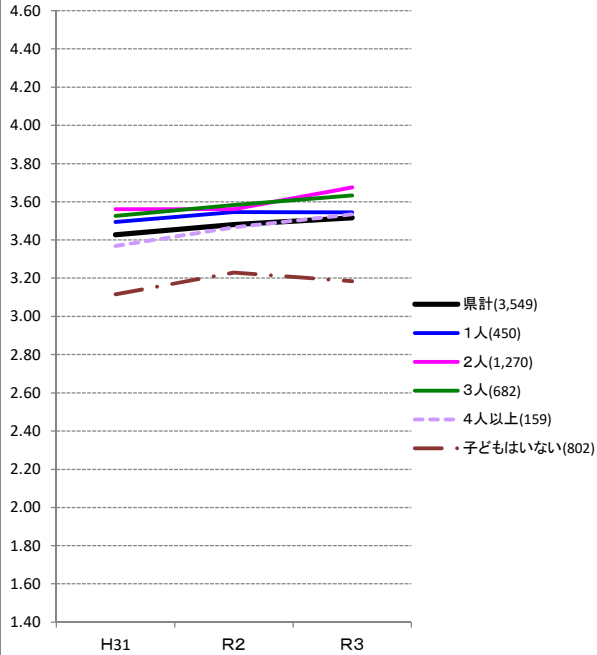
・令和3年調査結果において、属性別に見ると、全ての属性別で有意な差が認められた。

性別では、女性が高く男性が低かった。年齢別では、60歳代が高く、50代が低かった。職業別では、学生+その他が高く、臨時雇用者が低かった。世帯構成別では、夫婦世帯が高く、ひとり暮らしが低かった。子の数別では、子2人が高く、子どもはいないが低かった。居住年数別では、10～20年未満が高く、20年以上が低かった。広域振興圏別では、県央広域振興圏が高く、県北広域振興圏が低かった。

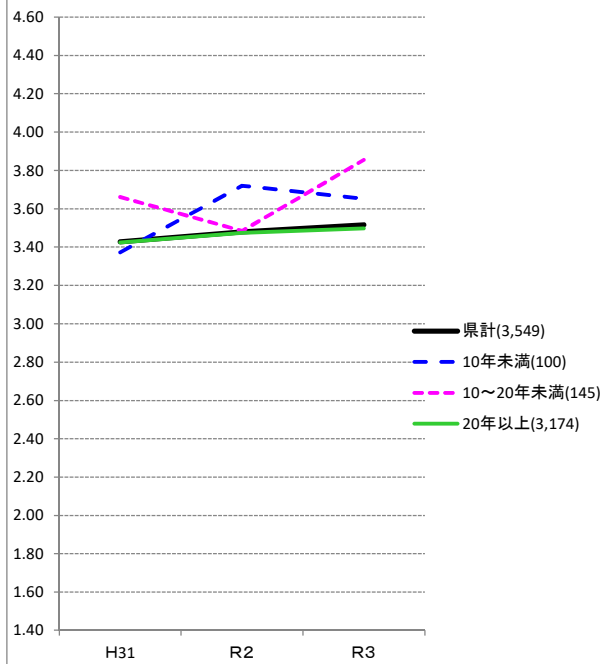
・幸福感的平均値は、平成31年調査と比べて有意に上昇している。



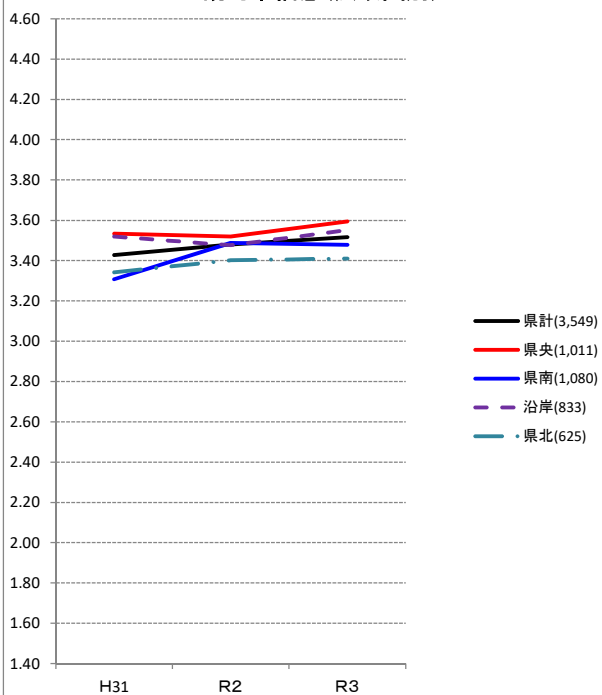
【***】 主観的幸福感(子の数別)



【***】 主観的幸福感(居住年数別)



【***】 主観的幸福感(広域圏別)



「主観的幸福感(平均)について」

幸福感平均の算出方法

「幸福だと感じている」を5点、「やや幸福だと感じている」を4点、「どちらともいえない」を3点、「あまり幸福だと感じていない」を2点、「幸福だと感じていない」を1点とし、それぞれの選択者数を乗じた合計点を、全体の回答者数(「わからない」、「不明(無回答)」を除く。)で除し、数値化したもの。

■ 凡例 ■

グラフ左上の*は、R3調査結果の属性別一元配置分散分析結果を示す。

【***】1%水準で差が有意(差が認められる)

【**】5%水準で差が有意(差が認められる)

【*】10%水準で差が有意(差が認められる)

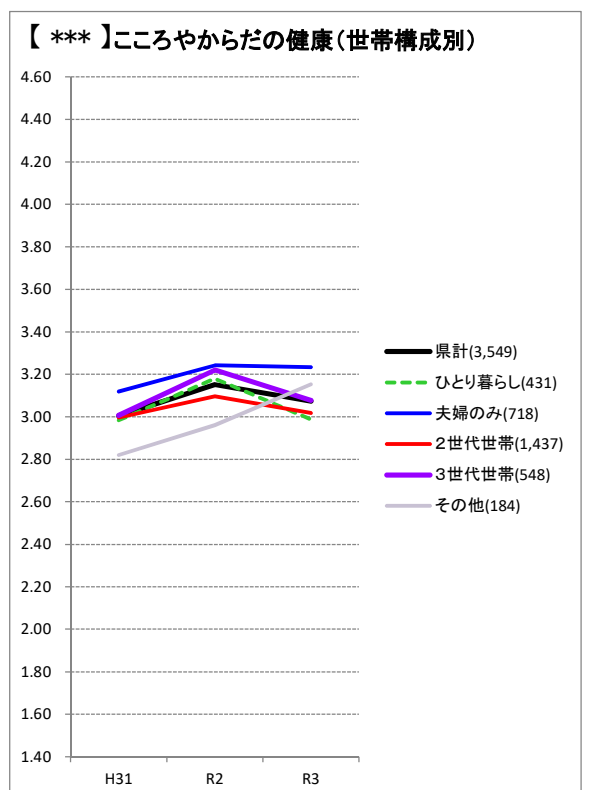
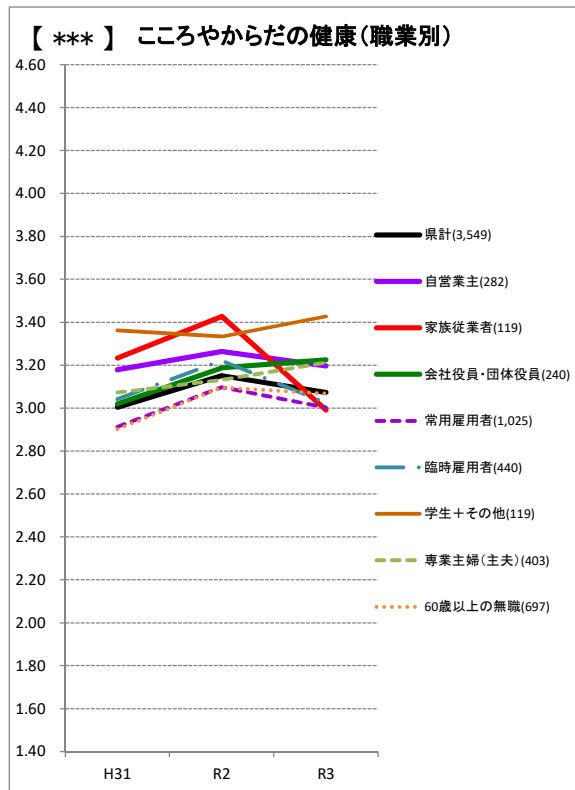
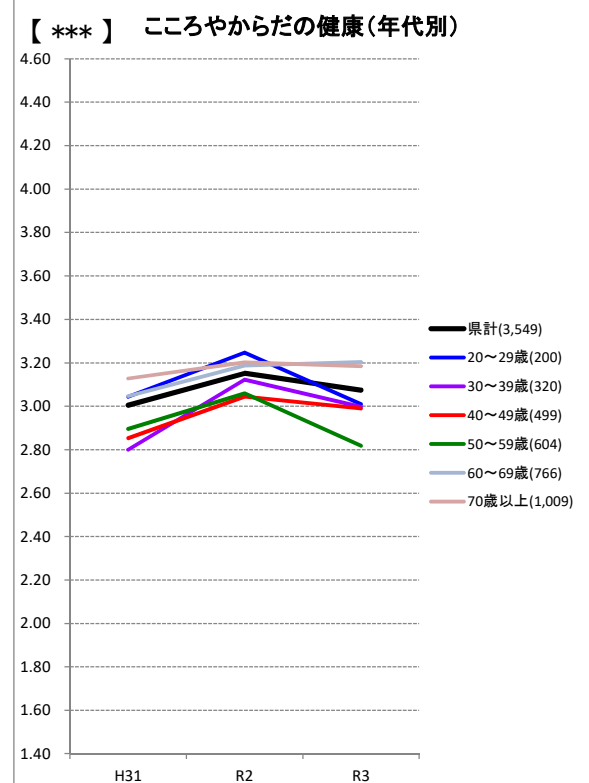
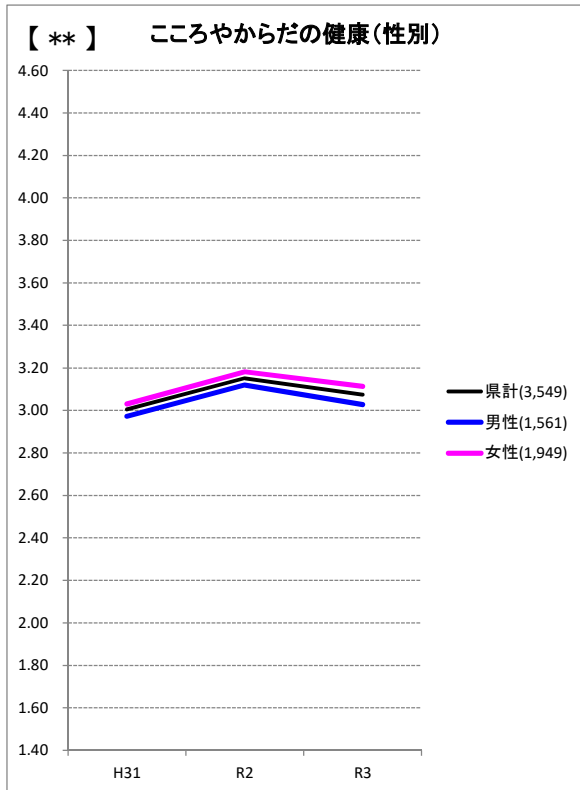
【-】差が認められない

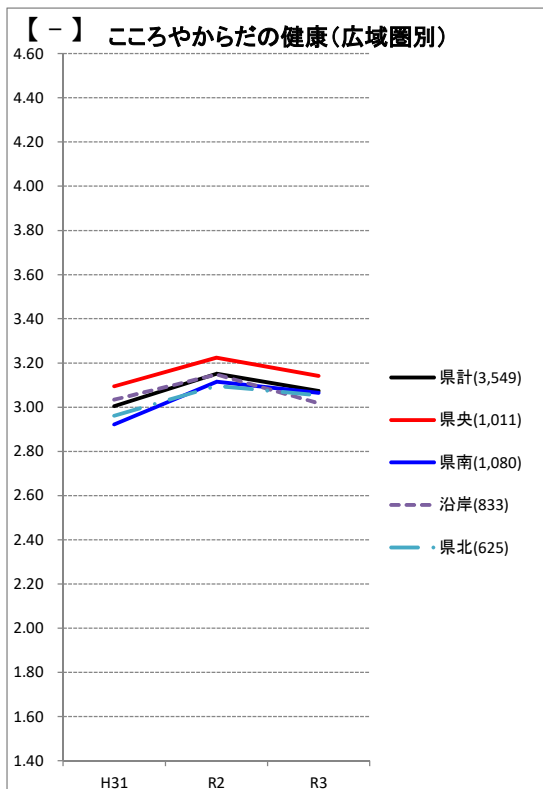
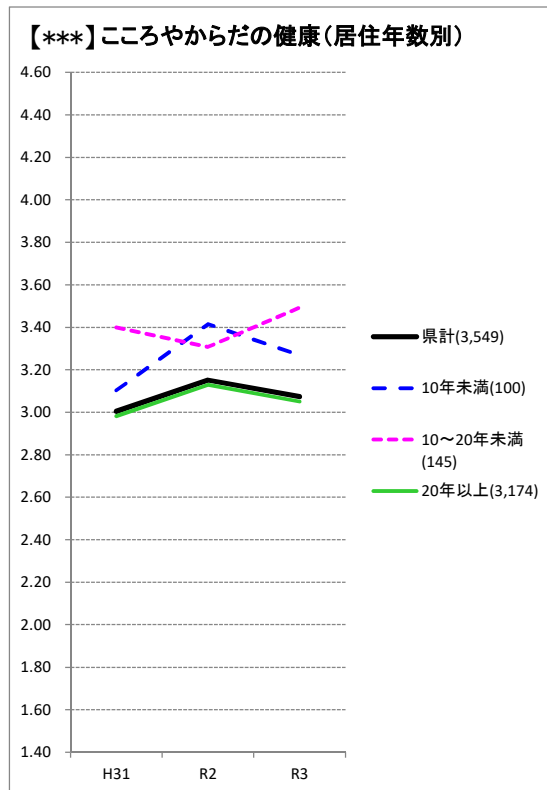
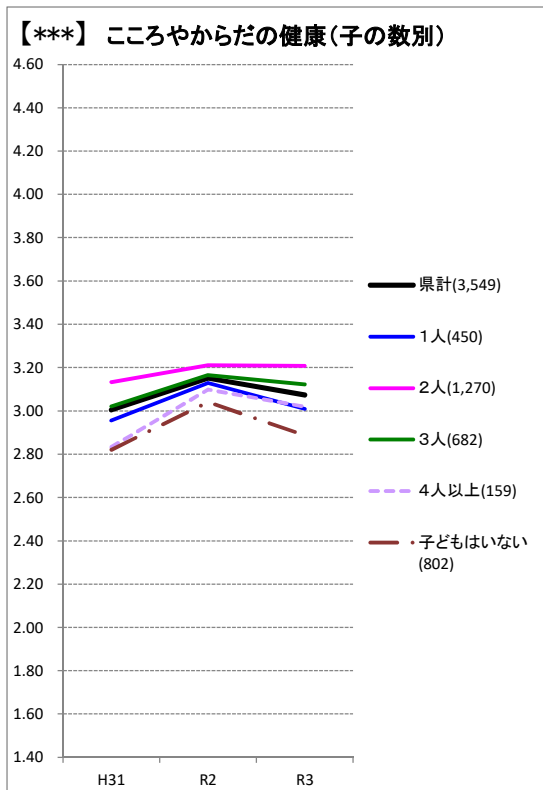
【県計】【分野別実感】①こころやからだの健康だと感じますか。

・令和3年調査結果において、属性別に見ると、性別、年代別、職業別、世帯構成別、子の数別、居住年数別で有意な差が認められた。

性別では、女性が高く、男性が低かった。年代別では、60歳代が高く、50歳代が低かった。職業別では、学生+その他が高く、家族従業者が低かった。世帯構成別では、夫婦世帯が高く、ひとり暮らしが低かった。子の数別では、子2人が高く、子どもはいないが低かった。居住年数別では、10～20年未満が高く、20年以上が低かった。

・実感平均値は、平成31年調査と比べて有意に上昇している。





「分野別実感の属性別の実感平均について」

実感平均の算出方法

「感じる」を5点、「やや感じる」を4点、「どちらともいえない」を3点、「あまり感じない」を2点、「感じない」を1点とし、それぞれの選択者数を乗じた合計点を、全体の回答者数(「わからない」

■ 凡例 ■

グラフ左上の*は、R3調査結果の属性別一元配置分散分析結果を示す。

【***】 1%水準で差が有意(差が認められる)

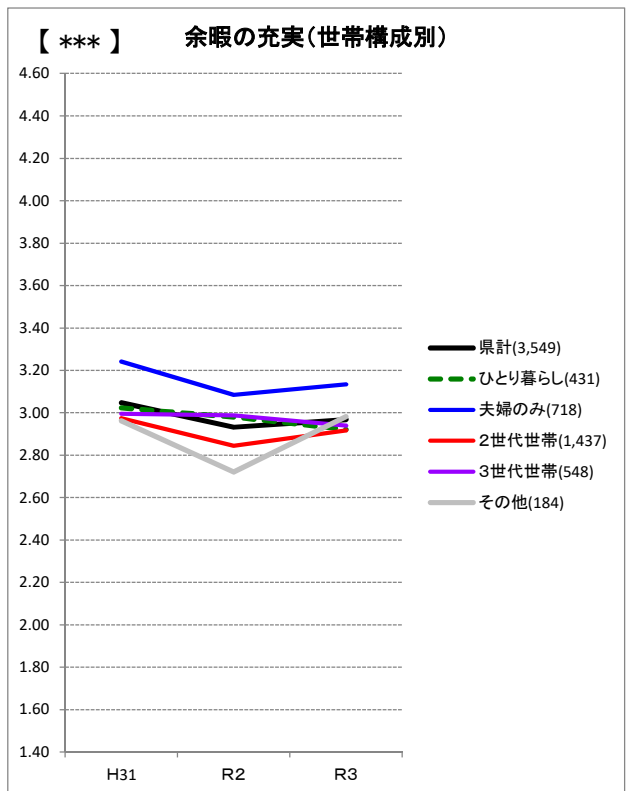
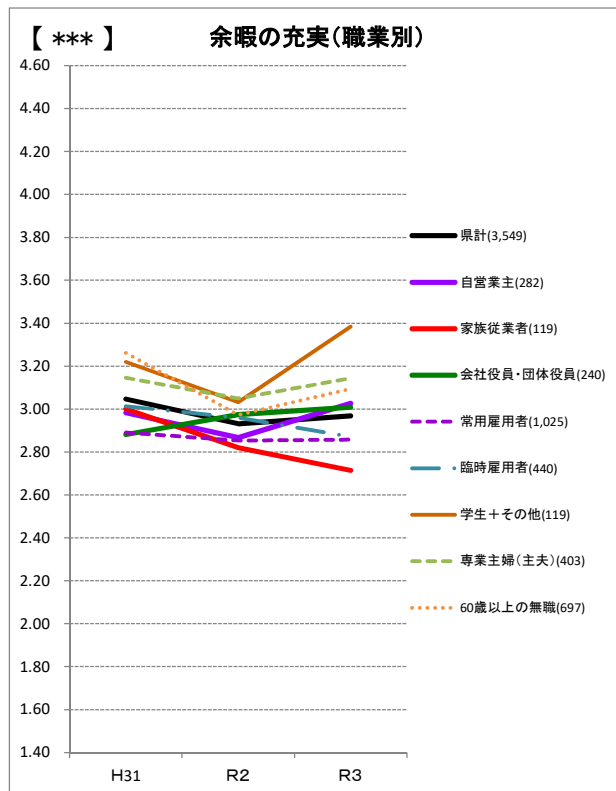
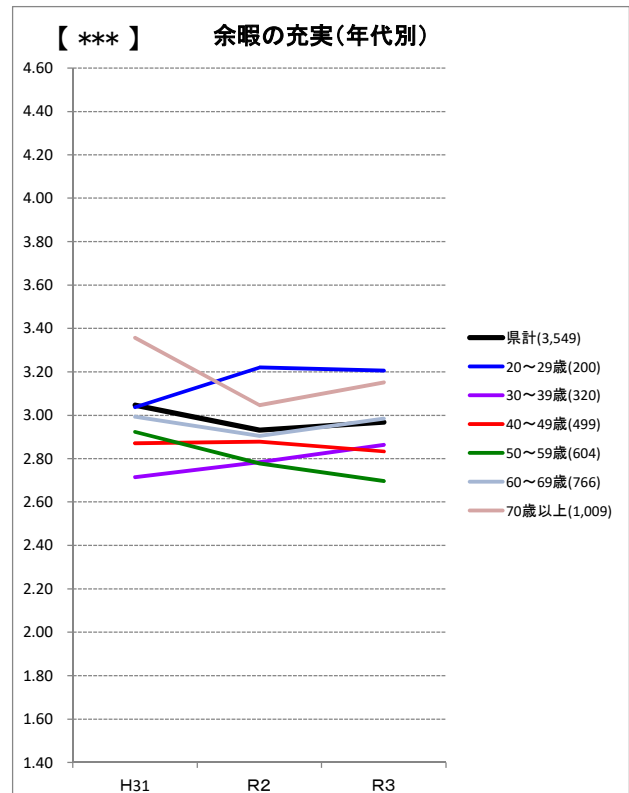
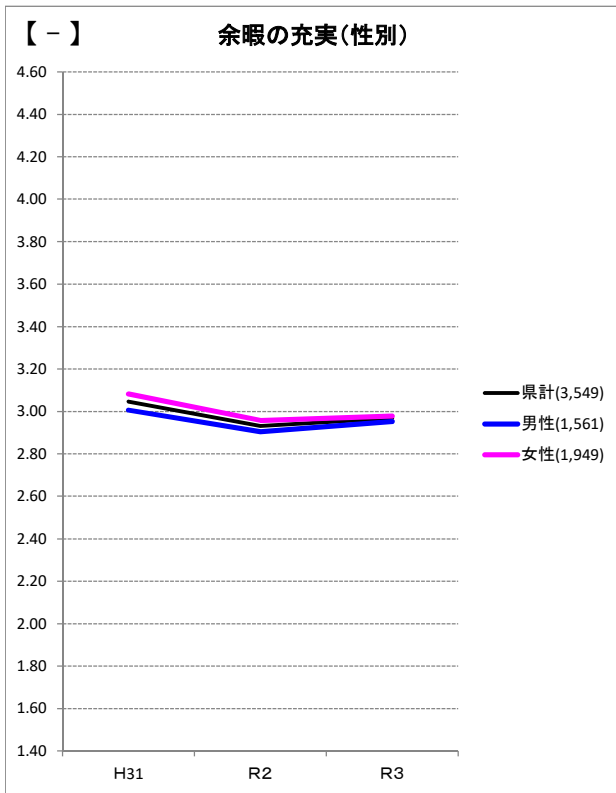
【**】 5%水準で差が有意(差が認められる)

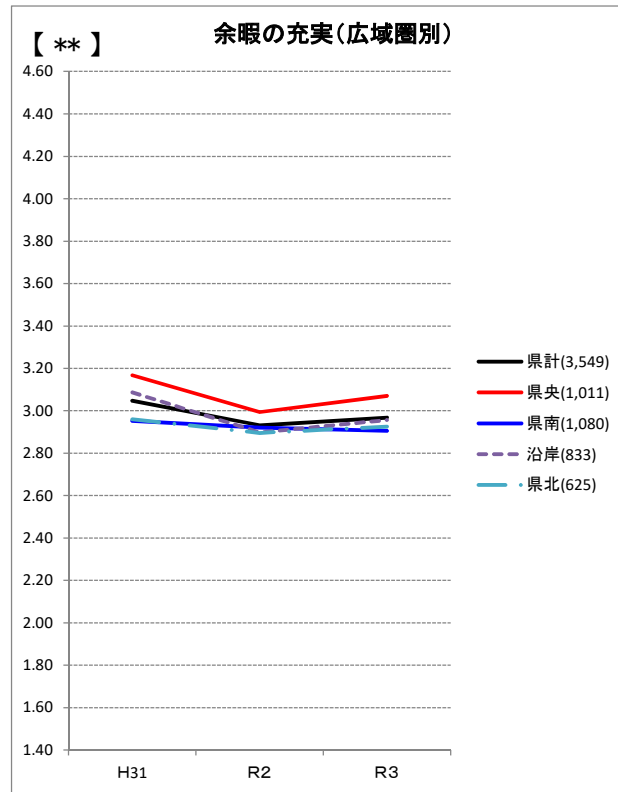
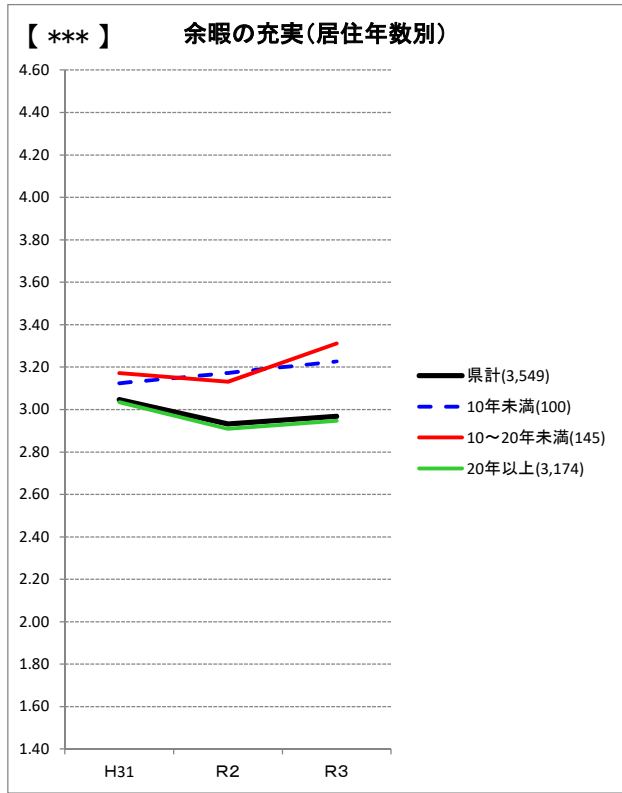
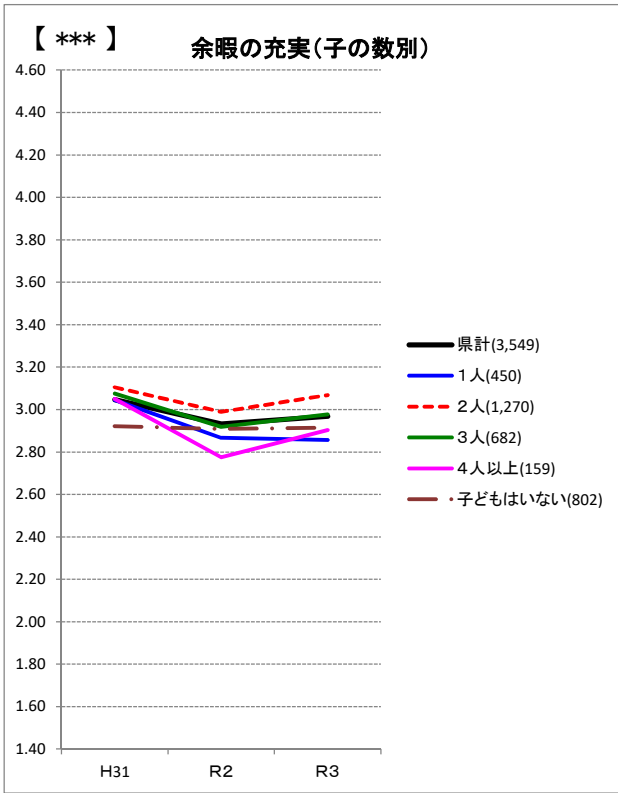
【*】 10%水準で差が有意(差が認められる)

【-】 差が認められない

【県計】【分野別実感】②余暇が充実していると感じますか

・令和3年調査結果において、属性別に見ると、年代別、職業別、世帯構成別、子の数別、居住年数別及び広域振興圏別で有意な差が認められた。
 年代別では、20歳代が高く、50歳代が低かった。職業別では、学生+その他が高く、家族従業者が低かった。世帯構成別では、夫婦世帯が高く、2世代世帯が低かった。子の数別では子2人が高く、子1人が低かった。居住年数別では、10～20年未満が高く、20年以上が低かった。広域振興圏別では、県央広域振興圏が高く、県南広域振興圏が低かった。
 ・実感平均値は、平成31年調査と比べて有意に低下している。





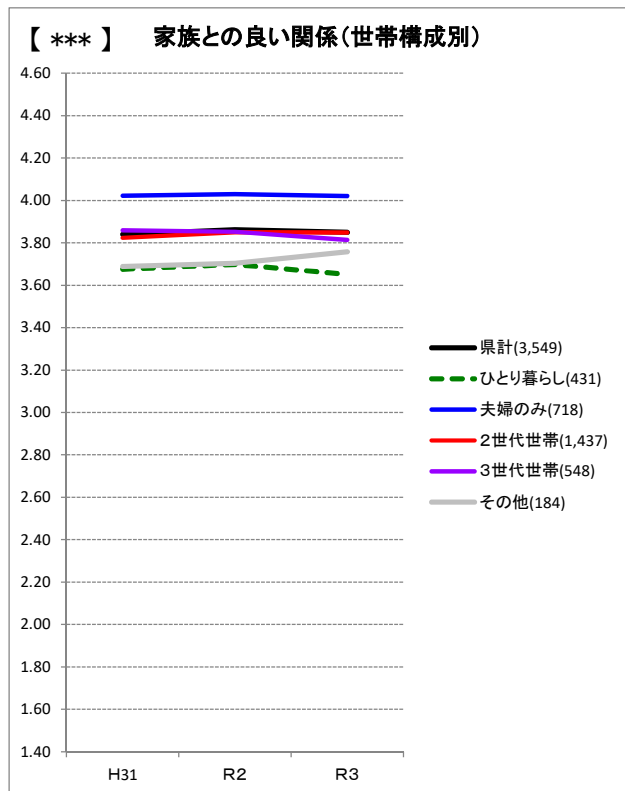
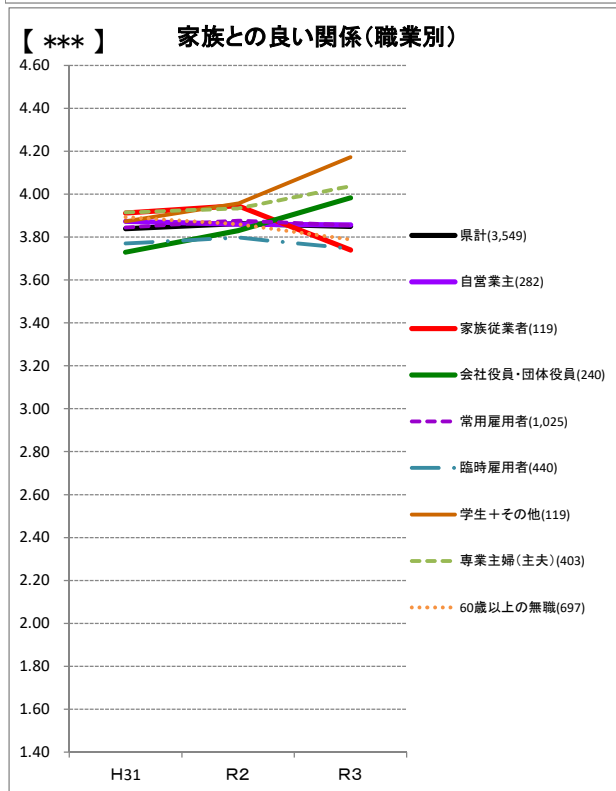
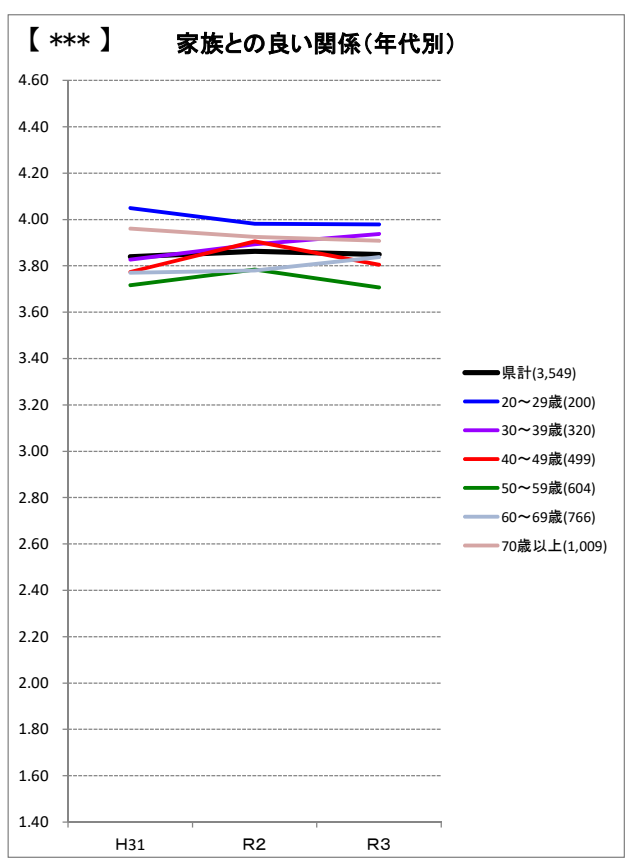
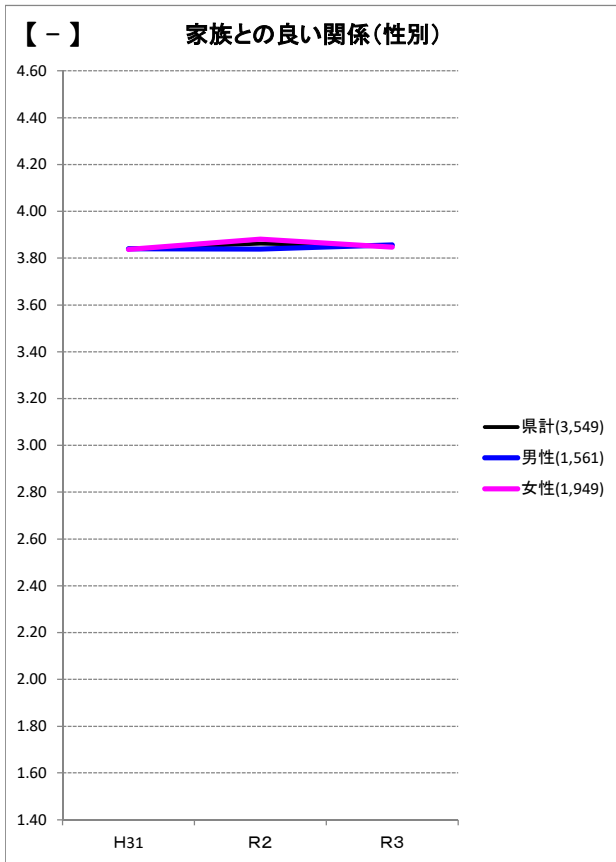
■凡例■
 グラフ左上の*は、R3調査結果の属性別一元配置分散分析結果を示す。
 【***】1%水準で差が有意(差が認められる)
 【**】5%水準で差が有意(差が認められる)
 【*】10%水準で差が有意(差が認められる)
 [-] 差が認められない

【県計】【分野別実感】③家族と良い関係がとれていると感じますか。

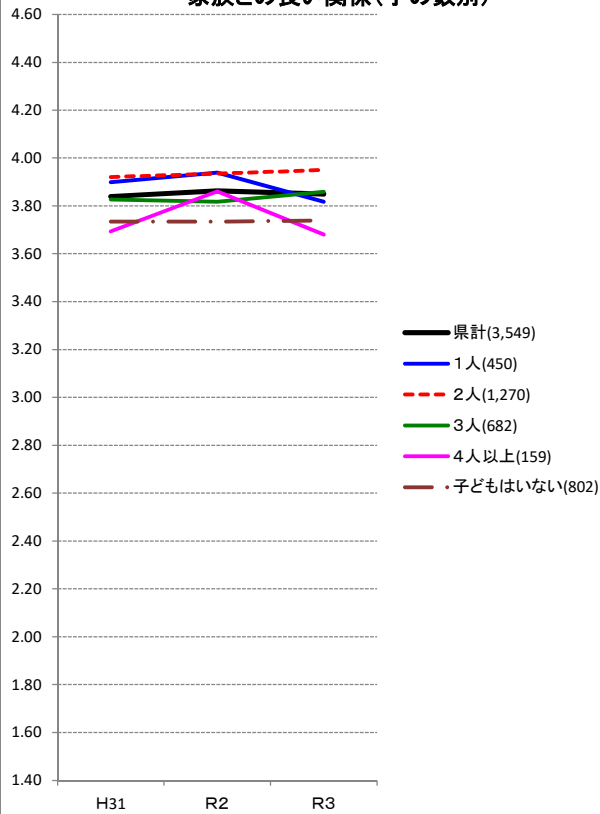
・令和3年調査結果において、属性別に見ると、年代別、職業別、世帯構成別、子の数別、居住年数別、広域振興圏別で有意な差が認められた。

年代別では、20歳代が高く、50歳代が低かった。職業別では、学生＋その他が高く、家族従業者が低かった。世帯構成別では、夫婦世帯が高く、ひとり暮らしが低かった。子の数別では、子2人が高く、子4人以上が低かった。居住年数別では、10～20年未満が高く、20年以上が低かった。広域振興圏別では、県央広域振興圏が高く、県北広域振興圏が低かった。

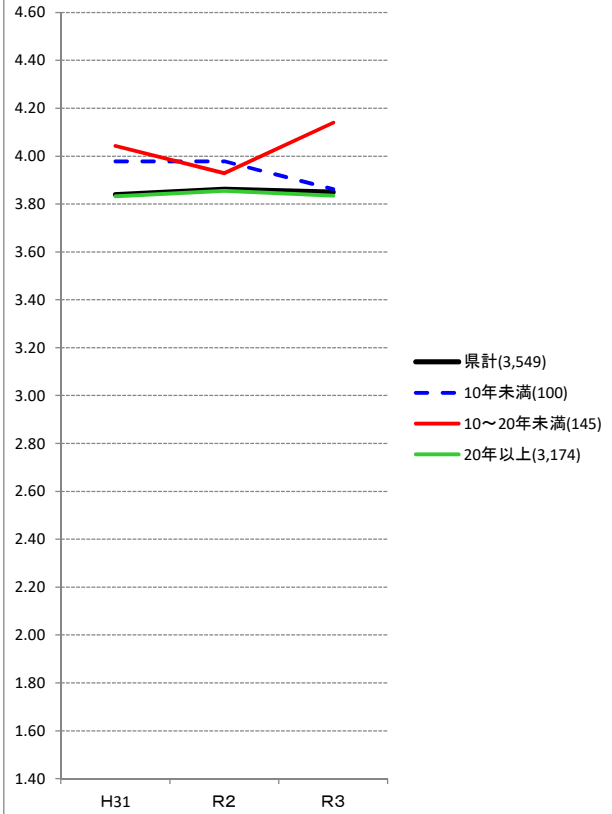
・実感平均値は、平成31年調査と比べて有意な変化を確認できなかった。



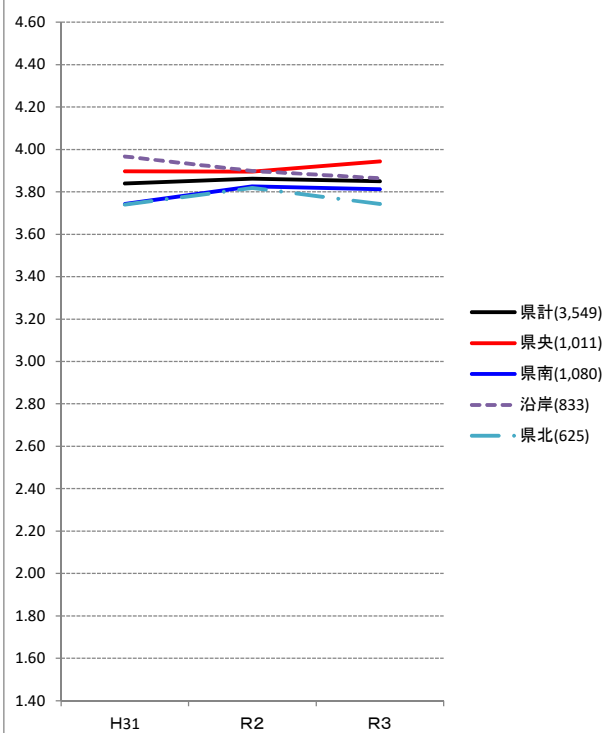
【 *** 】 家族との良い関係(子の数別)



【 *** 】 家族との良い関係(居住年数別)



【 *** 】 家族との良い関係(広域圏別)



■凡例■

グラフ左上の*は、R3調査結果の属性別一元配置分散分析結果を示す。

【***】1%水準で差が有意(差が認められる)

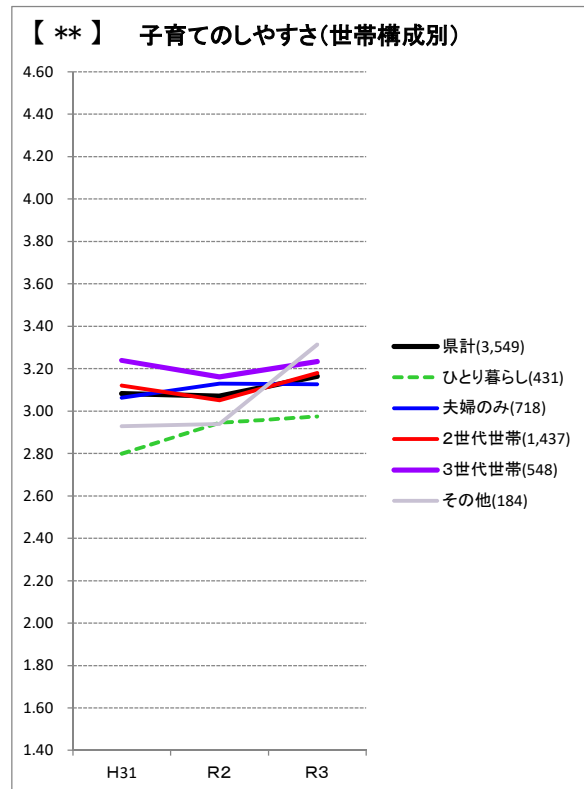
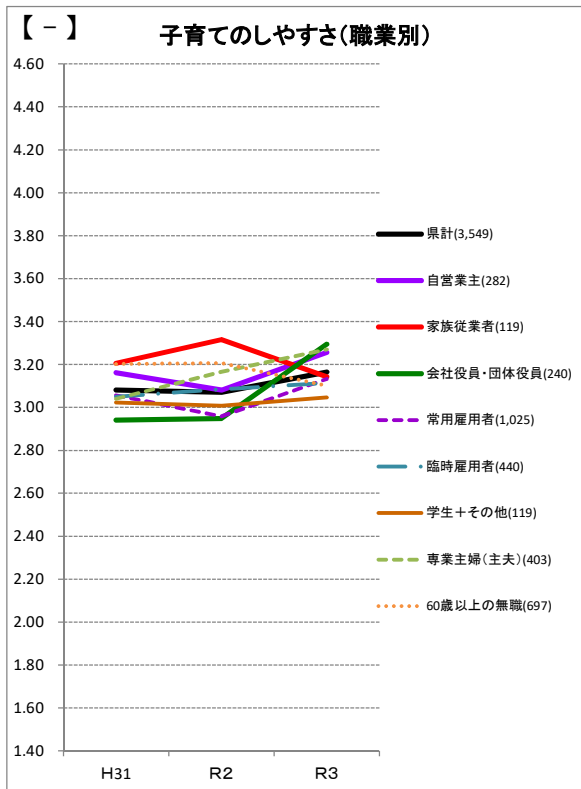
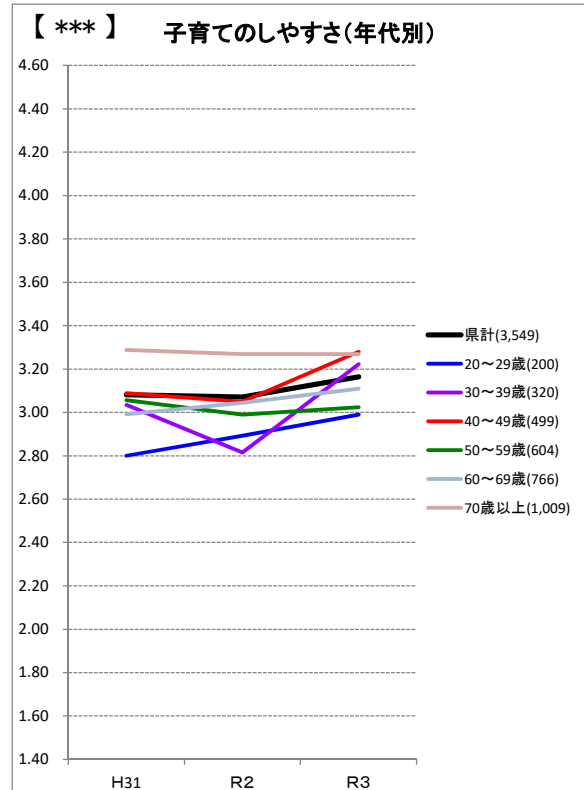
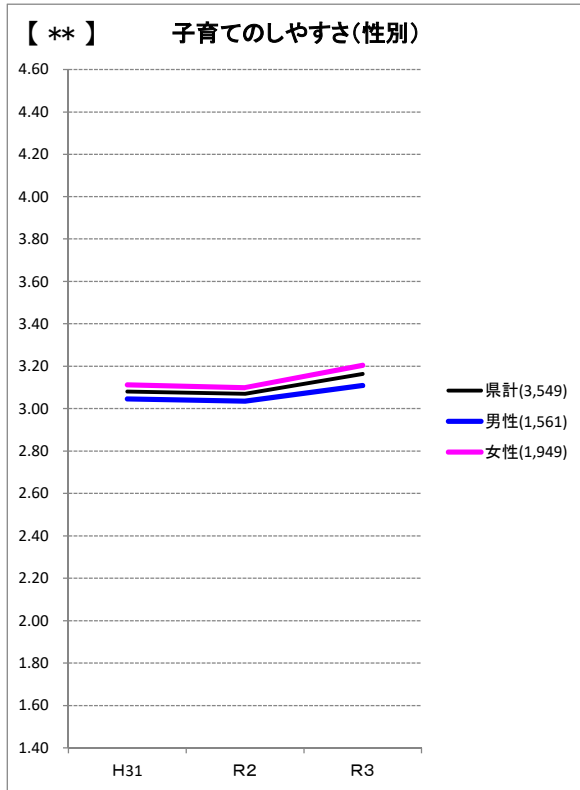
【**】5%水準で差が有意(差が認められる)

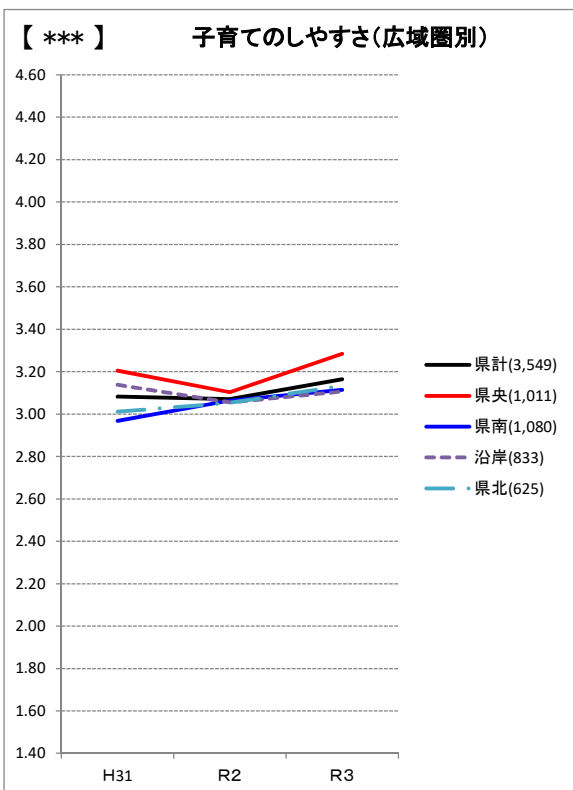
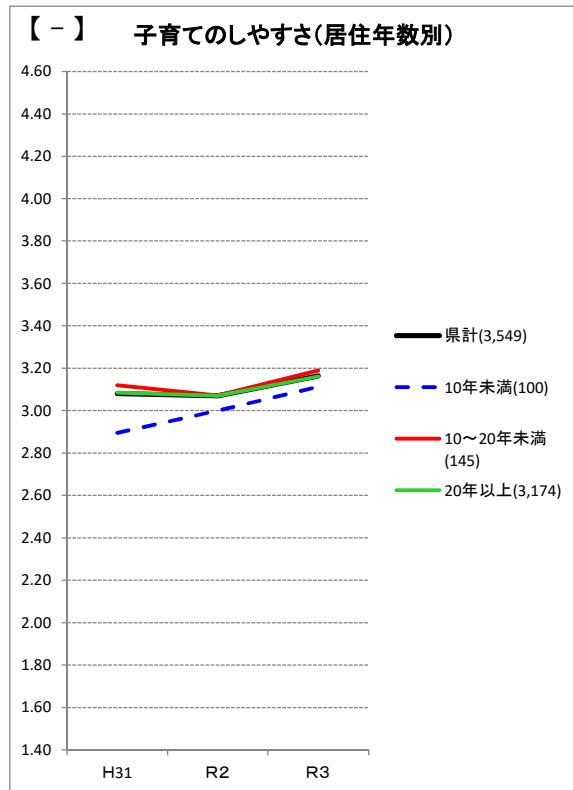
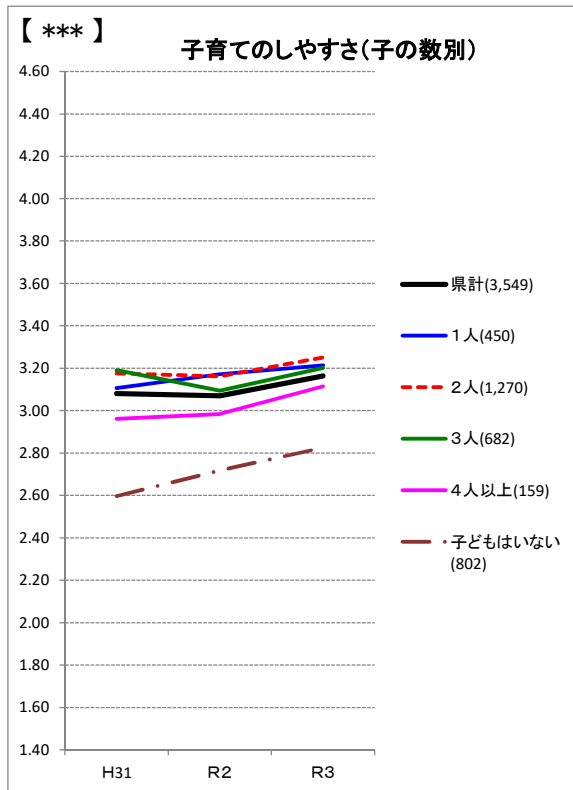
【*】10%水準で差が有意(差が認められる)

【-】差が認められない

【県計】【分野別実感】④子育てがしやすいと感じますか。

- ・令和3年調査結果において、属性別に見ると、性別、年代別、世帯構成別、子の数別、広域振興圏別で有意な差が認められた。
- ・性別では、女性が高く、男性が低かった。年代別では、40歳代が高く、20歳代が低かった。世帯構成別では、その他世帯が高く、ひとり暮らしが低かった。子の数別では、子2人が高く、子どもはいないが低かった。広域振興圏別では、県央広域振興圏が高く、沿岸広域振興圏が低かった。
- ・実感平均値は、平成31年調査と比べて有意に上昇している。





■凡例■

グラフ左上の*は、R3調査結果の属性別一元配置分散分析結果を示す。

【***】1%水準で差が有意(差が認められる)

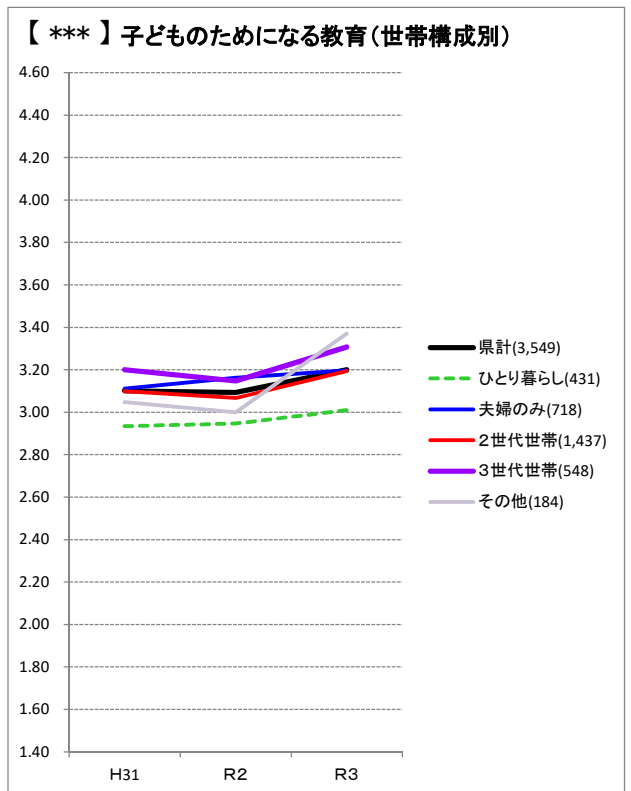
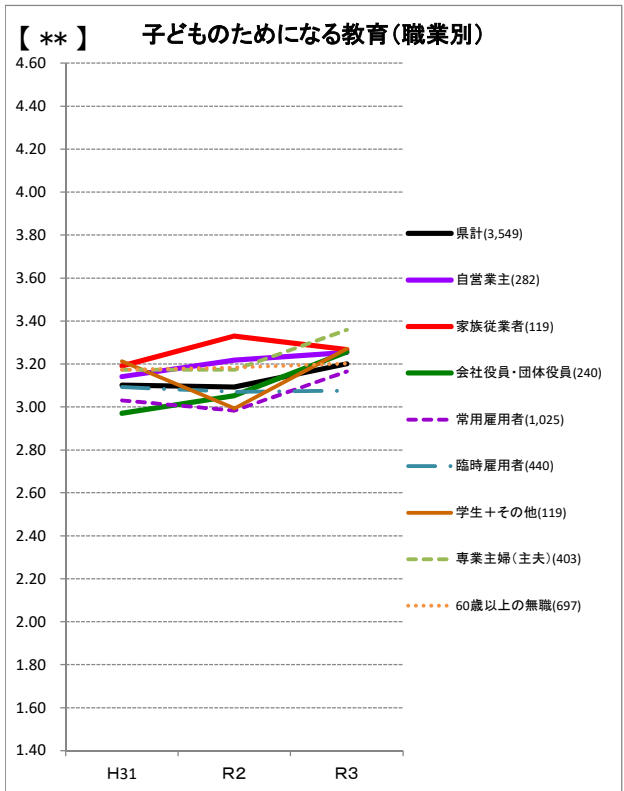
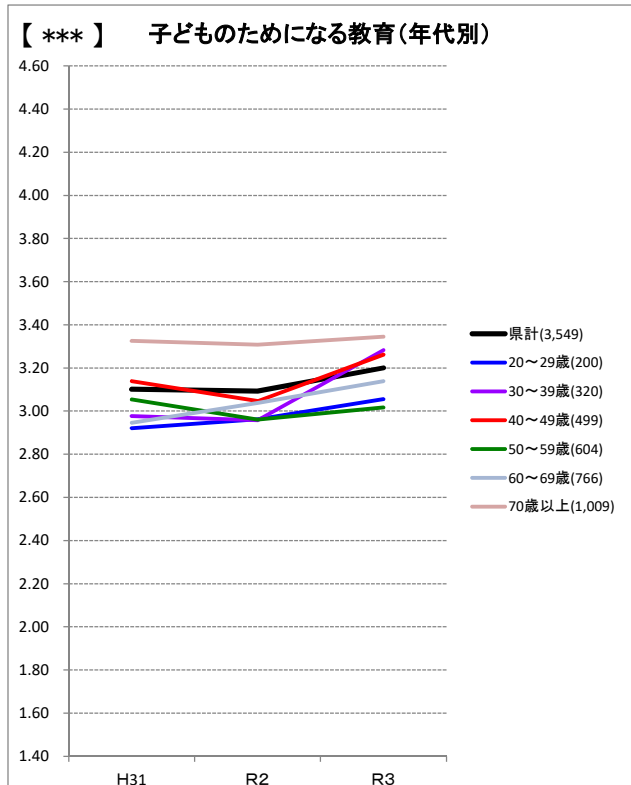
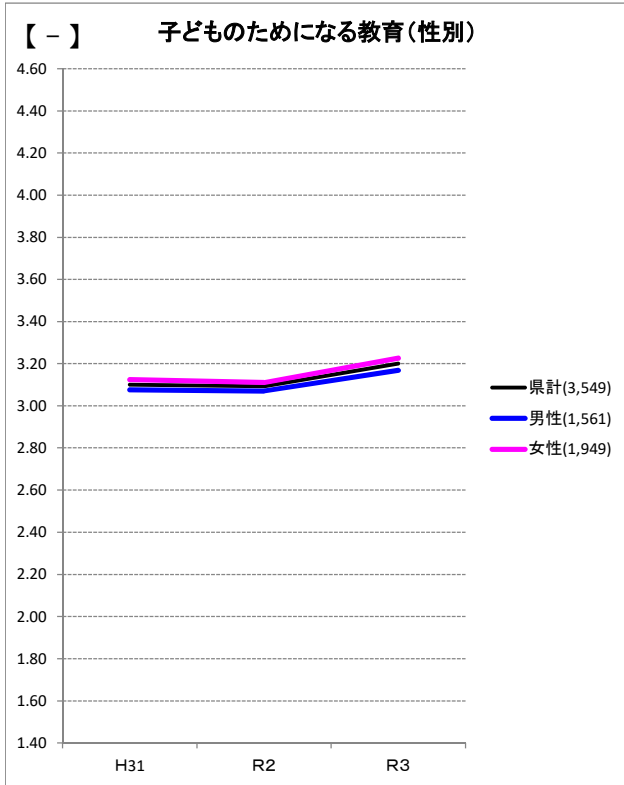
【**】5%水準で差が有意(差が認められる)

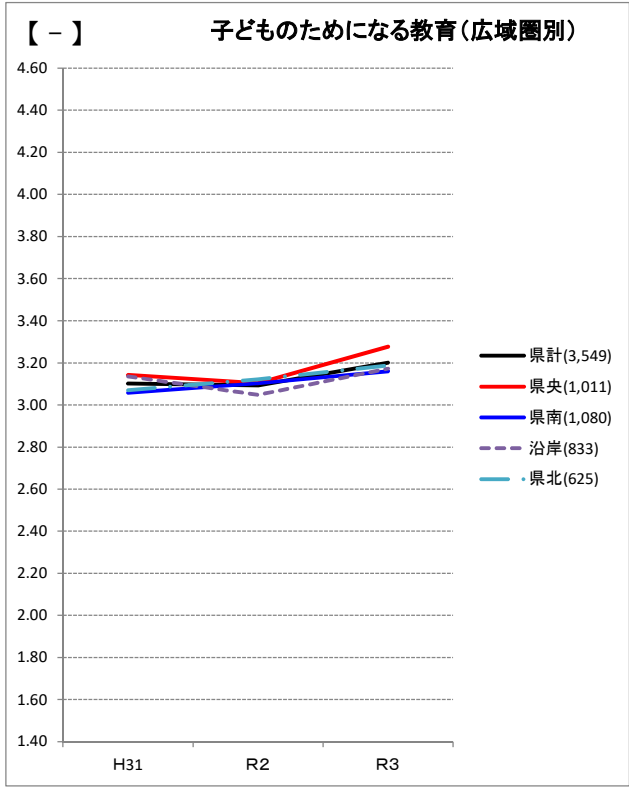
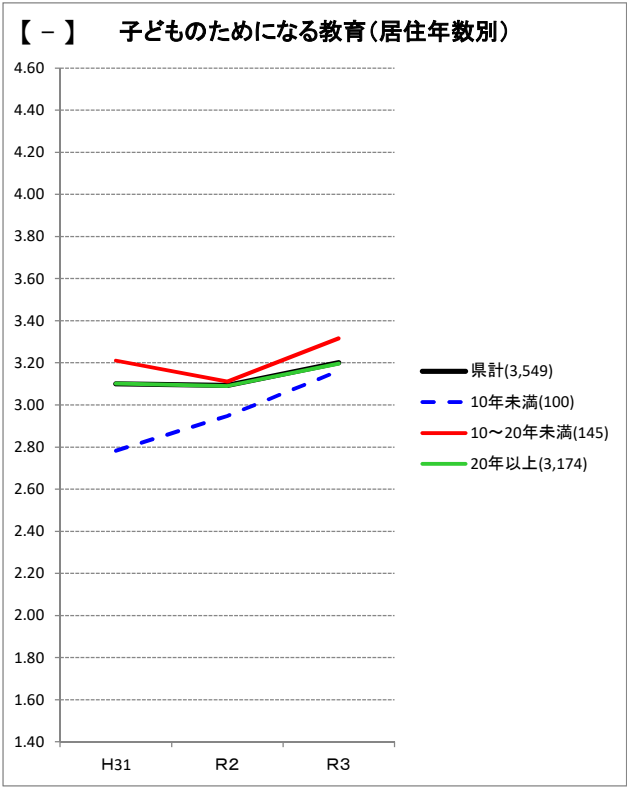
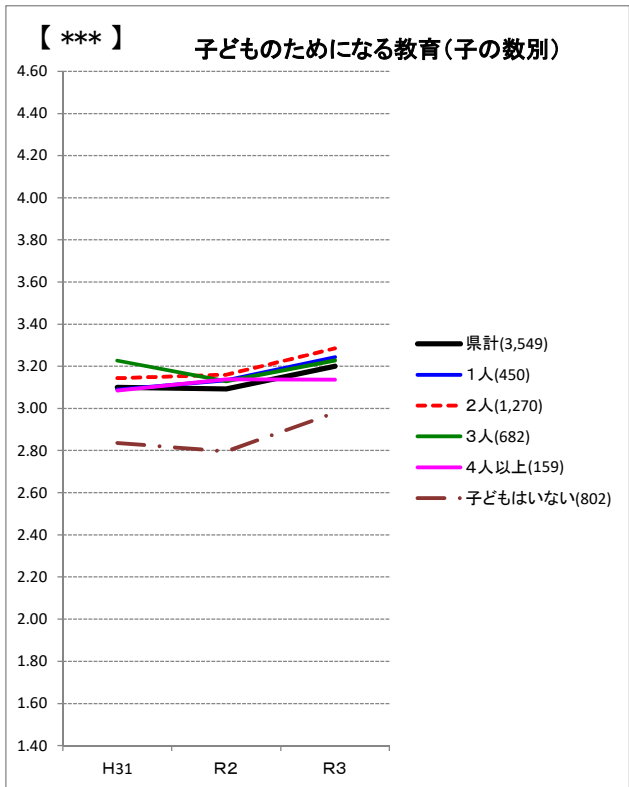
【*】10%水準で差が有意(差が認められる)

【-】 差が認められない

【県計】【分野別実感】⑤子どものためになる教育が行われていると感じますか。

・令和3年調査結果において、属性別に見ると、年代別、職業別、世帯構成別、子の数別で有意な差が認められた。
 年代別では、70歳以上が高く、50歳代が低かった。職業別では、専業主婦(主夫)が高く、臨時雇用者が低かった。世帯構成別では、その他世帯が高く、ひとり暮らしが低かった。子の数別では、子2人が高く、子どもはいない人が低かった。
 ・実感平均値は、平成31年調査と比べて有意に上昇している。



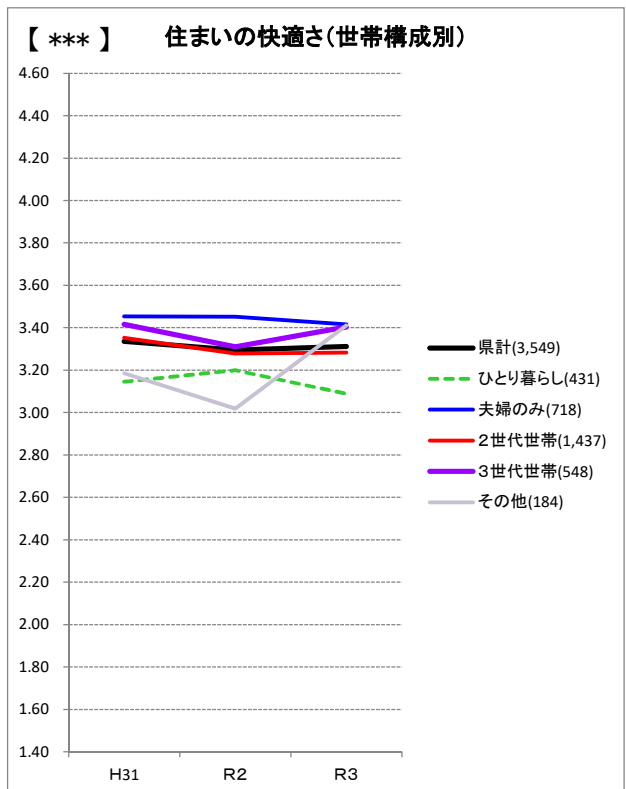
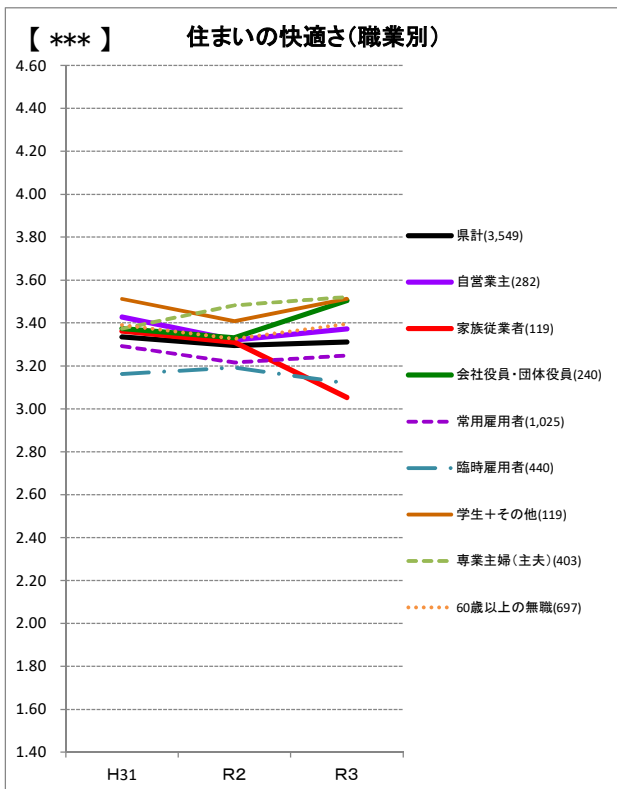
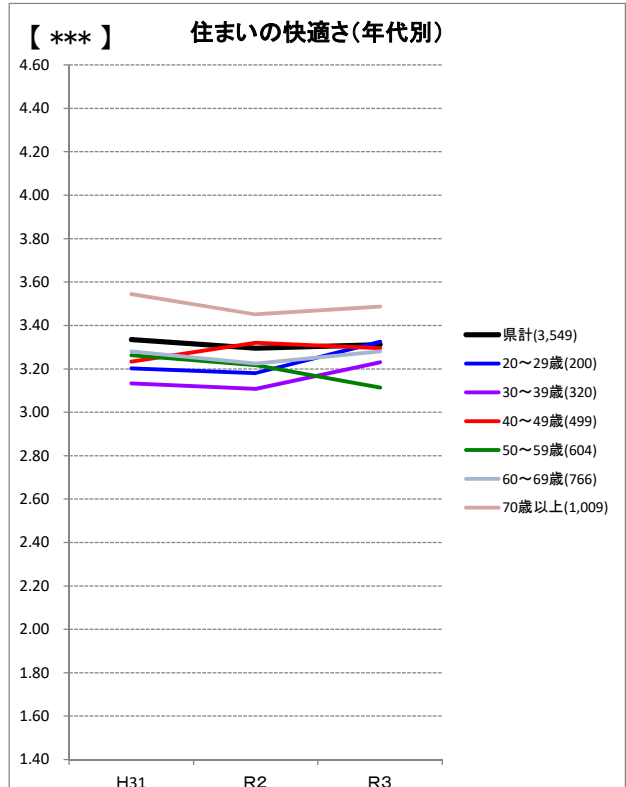
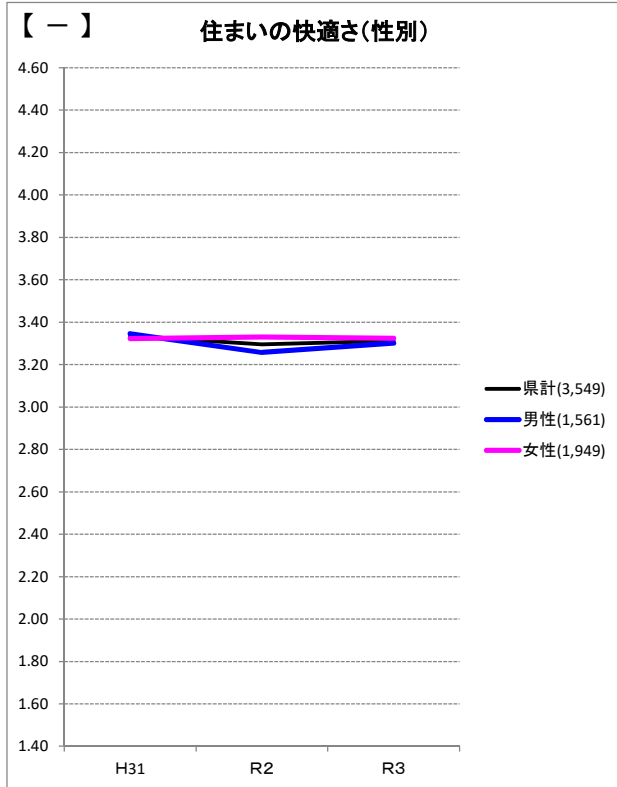


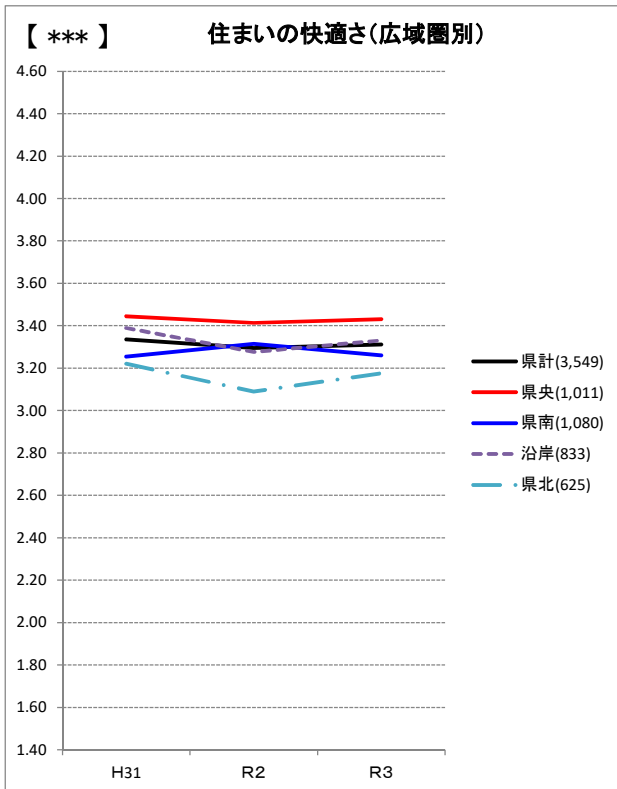
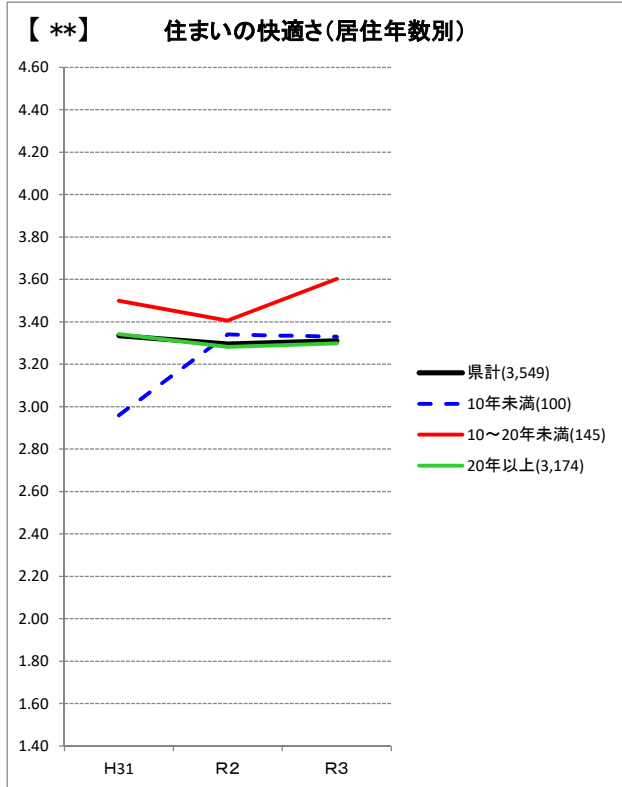
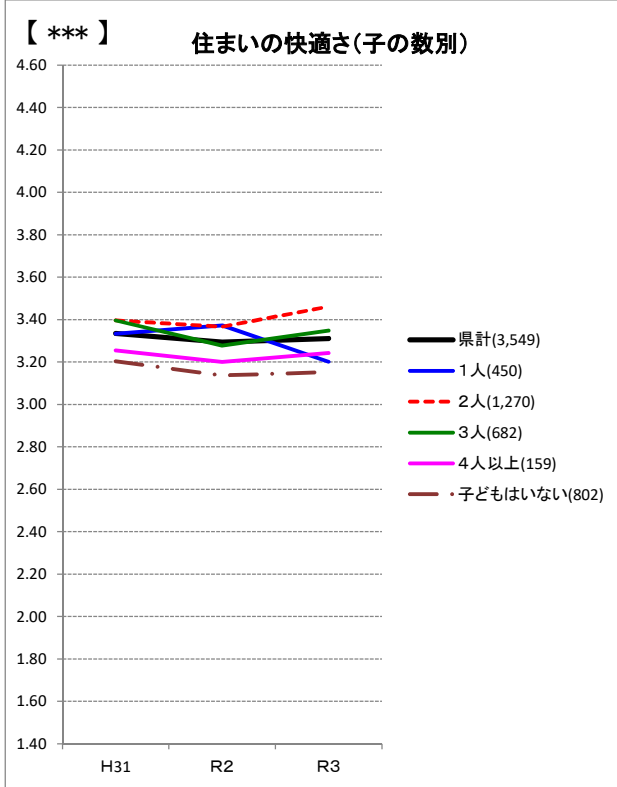
■凡例■
 グラフ左上の*は、R3調査結果の属性別一元配置分散分析結果を示す。
 【***】 1%水準で差が有意(差が認められる)
 【**】 5%水準で差が有意(差が認められる)
 【*】 10%水準で差が有意(差が認められる)
 【-】 差が認められない

【県計】【分野別実感】⑥住まいに快適さを感じますか

・令和3年調査結果において、属性別に見ると、年代別、職業別、世帯構成別、子の数別、居住年数別、広域振興圏別で有意な差が認められた。

年代別では、70歳以上が高く、50歳代が低かった。職業別では、専業主婦(主夫)が高く、家族従業者が低かった。世帯構成別では、夫婦世帯が高く、ひとり暮らしが低かった。子の人数別では、子2人が高く、子どもはいないが低かった。居住年数別では、10～20年未満が高く、20年以上が低かった。広域振興圏別では、県央広域振興圏が高く、県北広域振興圏が低かった、
・実感平均値は、平成31年調査と比べて有意な変化を確認できなかった。





■凡例■

グラフ左上の*は、R3調査結果の属性別一元配置分散分析結果を示す。

【***】 1%水準で差が有意(差が認められる)

【**】 5%水準で差が有意(差が認められる)

【*】 10%水準で差が有意(差が認められる)

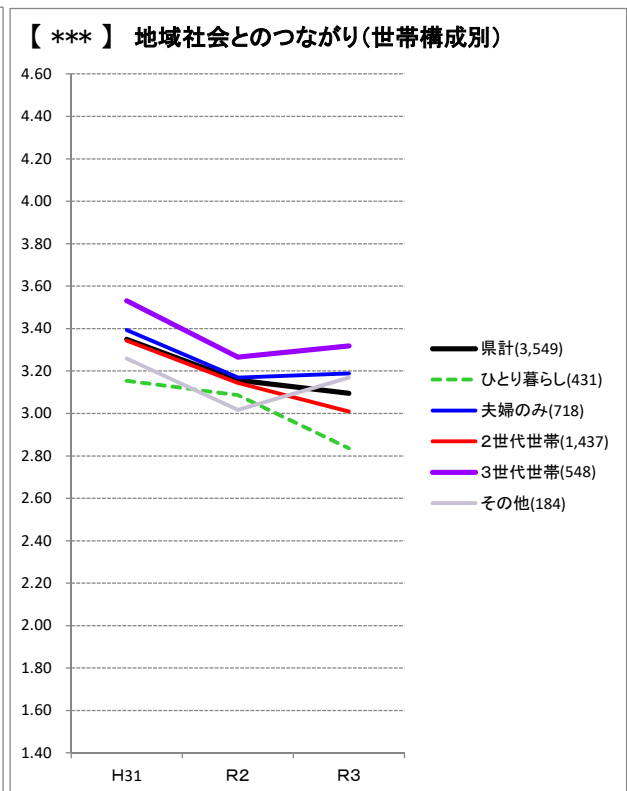
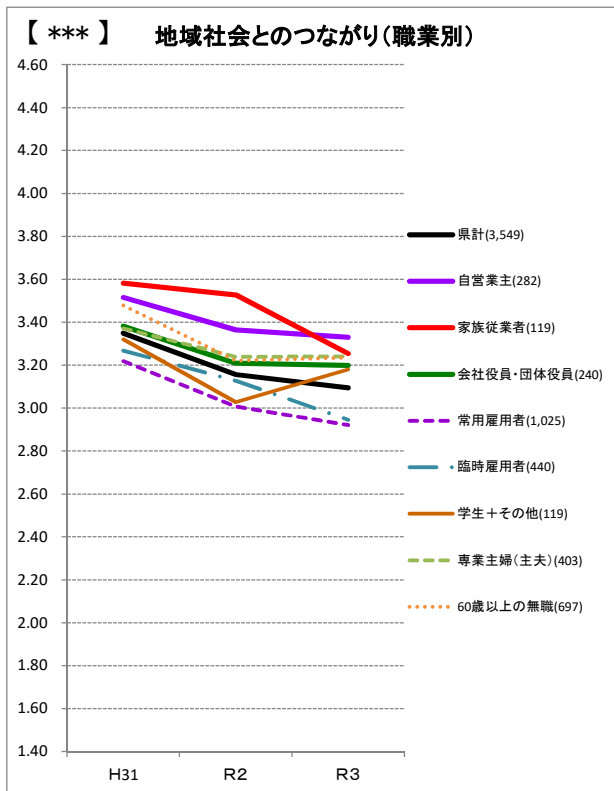
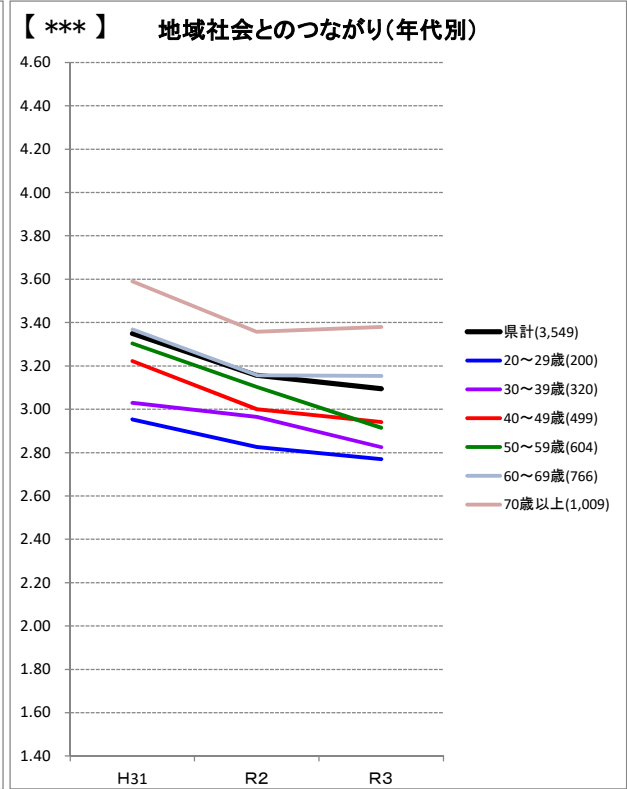
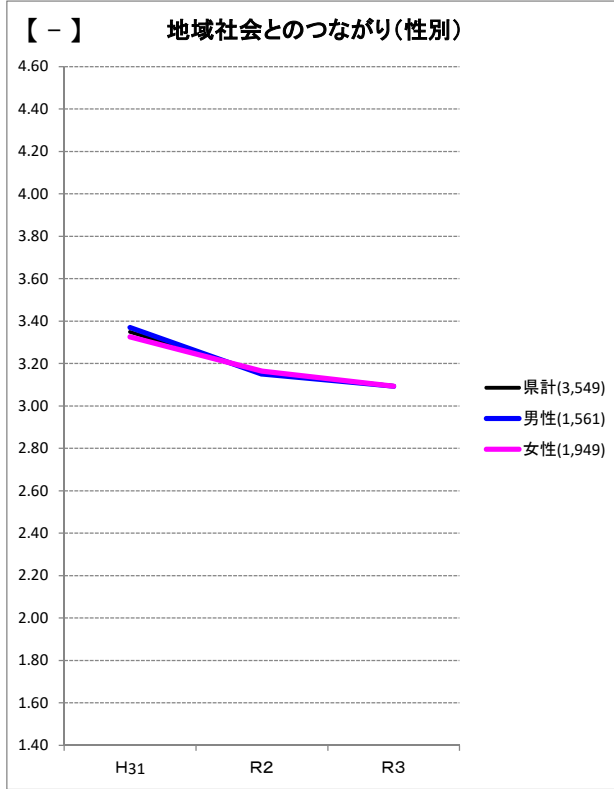
【-】 差が認められない

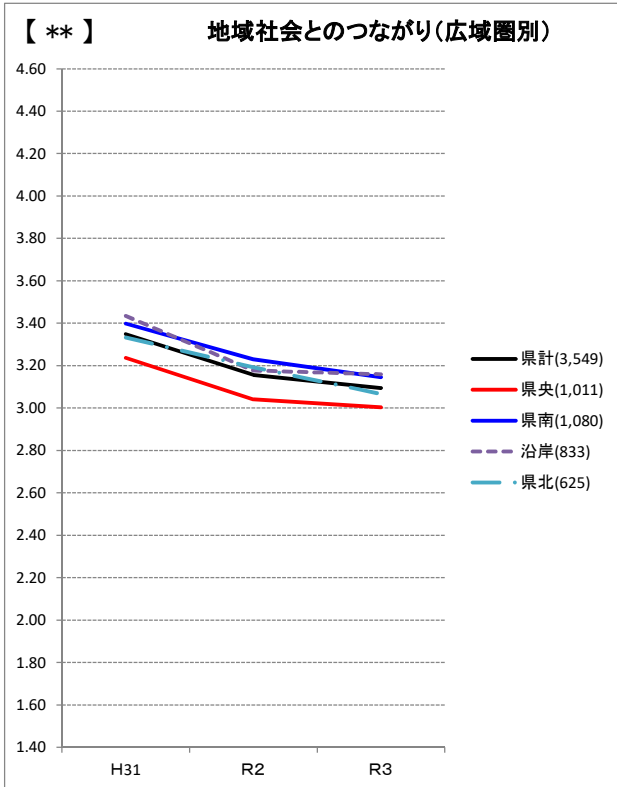
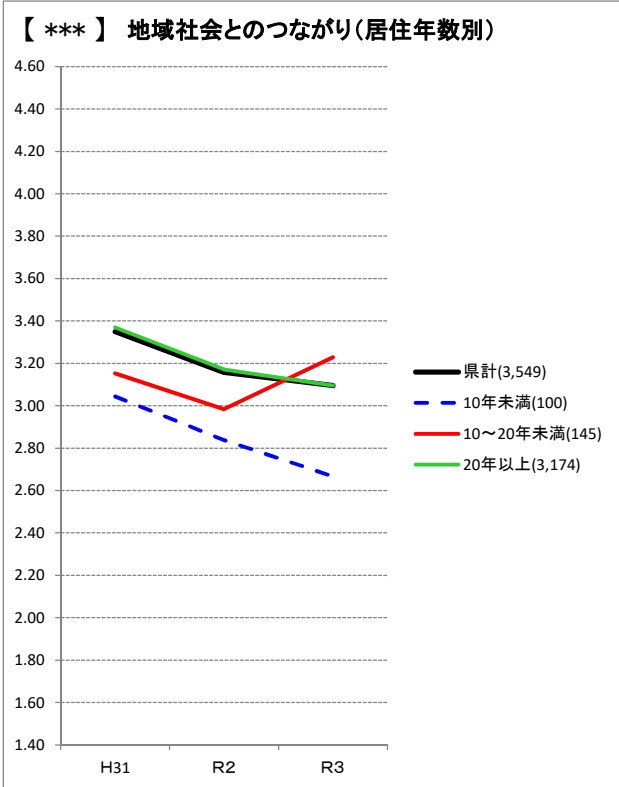
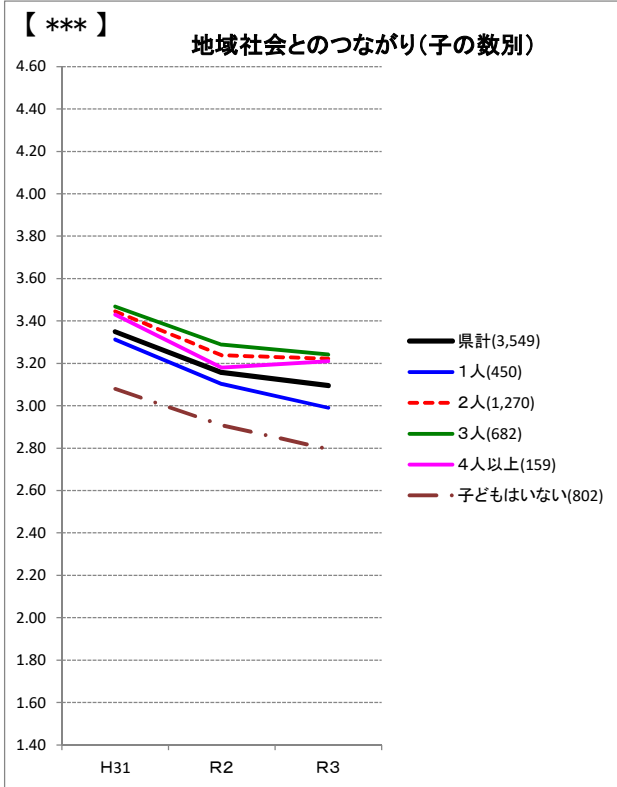
【県計】【分野別実感】⑦地域社会とのつながりを感じますか。

・令和3年調査結果において、属性別に見ると、年代別、職業別、世帯構成別、子の数別、居住年数別、広域振興圏別で有意な差が認められた。

年代別では、70歳以上が高く、20歳代が低かった。職業別では、自営業主が高く、常用雇用者が低かった。世帯構成別では、3世代世帯が高く、ひとり暮らしが低かった。子の数別では、子3人が高く、子どもはいないが低かった。居住年数別では、10～20年未満が高く、10年未満が低かった。広域振興圏別では、沿岸広域振興圏が高く、県央広域振興圏が低かった。

・実感平均値は、平成31年調査と比べて有意に低下している。





■凡例■

グラフ左上の*は、R3調査結果の属性別一元配置分散分析結果を示す。

【***】 1%水準で差が有意(差が認められる)

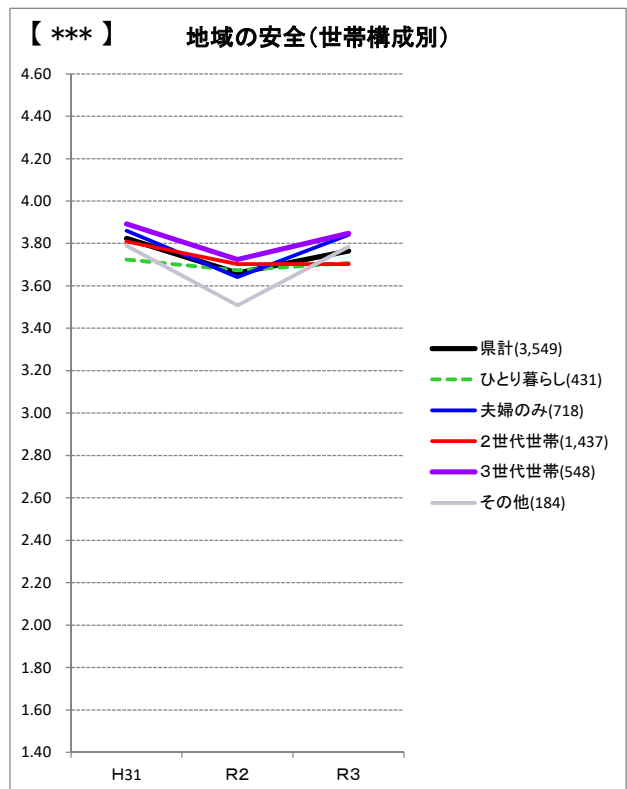
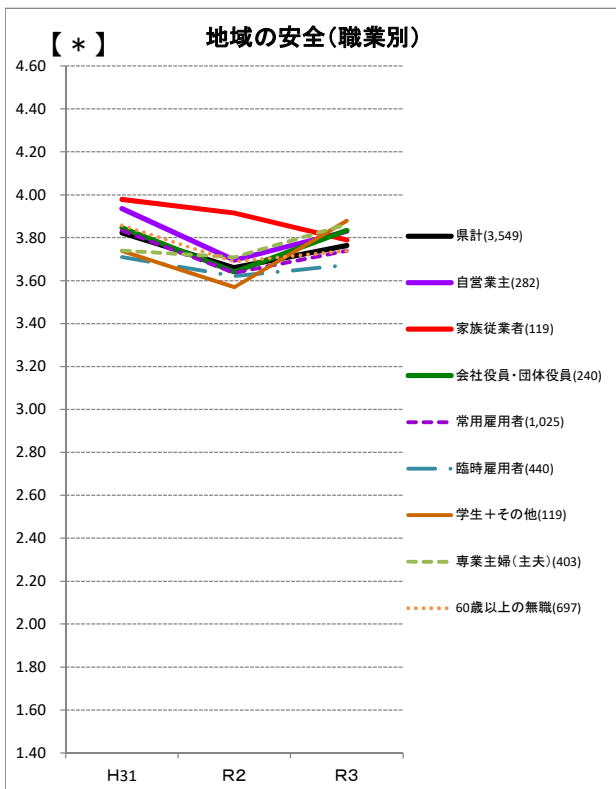
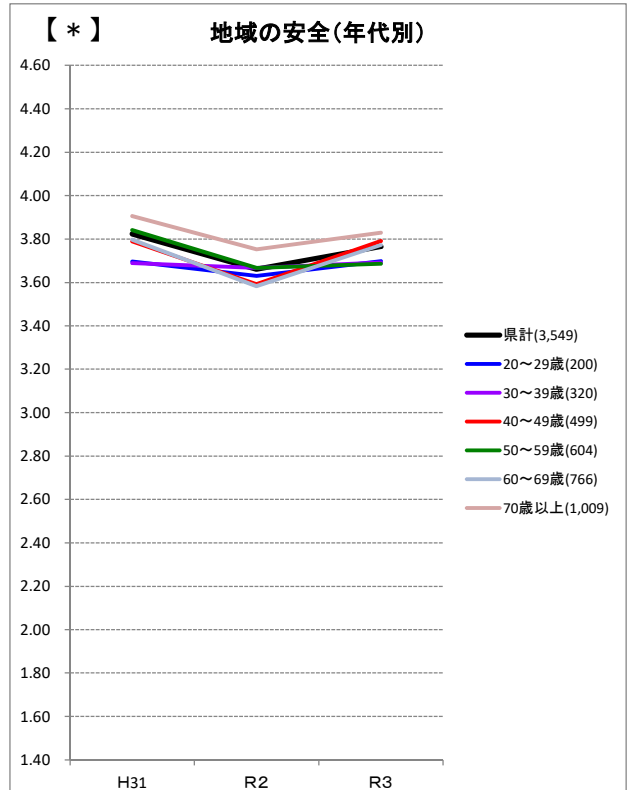
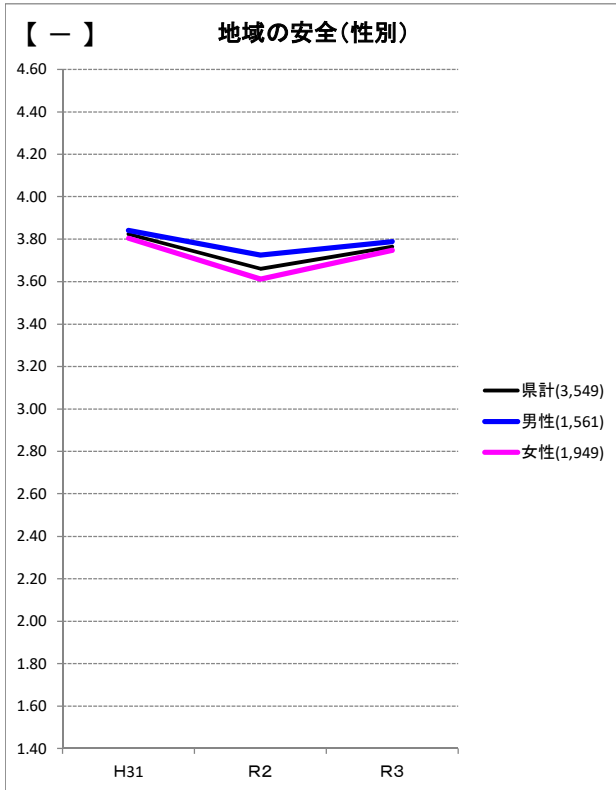
【**】 5%水準で差が有意(差が認められる)

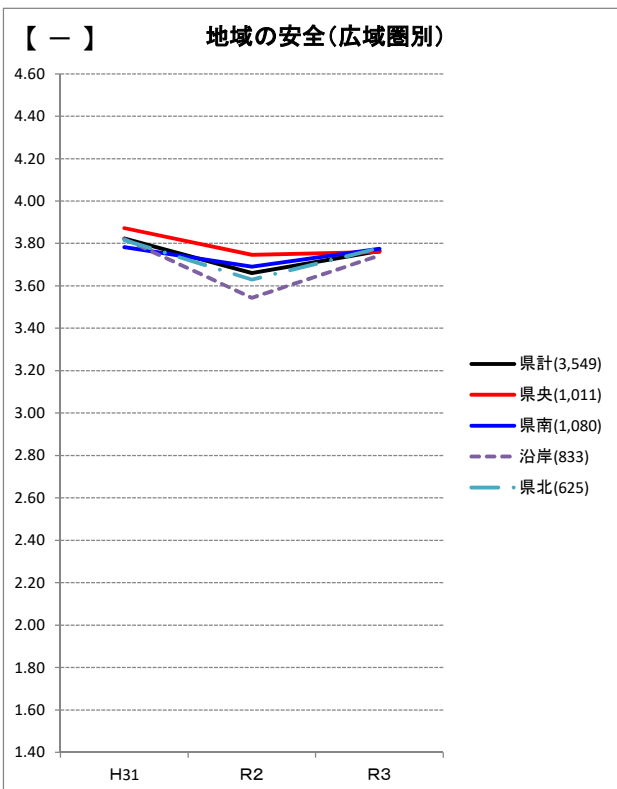
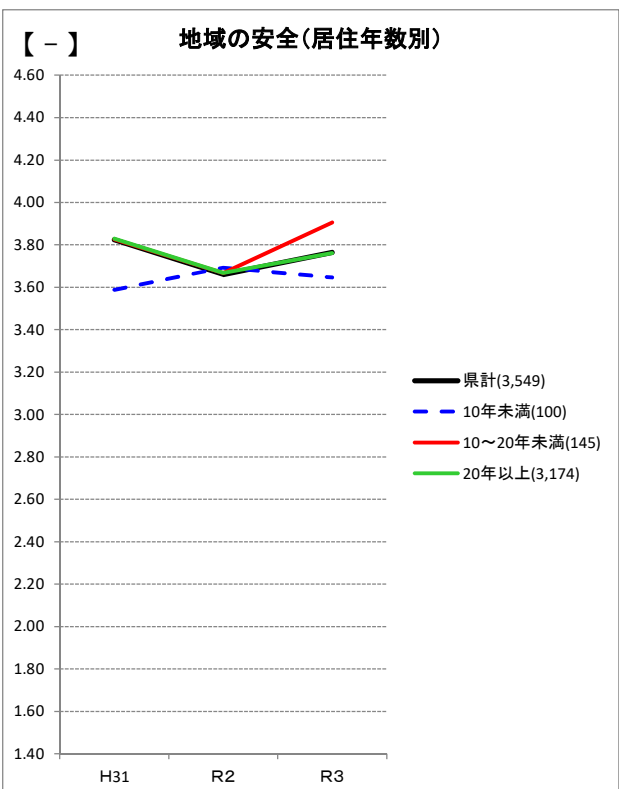
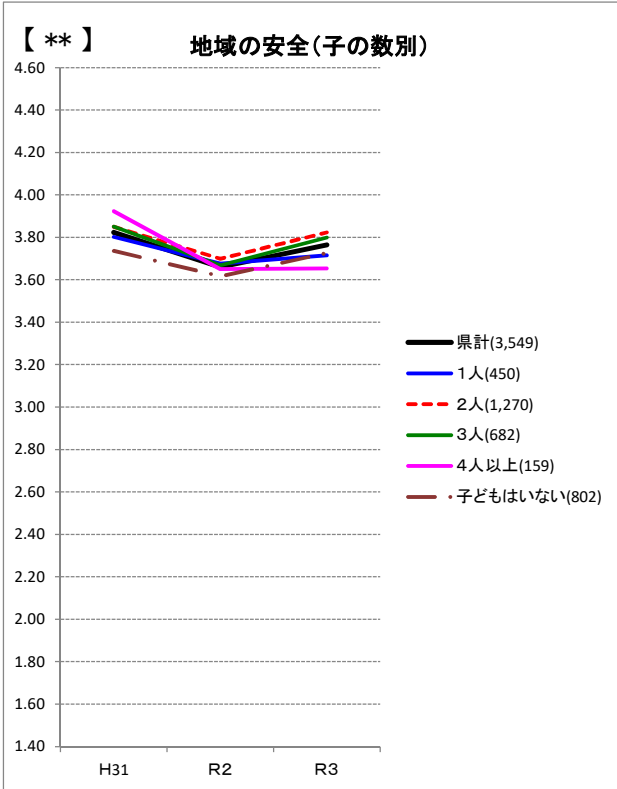
【*】 10%水準で差が有意(差が認められる)

【-】 差が認められない

【県計】【分野別実感】⑧お住まいの地域は安全だと感じますか。

- ・令和3年調査結果において、属性別に見ると、世帯構成別、子の数別で有意な差が認められた。
- ・世帯構成別では、3世代世帯が高く、2世代世帯が低かった。子の数別では、子2人が高く、子4人以上が低かった。
- ・実感平均値は、平成31年調査と比べて有意に低下している。





■凡例■

グラフ左上の*は、R3調査結果の属性別一元配置分散分析結果を示す。

【***】1%水準で差が有意(差が認められる)

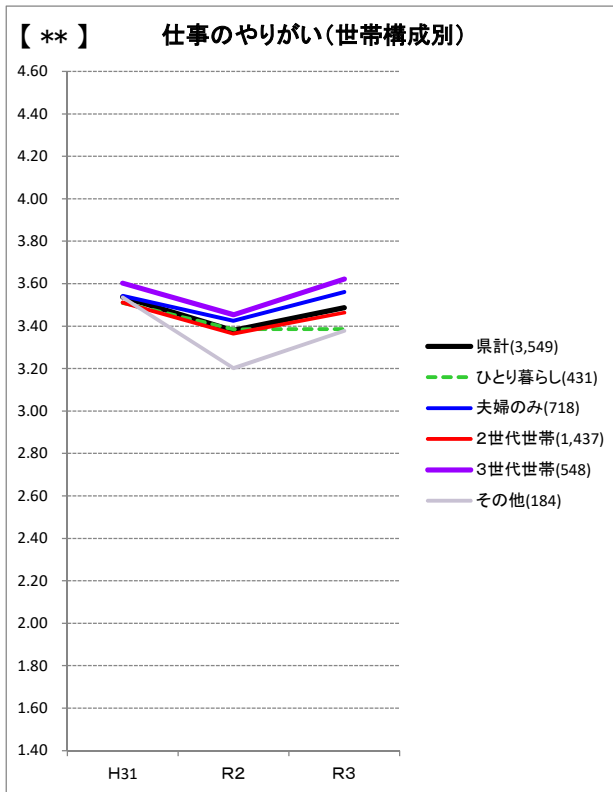
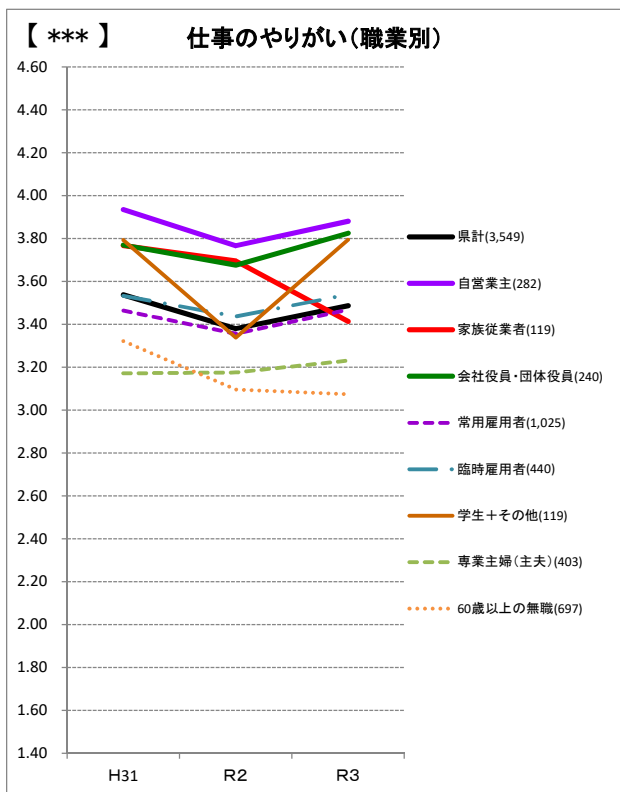
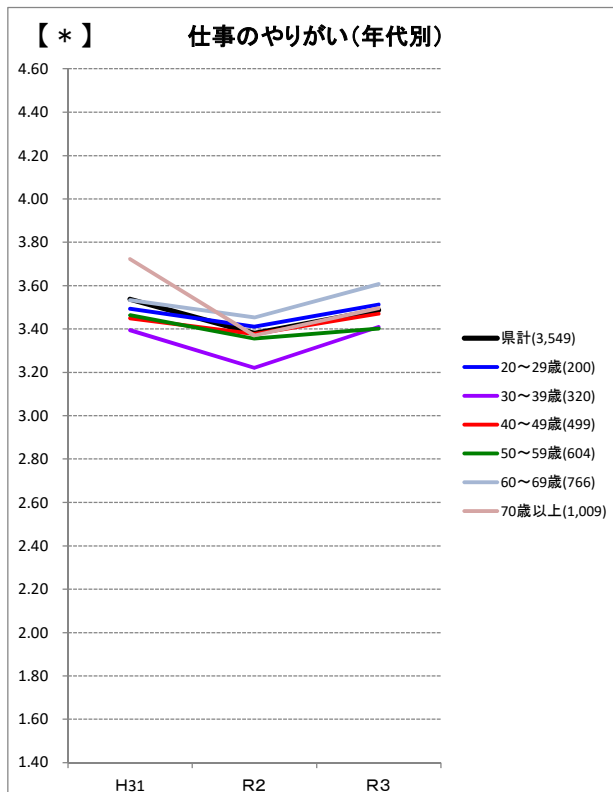
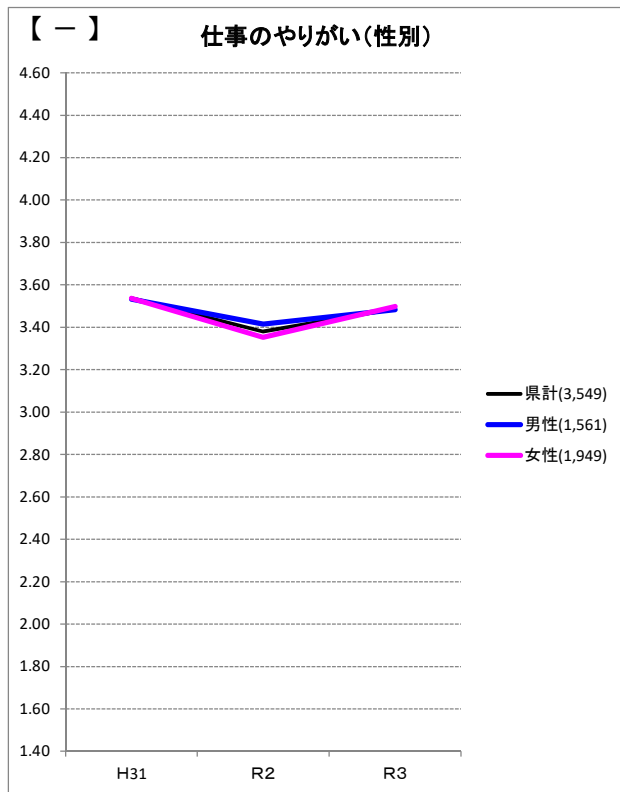
【**】5%水準で差が有意(差が認められる)

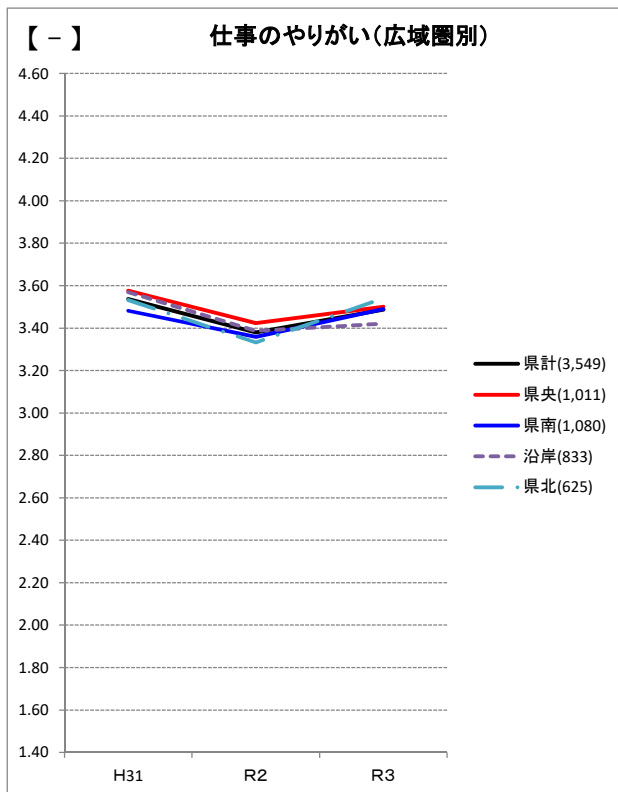
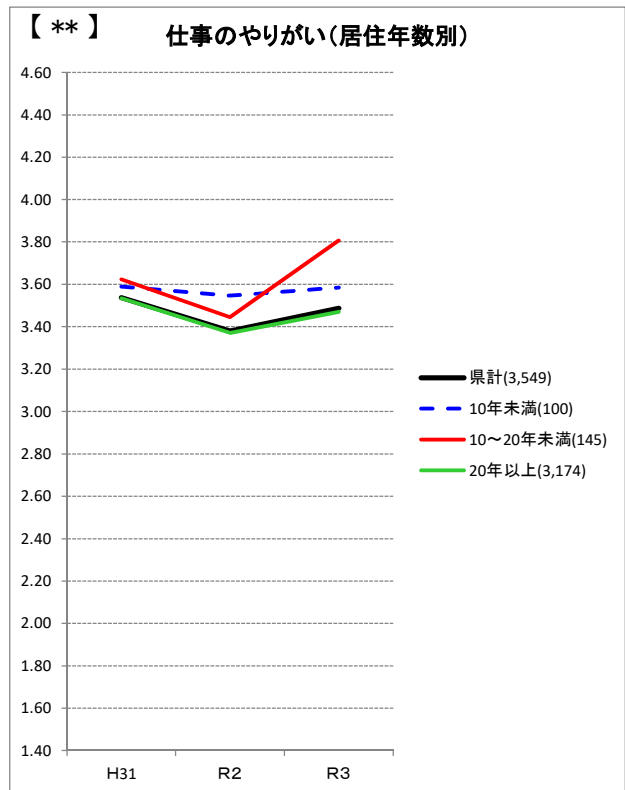
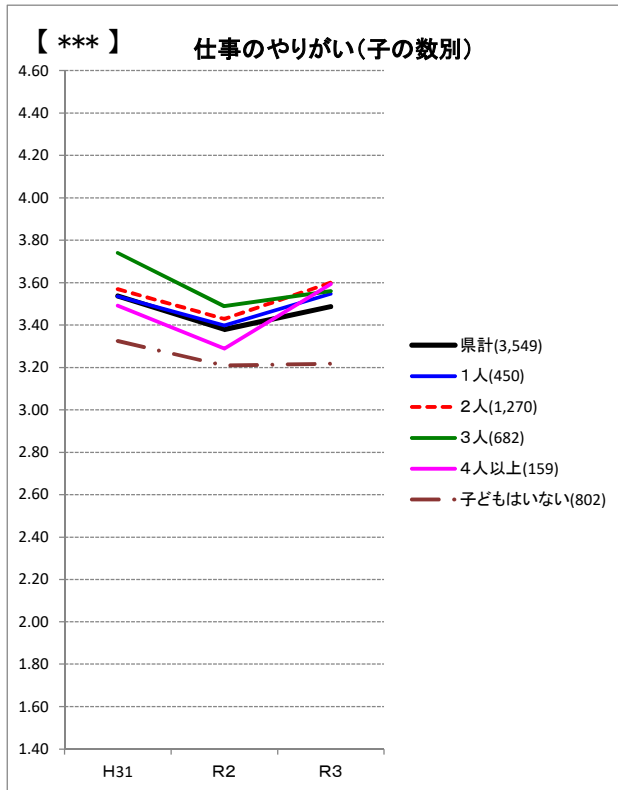
【*】10%水準で差が有意(差が認められる)

【-】差が認められない

【県計】【分野別実感】⑨仕事にやりがいを感じますか。

・令和3年調査結果において、属性別に見ると、職業別、世帯構成別、子の数別、居住年数別で有意な差が認められた。
 職業別では、自営業主が高く、60歳以上の無職が低かった。世帯構成別では、3世代世帯が高く、その他世帯が低かった。
 子の数別では、子2人が高く、子どもはいないが低かった。居住年数別では、10～20年未満が高く、20年以上が低かった。
 ・実感平均値は、平成31年調査と比べて有意な変化を確認できなかった。

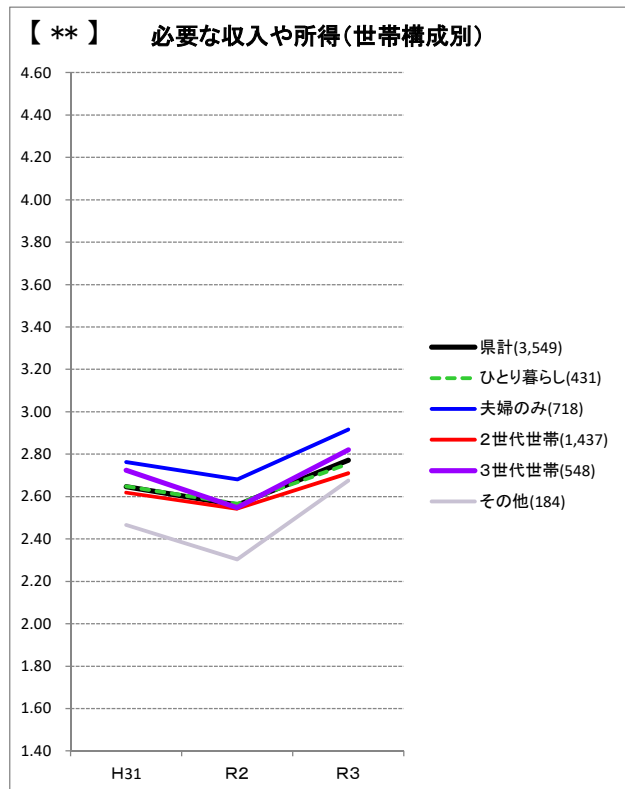
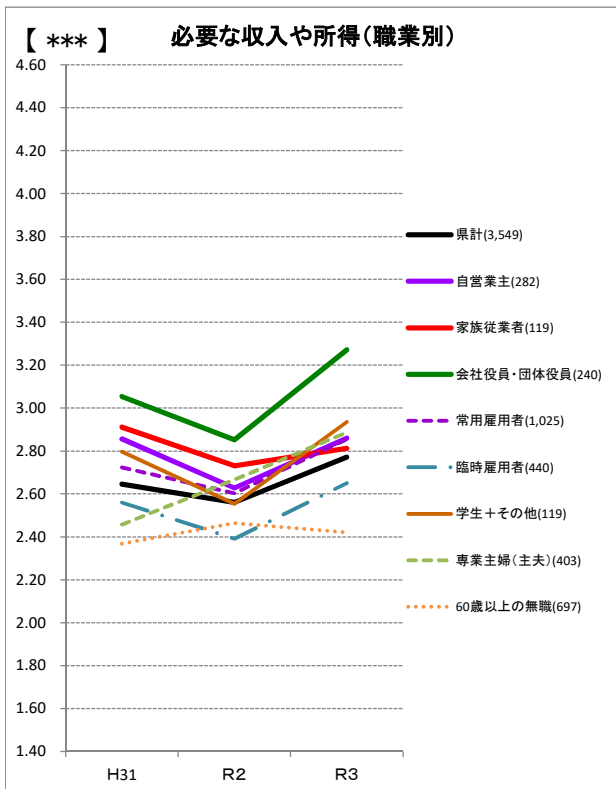
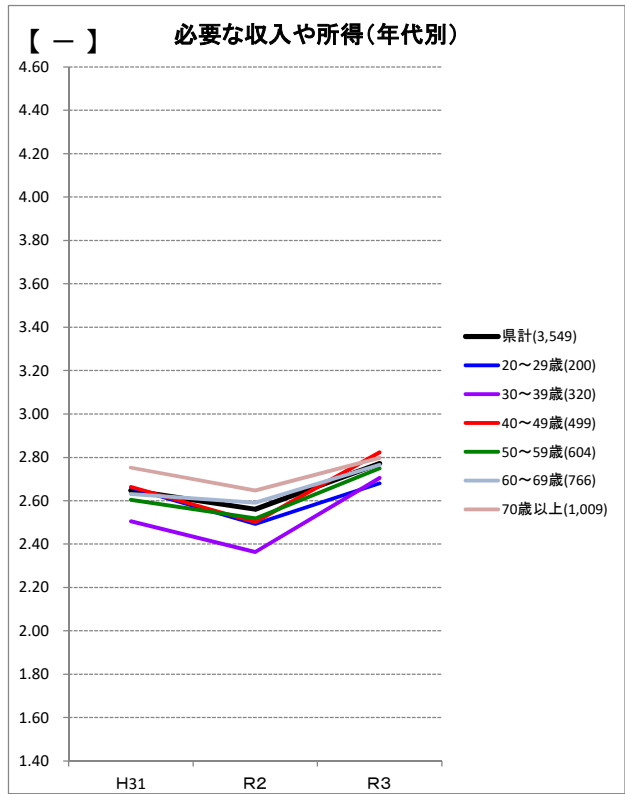
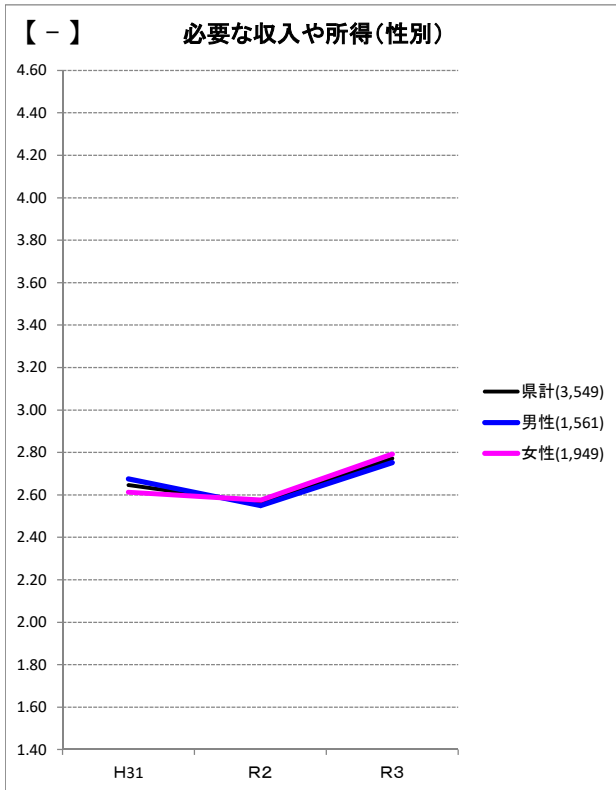


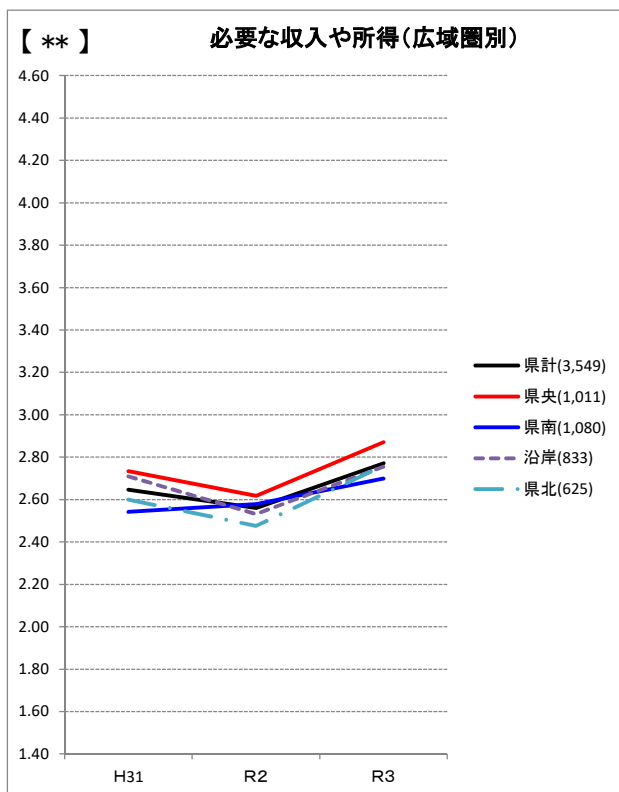
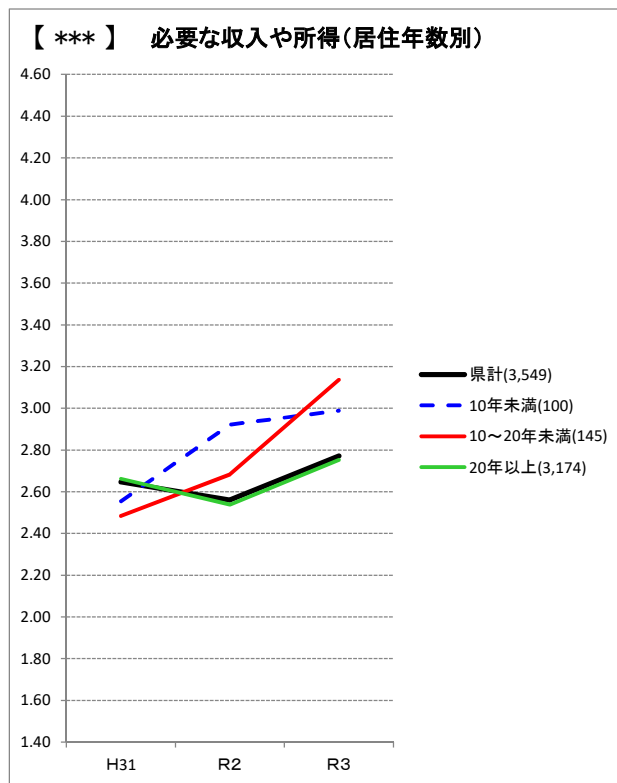
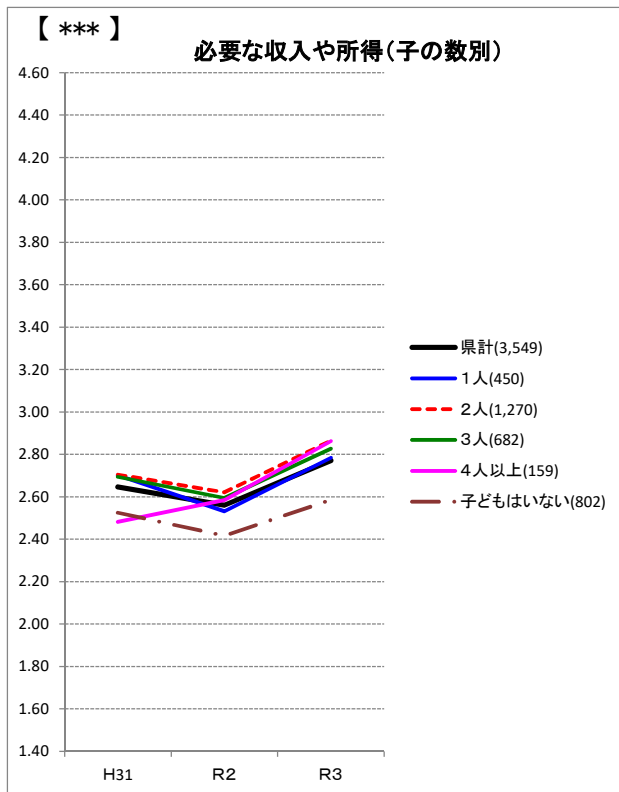


■凡例■
 グラフ左上の*は、R3調査結果の属性別一元配置分散分析結果を示す。
 【***】1%水準で差が有意(差が認められる)
 【**】5%水準で差が有意(差が認められる)
 【*】10%水準で差が有意(差が認められる)
 【-】差が認められない

【県計】【分野別実感】⑩必要な収入や所得が得られていると感じますか。

・令和3年調査結果において、属性別に見ると、職業別、世帯構成別、子の数別、居住年数別、広域振興圏別で有意な差が認められた。
 職業別では、会社役員・団体役員が高く、60歳以上の無職が低かった。世帯構成別では、夫婦世帯が高く、その他世帯が低かった。子の数別では、子2人が高く、子どもはいないが低かった。居住年数別では、10～20年未満が高く、20年以上が低かった。広域振興圏別では、県央広域振興圏が高く、県南広域振興圏が低かった。
 ・実感平均値は、平成31年調査と比べて有意に上昇している。





■ 凡例 ■

グラフ左上の*は、R3調査結果の属性別一元配置分散分析結果を示す。

【***】 1%水準で差が有意(差が認められる)

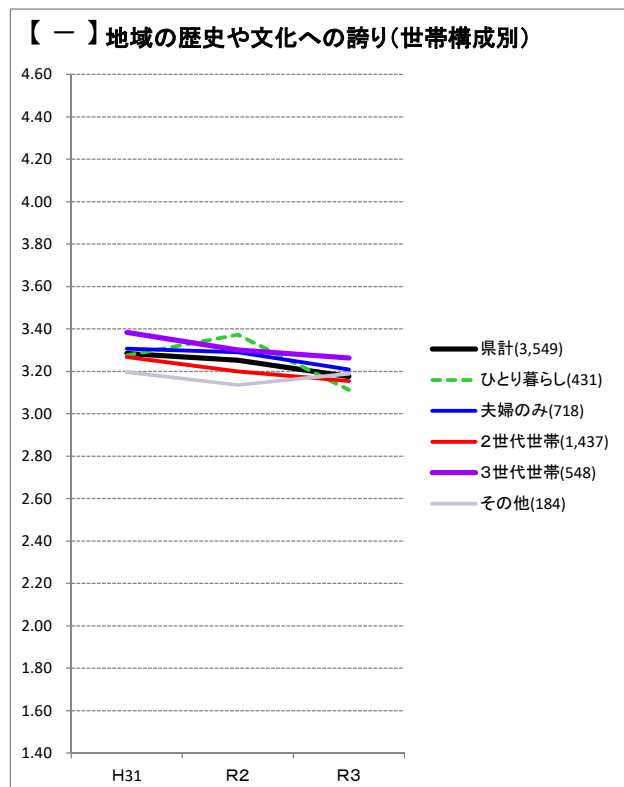
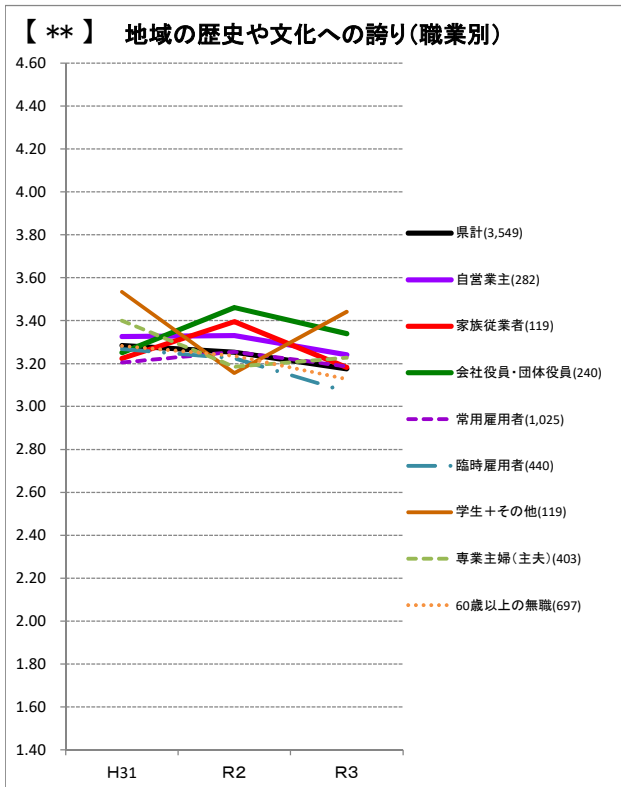
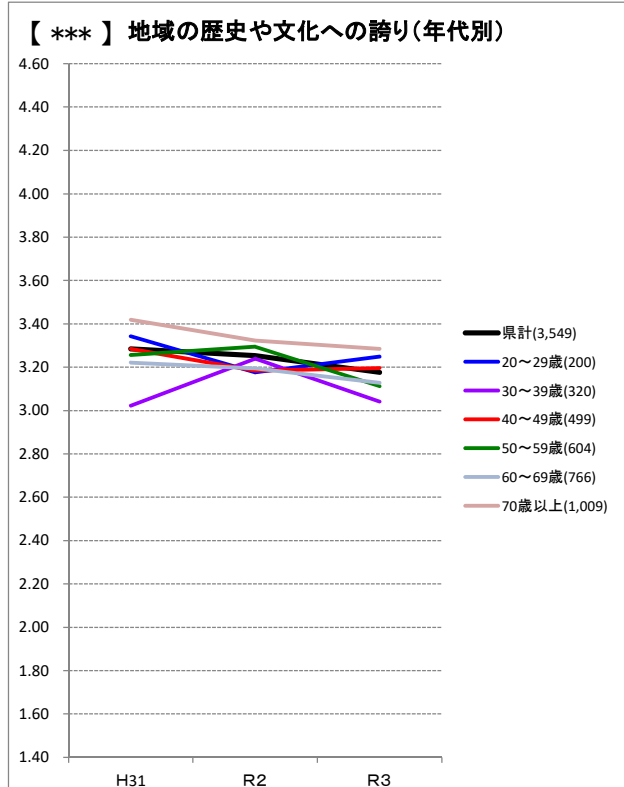
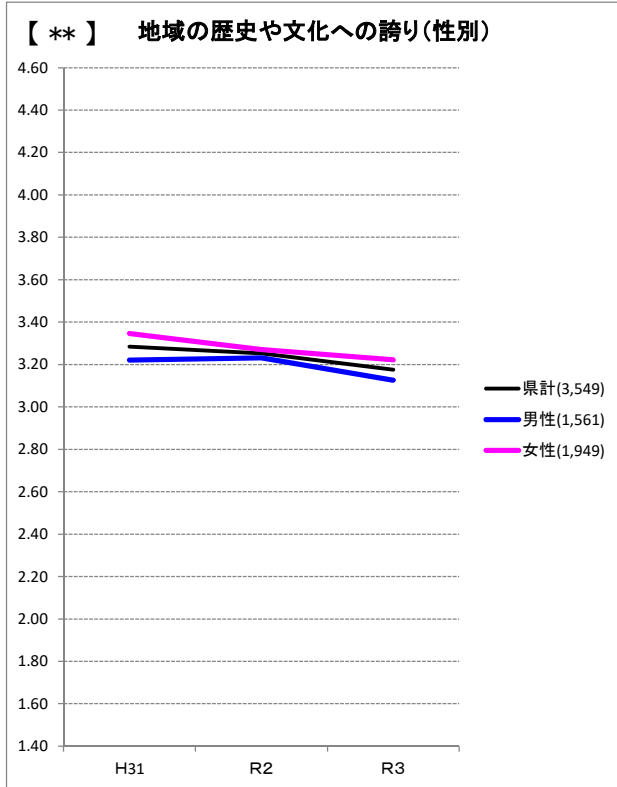
【**】 5%水準で差が有意(差が認められる)

【*】 10%水準で差が有意(差が認められる)

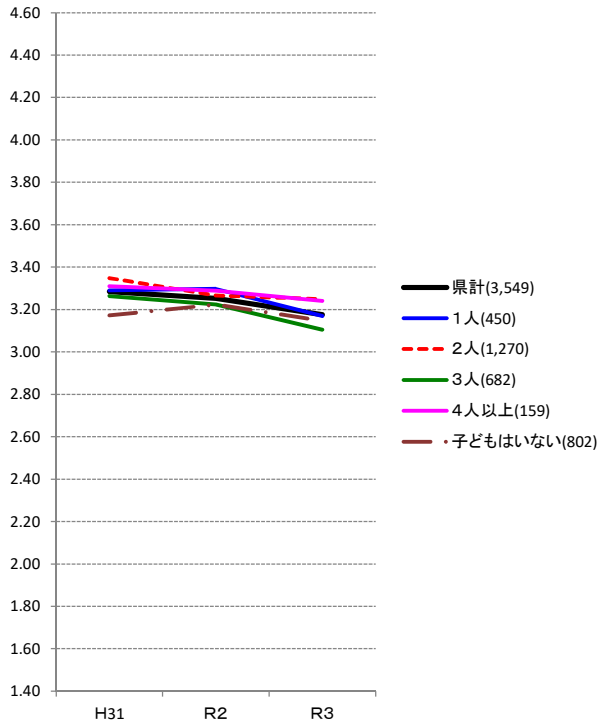
【-】 差が認められない

【県計】【分野別実感】⑪地域の歴史や文化に誇りを感じますか。

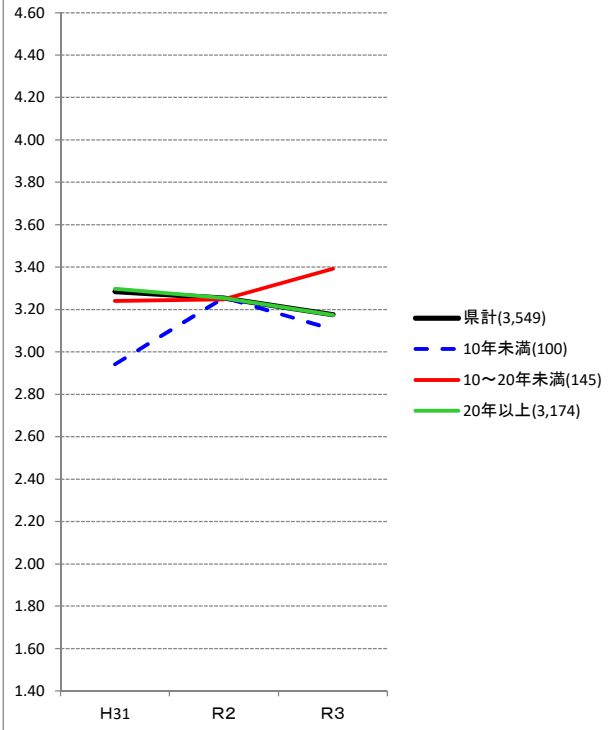
- ・令和3年調査結果において、属性別に見ると、性別、年代別、職業別、広域振興圏別で有意な差が認められた。
- ・性別では、女性が高く、男性が低かった。年代別では、70歳以上が高く、30歳代が低かった。職業別では、学生+その他が高く、臨時雇用者が低かった。広域振興圏別では、県央広域振興圏が高く、県北広域振興圏が低かった。
- ・実感平均値は、平成31年調査と比べて有意に低下している。



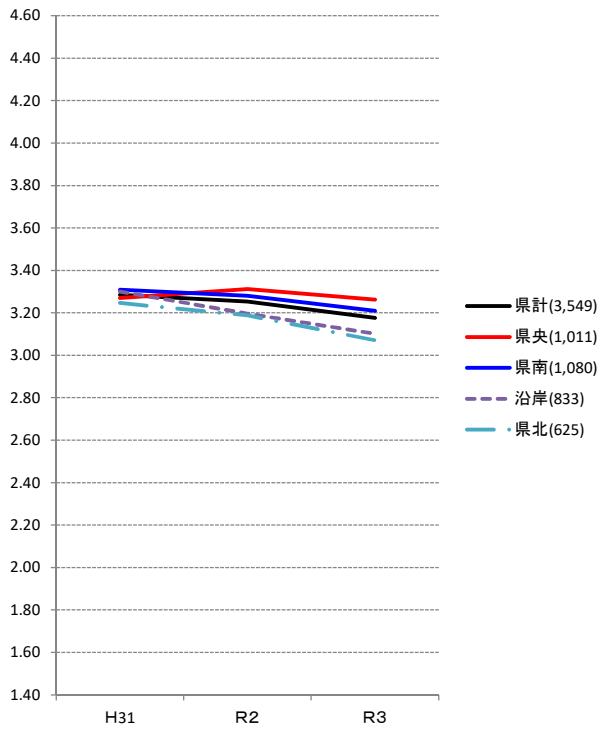
【*】 地域の歴史や文化への誇り(子の数別)



【*】 地域の歴史や文化への誇り(居住年数別)



【***】 地域の歴史や文化への誇り(広域圏別)



■凡例■

グラフ左上の*は、R3調査結果の属性別一元配置分散分析結果を示す。

【***】1%水準で差が有意(差が認められる)

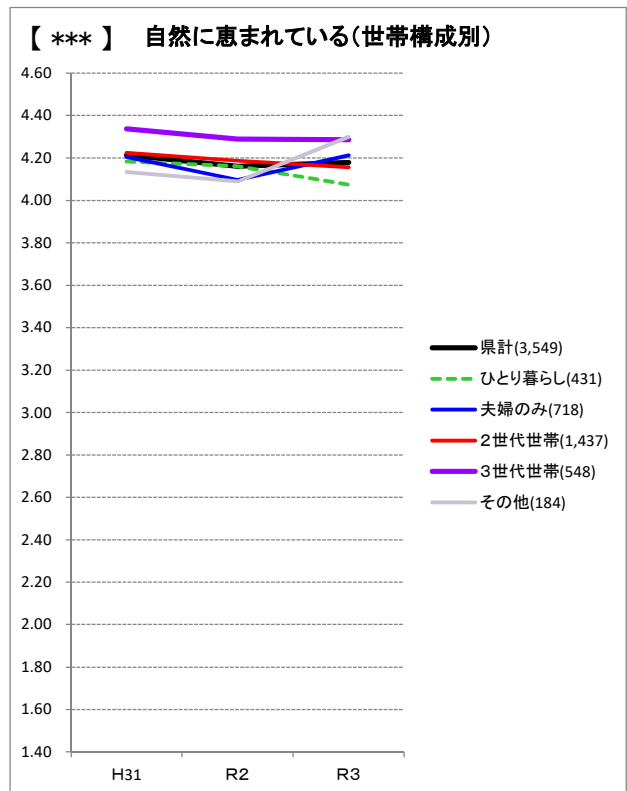
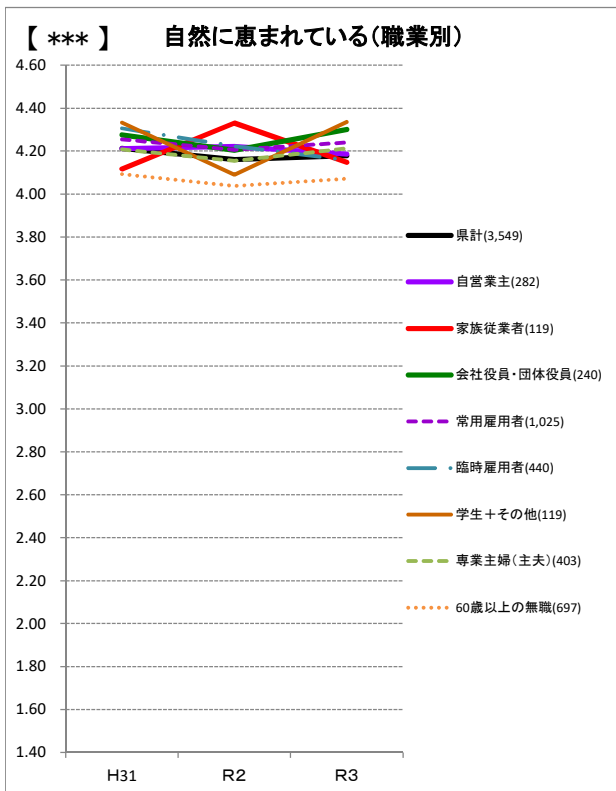
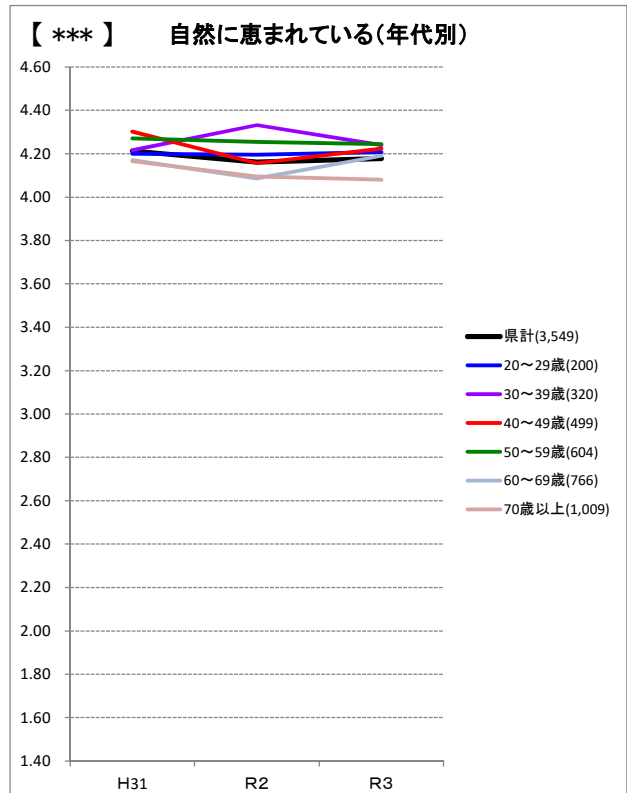
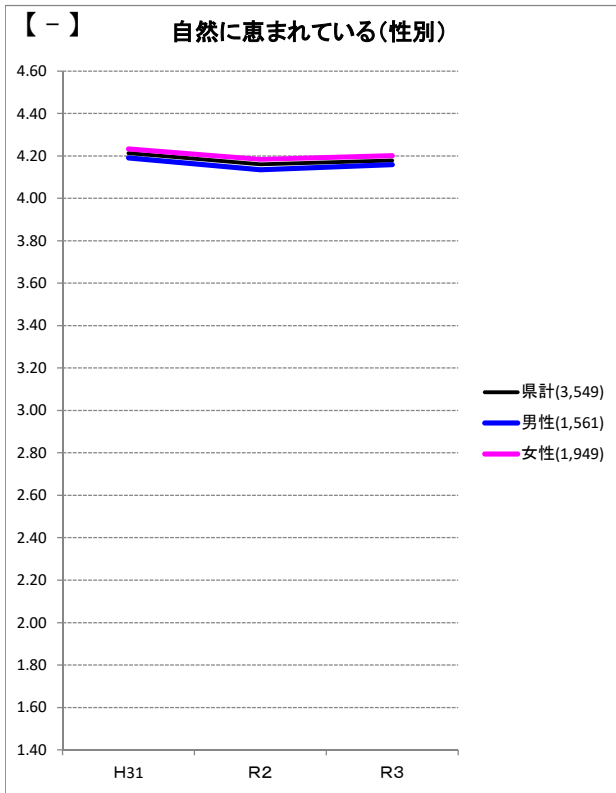
【**】5%水準で差が有意(差が認められる)

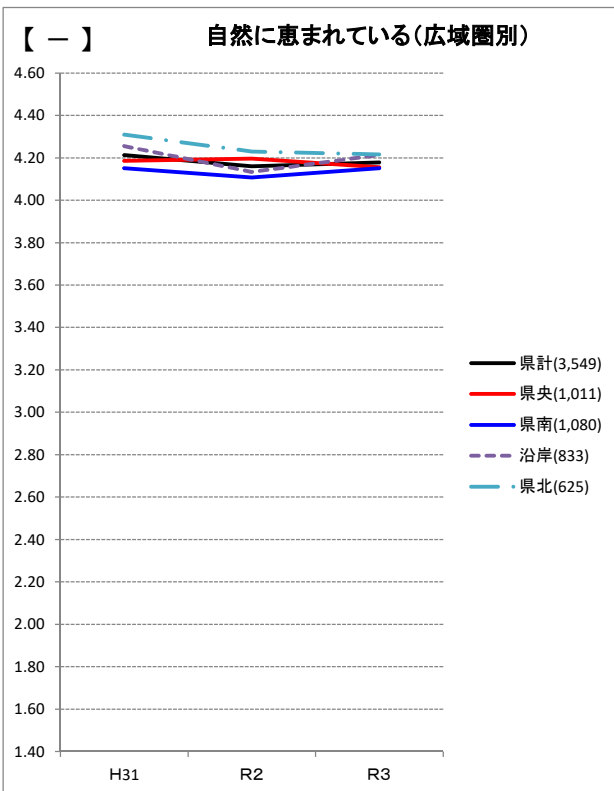
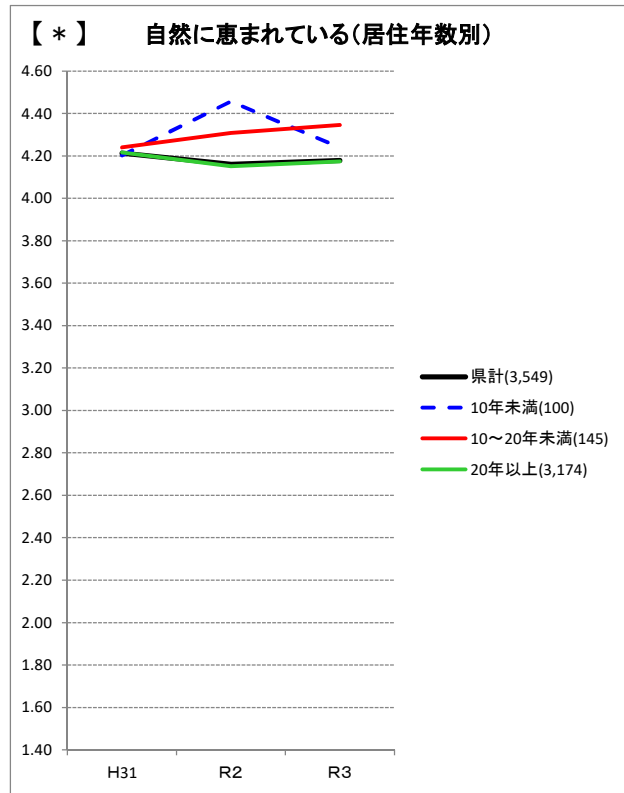
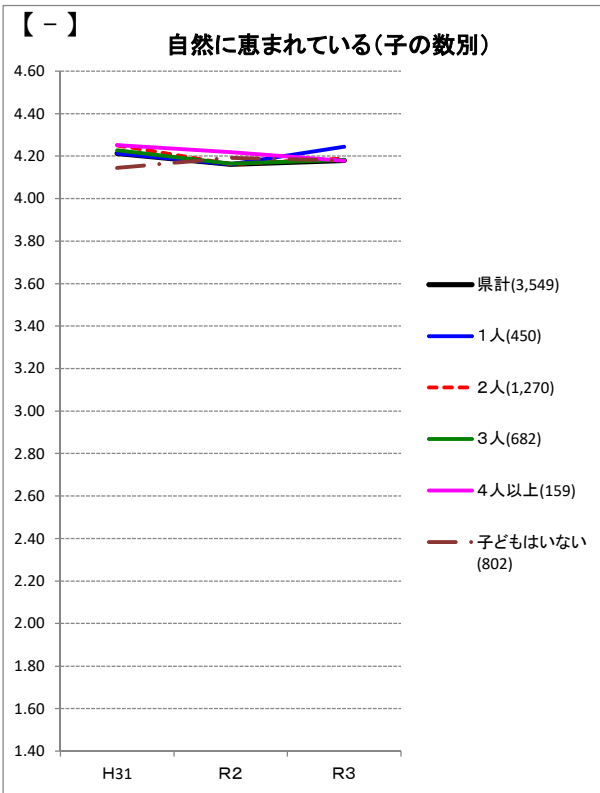
【*】10%水準で差が有意(差が認められる)

【-】差が認められない

【県計】【分野別実感】⑫自然に恵まれていると感じますか。

- ・令和3年調査結果において、属性別に見ると、年代別、職業別、世帯構成別で有意な差が認められた。
- ・年代別では、50歳代が高く、70歳以上が低かった。職業別では、学生+その他が高く、60歳以上の無職が低かった。世帯構成別では、その他世帯が高く、ひとり暮らしが低かった。
- ・実感平均値は、平成31年調査と比べて有意な変化を確認できなかった。





■凡例■
 グラフ左上の*は、R3調査結果の属性別一元配置分散分析結果を示す。
 【***】1%水準で差が有意(差が認められる)
 【**】5%水準で差が有意(差が認められる)
 【*】10%水準で差が有意(差が認められる)
 【-】差が認められない

県民意識調査の属性別分析【県計】

標本数

	H31	R2	R3	
性別	県計	3,327	3,387	3,549
	男性	1,611	1,494	1,561
	女性	1,693	1,807	1,949
年代	20～29歳	166	160	200
	30～39歳	293	273	320
	40～49歳	429	432	499
	50～59歳	553	598	604
	60～69歳	752	805	766
	70歳以上	986	1,028	1,009
職業	自営業主	309	291	282
	家族従業者	95	136	119
	会社役員・団体役員	207	198	240
	常用雇用者	885	885	1,025
	臨時雇用者	390	432	440
	学生＋その他	171	195	119
	専業主婦(主夫)	340	416	403
	60歳以上の無職	716	686	697
世帯構成	ひとり暮らし	402	374	431
	夫婦のみ	757	765	718
	2世代世帯	1,143	1,212	1,437
	3世代世帯	461	469	548
	その他	410	393	184
子の数	1人	428	442	450
	2人	1,232	1,227	1,270
	3人	637	646	682
	4人以上	160	168	159
	子どもはいない	710	725	802
居住年数	10年未満	101	95	100
	10～20年未満	125	131	145
	20年以上	2,961	2,994	3,174
広域圏	県央広域振興圏	938	966	1,011
	県南広域振興圏	1,014	993	1,080
	沿岸広域振興圏	800	837	833
	県北広域振興圏	575	591	625

【県民意識調査】分野別実感「子育てのしやすさ」（子育てがしやすいと感じますか）について

”子どもがいる”と回答した人の属性別平均点

参考

		H31 (基準年)	R2	R3	R3-H31 (対基準年 差)	有意確率	差が有意 (5%水準)	R3-H31 (寄与度)	R3-R2 (対前年差)	有意確率	差が有意 (5%水準)	R3-R2 (寄与度)
県計		3.08	3.07	3.16	0.08	0.01	**	0.08	0.09	0.00	**	0.09
子どもがいると回答した人		3.15	3.13	3.22	0.07	0.05		0.05	0.09	0.01	**	0.06
性別	男性	3.15	3.11	3.19	0.04	0.41		0.01	0.09	0.09		0.03
	女性	3.15	3.15	3.24	0.09	0.07		0.04	0.09	0.05	**	0.04
	その他(参考)		5.00	3.50					▲ 1.50	0.10		▲ 0.00
年代別	18～19歳(参考)	3.00	5.00	2.75	▲ 0.25	0.90		▲ 0.00	▲ 2.25	0.32		▲ 0.00
	20～29歳	3.05	3.12	3.30	0.25	0.49		0.00	0.18	0.62		0.00
	30～39歳	3.21	3.06	3.44	0.23	0.05		0.01	0.38	0.00	**	0.02
	40～49歳	3.17	3.13	3.35	0.18	0.05	**	0.02	0.22	0.01	**	0.02
	50～59歳	3.12	3.05	3.08	▲ 0.04	0.62		▲ 0.00	0.03	0.65		0.00
	60～69歳	3.02	3.07	3.12	0.09	0.16		0.02	0.05	0.47		0.01
	70歳以上	3.30	3.27	3.27	▲ 0.02	0.74		▲ 0.01	0.00	0.94		0.00
職業別	自営業主	3.22	3.14	3.29	0.08	0.50		0.01	0.15	0.20		0.01
	家族従業者	3.21	3.30	3.20	▲ 0.01	0.94		▲ 0.00	▲ 0.11	0.48		▲ 0.00
	会社役員・団体役員	3.11	3.02	3.39	0.28	0.04	**	0.01	0.38	0.00	**	0.02
	常用雇用者	3.15	3.07	3.22	0.07	0.26		0.01	0.15	0.02	**	0.03
	臨時雇用者	3.11	3.13	3.19	0.08	0.35		0.01	0.06	0.51		0.01
	学生+その他	3.12	2.92	3.20	0.08	0.75		0.00	0.28	0.19		0.00
	専業主婦(主夫)	3.08	3.18	3.28	0.21	0.05	**	0.00	0.10	0.28		0.00
	60歳未満の無職(参考)	2.67	2.77	3.14	0.48	0.18		0.00	0.37	0.29		0.00
	60歳以上の無職	3.23	3.23	3.08	▲ 0.15	0.11		▲ 0.02	▲ 0.15	0.06		▲ 0.02
世帯構成別	ひとり暮らし	3.01	3.11	3.03	0.02	0.91		0.00	▲ 0.09	0.49		▲ 0.01
	夫婦のみ	3.09	3.16	3.16	0.07	0.38		0.01	▲ 0.00	0.96		▲ 0.00
	2世代世帯	3.17	3.11	3.25	0.09	0.11		0.03	0.15	0.01	**	0.04
	3世代世帯	3.25	3.22	3.26	0.00	0.95		0.00	0.04	0.58		0.01
	その他	3.13	3.01	3.38	0.26	0.09		0.01	0.38	0.01	**	0.01
居住年数別	10年未満	3.02	3.23	3.13	0.11	0.63		0.00	▲ 0.10	0.68		▲ 0.00
	10～20年未満	3.27	3.12	3.41	0.14	0.51		0.00	0.29	0.22		0.01
	20年以上	3.16	3.13	3.22	0.06	0.09		0.04	0.09	0.01	**	0.06
広域圏別	県央広域振興圏	3.29	3.18	3.36	0.07	0.26		0.01	0.19	0.00	**	0.04
	県南広域振興圏	3.00	3.13	3.17	0.17	0.01	**	0.04	0.04	0.50		0.01
	沿岸広域振興圏	3.23	3.12	3.17	▲ 0.06	0.43		▲ 0.01	0.04	0.53		0.01
	県北広域振興圏	3.11	3.09	3.16	0.05	0.57		0.01	0.07	0.37		0.01

サンプル数

(単位：人)

		H31	R2	R3
県計		3,327	3,387	3,549
子どもがいると回答した人		2,457	2,483	2,561
性別	男性	1,128	1,030	1,045
	女性	1,320	1,444	1,509
	その他(参考)		2	4
年代別	18～19歳(参考)	2	1	5
	20～29歳	21	30	29
	30～39歳	184	141	168
	40～49歳	288	290	347
	50～59歳	423	444	454
	60～69歳	643	666	652
	70歳以上	887	895	900
職業別	自営業主	253	235	234
	家族従業者	75	115	105
	会社役員・団体役員	141	137	164
	常用雇用者	595	578	684
	臨時雇用者	313	330	322
	学生+その他	101	97	38
	専業主婦(主夫)	316	365	371
	60歳未満の無職(参考)	14	14	19
	60歳以上の無職	606	570	588
世帯構成別	ひとり暮らし	214	212	206
	夫婦のみ	635	647	595
	2世代世帯	930	967	1,066
	3世代世帯	400	396	481
	その他	240	235	115
居住年数別	10年未満	62	51	54
	10～20年未満	60	51	61
	20年以上	2,304	2,358	2,425
広域圏別	県央広域振興圏	695	701	697
	県南広域振興圏	776	740	798
	沿岸広域振興圏	588	605	622
	県北広域振興圏	398	437	444

補足調査における歴史・文化への誇りの回答理由について

(1) 「11 誇りを感じる歴史・文化が見当たらない」の経年の回答状況

実感が低下した理由として「11 誇りを感じる歴史・文化が見当たらない」と回答した人の昨年からの回答状況を下表により整理した。

なお、参考まで「12 地域の歴史や文化に関心がない」についても併せて整理した。

表 1 実感が低下した人の回答理由の2年間の推移（回答理由 11 及び 12）

	選択した人数
H31～R3 において実感が低下した人	114
R3 調査で「11 誇りを感じる歴史・文化が見当たらない」を選択した人	44
うち、2年連続で回答理由 11 を選択した人	20
R3 調査で「12 地域の歴史や文化に関心がない」を選択した人	17
うち、回答理由が2年連続で 12 であった人	8

(2) 実感が低下した理由として「11 誇りを感じる歴史・文化が見当たらない」を選択した人の可処分所得の状況

今年調査において、実感が低下した理由として「11 誇りを感じる歴史・文化が見当たらない」を回答理由として選択した人は 44 人となっており、その可処分所得の状況を表 2 にとりまとめた。

表 2 R3 年で「あまり感じない・感じない」と回答した人の所得の状況

所得の状況	回答した人数 (人)	割合 (%)
100 万円未満	6	13.6
100 万円以上 300 万円未満	25	56.8
300 万円以上 500 万円未満	4	9.1
500 万円以上 700 万円未満	0	0
700 万円以上 1000 万円未満	3	6.8
1000 万円以上 5500 万円未満	0	0
1500 万円以上	0	0
不明	6	13.6
合 計	44	100

岩手県総合計画審議会

「県民の幸福感に関する分析部会」

令和 3 年度年次レポート（素案）

令和 3 年〇月

目次

第1章	本報告書の内容	1
第2章	令和3年度の分析事項	1
第3章	調査結果	
1	「県の施策に関する県民意識調査」の結果	3
1.1	調査目的及び対象等	
1.2	調査結果の概要	
2	「県の施策に関する県民意識調査（補足調査）」の結果	9
2.1	調査目的及び対象等	
2.2	調査結果の概要	
第4章	分析結果	
1	分析方針	12
2	主観的幸福感について	19
3	分野別実感について	22
3.1	実感が低下した分野	
3.2	実感が上昇した分野	
3.3	実感が横ばいの分野	
第5章	まとめ	
1	主観的幸福感について	47
2	分野別実感について	47
<参考>		
1	県民の幸福感に関する分析部会運営要領	51
2	県民の幸福感に関する分析部会委員等名簿	52
3	令和3年度における部会開催状況等	52

第1章 本報告書の内容

県では、2019年3月に「いわて県民計画(2019～2028)」(以下「県民計画」という。)を策定しました。

本計画では、県民の幸福を守り育てることを基本目標に掲げ、県民の幸福に関連する10の政策分野を設定するとともに、それぞれにいわて幸福関連指標を設定して取組を展開することとしています。

計画の推進に当たっては、政策評価に基づく「政策推進プラン(2019年度～2022年度)」の進捗管理を行うこととしており、いわて幸福関連指標を始めとする客観的指標の達成状況に加え、県民がどの程度幸福を実感しているかといった県民意識や、社会経済情勢も踏まえた総合評価を行い、政策立案に反映させていくことが必要です。

そこで、岩手県総合計画審議会において、令和元年6月に「県民の幸福感に関する分析部会」(以下「分析部会」という。)を設置し、「県の施策に関する県民意識調査」(以下「県民意識調査」という。)で把握した県民の幸福に関する様々な実感を分析することとしています。

この報告書は、令和3年度における分析部会の分析結果をとりまとめたものです。

第2章 令和3年度の分析事項

県では、県民の主観的幸福感や幸福に関する分野別実感について、毎年、無作為抽出により5,000人の対象者を選定して行う県民意識調査により把握しています。

しかし、当該調査のみでは、分野別実感の変動要因を推測することは困難であることから、調査対象者を固定した継続調査を行うこととし、令和元年度の分析部会において、県民意識調査を補足する「県の施策に関する県民意識調査(補足調査)」(以下「補足調査」という。)の設計を行いました。補足調査は、県民計画の開始直前に当たる平成31年県民意識調査の回答者のうち、補足調査にご協力いただける者から600人を調査対象者として固定し、令和2年1月より県民意識調査と同時期に実施しています。

表1 県民意識調査と補足調査

	県民意識調査	補足調査
目的	県民計画に基づいて実施する県の施策について、県民がどの程度重要性を感じ、現在の状況にどの程度満足しているか、また、どの程度幸福度を感じているか等を把握し、今後、県が重点的に取り組むべき施策の方向性等を明らかにすること	県民意識調査で把握した分野別実感の変動要因を把握し、政策評価に反映していくこと (対象者を固定することで、対象者の実感が前回調査から変動した項目を把握し、県民意識調査の分野別実感の変動した要因を推測する)
対象	県内に居住する18歳以上の男女	県内に居住する18歳以上の男女
調査人数	5,000人	600人(各広域振興圏150人)※
抽出方法	選挙人名簿からの層化二段無作為抽出(回答者は毎年変更)	基準年(平成31年)の県民意識調査回答者のうち補足調査にご協力いただける者から選定し、毎年固定
調査時期	毎年1月～2月	毎年1月～2月

※R3年補足調査は、県内在住で調査に御協力いただける598人を対象として実施

今年度の分析部会では、県民意識調査で得られた主観的幸福感と分野別実感について、以下の方法により分析を行いました。

- 令和3年県民意識調査結果の属性分析
 県民意識の属性別での特徴を把握するため、令和3年県民意識調査結果を対象に、主観的幸福感と分野別実感の属性差の有無を分析
- 平成31年（基準年）～令和3年県民意識調査結果の時系列分析
 - ・ 県民意識の変化の状況を把握するため、平成31年から令和3年までの県民意識調査結果から、2時点間で有意に変化した分野別実感や属性の有無を分析
 - ・ 2時点間で実感が低下・上昇した分野について、補足調査において当該分野別実感が低下した人の回答項目等から、実感が低下・上昇した要因を推測
- 令和3年県民意識調査の実感に対する新型コロナウイルス感染症の影響を検討
 県民意識調査における分野別の新型コロナウイルス感染症の影響に係る県民実感と、影響が顕著に見られる前の令和2年調査と影響後の令和3年調査における分野別実感の変動状況等から、新型コロナウイルス感染症の影響を検討
- 平成28年～令和3年県民意識調査結果の時系列分析
 平成28年から令和3年までの県民意識調査結果から、分野別実感の平均値が一貫して低値（3点未満）又は高値（4点以上）で推移している属性について、補足調査において当該属性に該当する人で、低値にあつては、「感じない・あまり感じない」、高値にあつては「感じる・やや感じる」と回答した項目等から要因を推測

表2 分析等に係るスケジュール

年度	調査		分析
平成27年度 (H28.1)～	幸福実感に係る調査を開始		—
令和元年度			<ul style="list-style-type: none"> ・ 補足調査の設計 ・ 過去の県民意識調査の分析
令和2年度			<ul style="list-style-type: none"> ・ 県民意識調査に係る分野別実感の変動要因の分析
令和3年度	県民意識調査	補足調査	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県民意識調査に係る分野別実感の変動要因の分析
令和4年度			<ul style="list-style-type: none"> ・ 県民意識調査に係る分野別実感の変動要因の分析 ・ 分野別実感と「いわて幸福関連指標」との関連性の検討
令和5年度 以降			—

第3章 調査結果

1 「県の施策に関する県民意識調査」の結果

1.1 調査目的及び対象等

- ① 調査目的 県民計画に基づいて実施する県の施策について、県民がどの程度重要性を感じ、現在の状況にどの程度満足しているか、また、どの程度幸福度を感じているか等を把握し、今後、県が重点的に取り組むべき施策の方向性等を明らかにすること
- ② 調査対象 県内に居住する18歳以上の男女
- ③ 対象者数 5,000人
- ④ 抽出方法 選挙人名簿からの層化二段無作為抽出
- ⑤ 調査方法 設問票によるアンケート調査（郵送法）
- ⑥ 調査時期 令和3年1～2月（毎年調査）
- ⑦ 回収者数 3,549人
- ⑧ 有効回収率 71.0%
- ⑨ 回答者の属性

【性別】	回答者数	割合
男性	1,561	(44.0)
女性	1,949	(54.9)
その他	6	(0.2)
不明	33	(0.9)

【居住地別】	回答者数	割合
県央広域振興圏	1,011	(28.5)
県南広域振興圏	1,080	(30.4)
沿岸広域振興圏	833	(23.5)
県北広域振興圏	625	(17.6)

【年齢別】	回答者数	割合
18～19歳	53	(1.5)
20～29歳	200	(5.6)
30～39歳	320	(9.0)
40～49歳	499	(14.1)
50～59歳	604	(17.0)
60～69歳	766	(21.6)
70歳以上	1,009	(28.4)
不明	98	(2.8)

【職業別】	回答者数	割合
自営業主	282	(7.9)
家族従業者	119	(3.4)
会社役員・団体役員	240	(6.8)
常用雇用者	1,025	(28.9)
臨時雇用者	440	(12.4)
学生	68	(1.9)
専業主婦(主夫)	403	(11.4)
無職	775	(21.8)
その他	51	(1.4)
不明	146	(4.1)

()内は%

(注) 小数点第1位未満四捨五入の関係から、割合の計が100%にならない場合があります。

1.2 調査結果の概要

① 主観的幸福感（設問：あなたは現在、どの程度幸福だと感じていますか。）

県全体の主観的幸福感については、幸福と感じる（「幸福だと感じる」又は「やや幸福だと感じる」）と回答した人が 55.4%（基準年調査：52.3%、前年調査：56.2%）、幸福と感じない（「幸福だと感じない」又は「あまり幸福だと感じない」）と回答した人が 16.1%（基準年調査：52.3%、前年調査：19.3%）となっており、新型コロナウイルス感染症の影響があった中においても、幸福と感じている人の割合は横ばいで推移しています。

また、主観的幸福感について、「幸福だと感じる」から「幸福だと感じない」までの 5 段階の選択肢に応じて 5 点から 1 点を配点したところ、県全体の平均値は、5 点満点中 3.52 点（基準年調査：3.43 点、前年調査：3.48 点）となり、上昇傾向にあります。

図1 【県民意識調査】主観的幸福感（県計）の推移〔割合〕

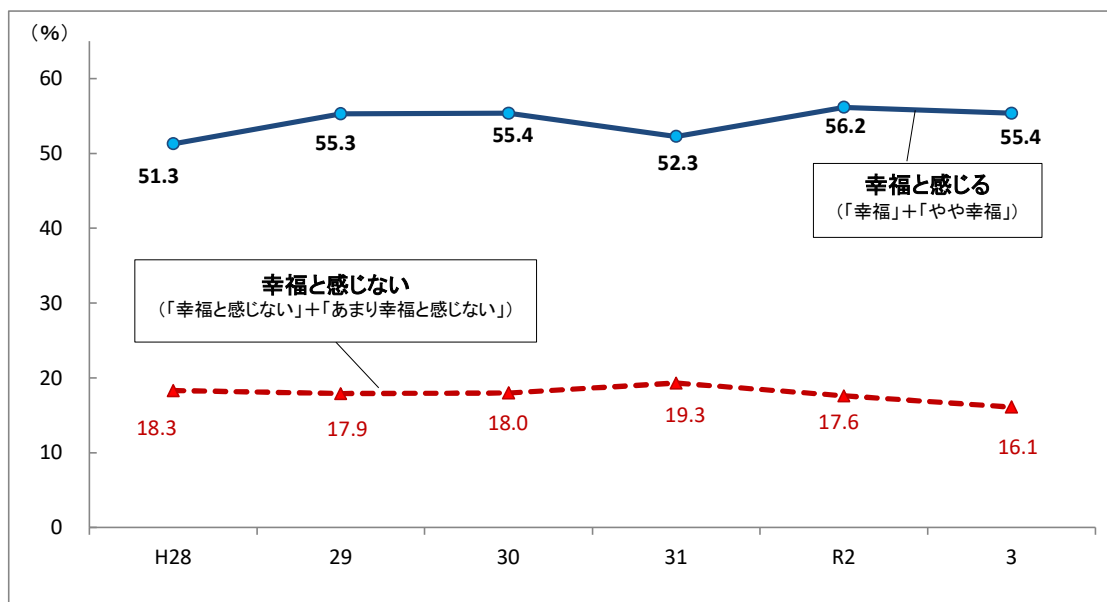
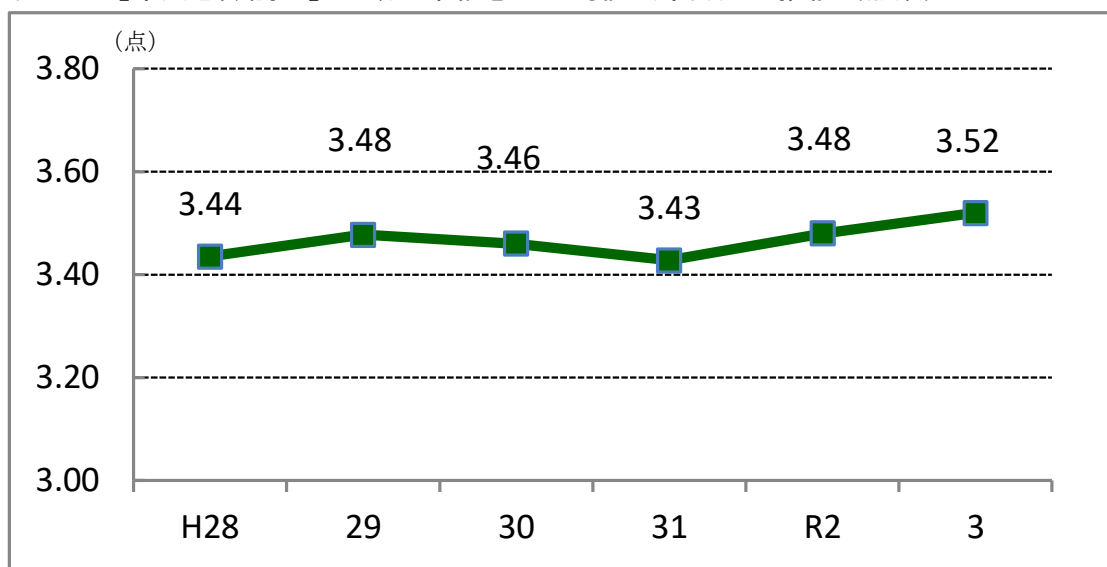


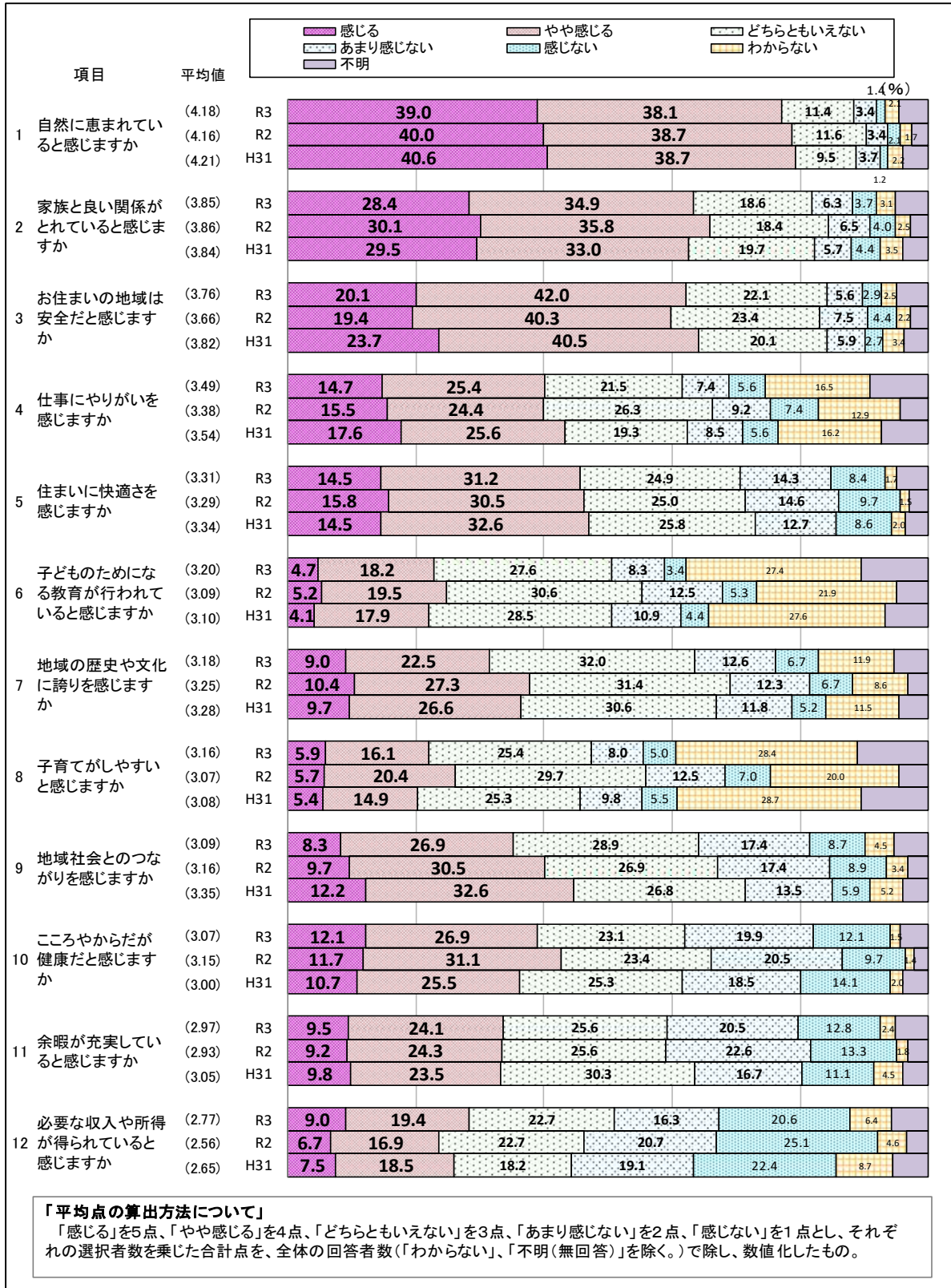
図2 【県民意識調査】主観的幸福感の平均値（県計）の推移〔点数〕



② 分野別実感（設問：現在のあなたご自身のことについて、おたずねします。）

12 分野について実感を聞いた結果、「自然のゆたかさ」の実感が4点を超えているほか、「家族関係」や「地域の安全」の実感も基準年と同様に高くなっている一方で、「収入・所得」の実感は引き続き低くなっています。（下図は、令和3年調査の分野別実感の平均値が高い順に整理しています。）

図3 【県民意識調査】分野別実感の回答状況

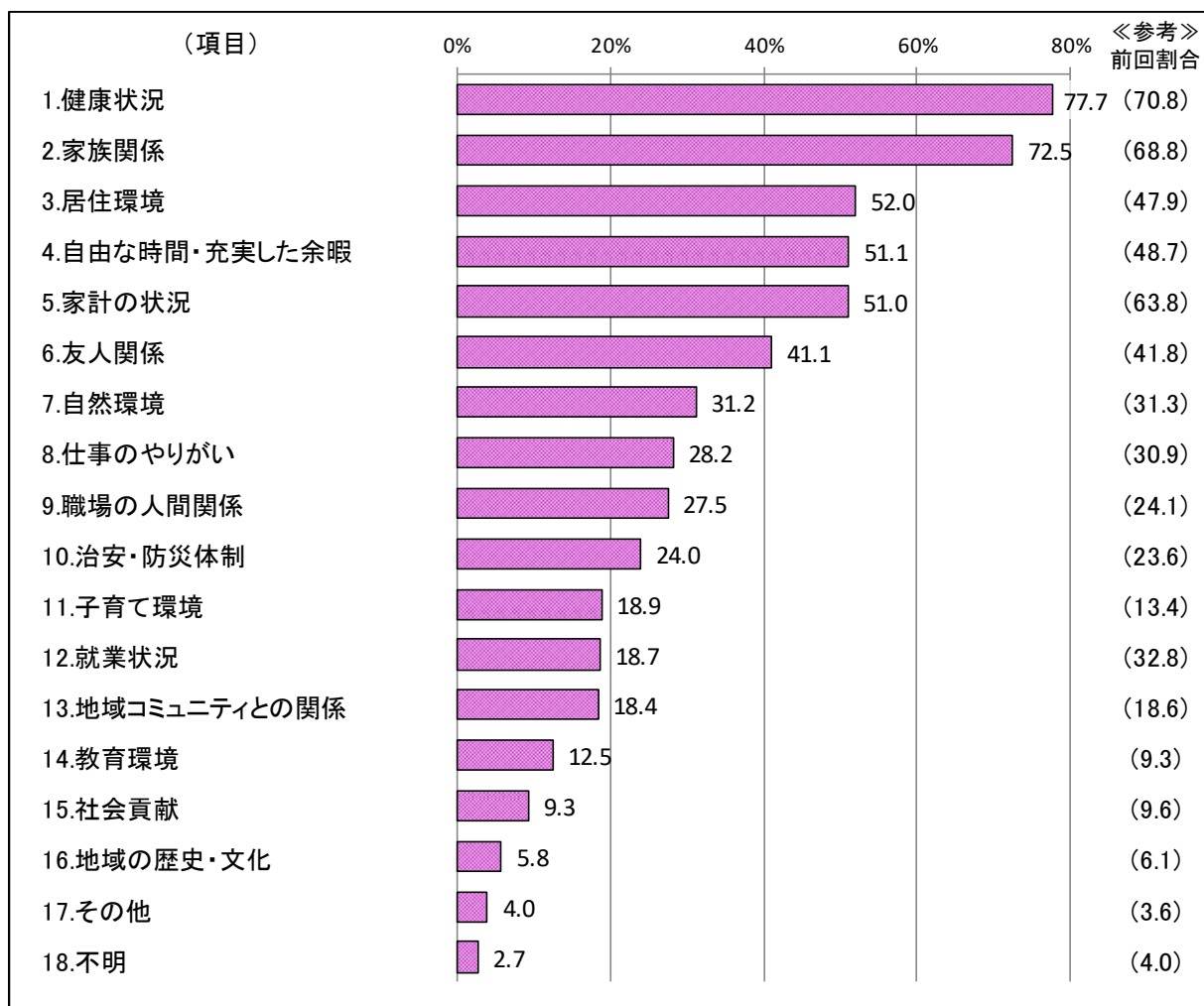


③ 幸福を判断する際に重視する事項

(設問：あなたが幸福かどうか判断する際に重視した事項は何ですか。)

幸福かどうか判断する際に重視すると回答した項目は、前年までの調査結果と同様に、「健康状況」や「家族関係」が特に高い結果となっています。

図4 【県民意識調査】幸福を判断する際に重視する事項の回答状況



(注) 県民意識調査結果の分析データについて

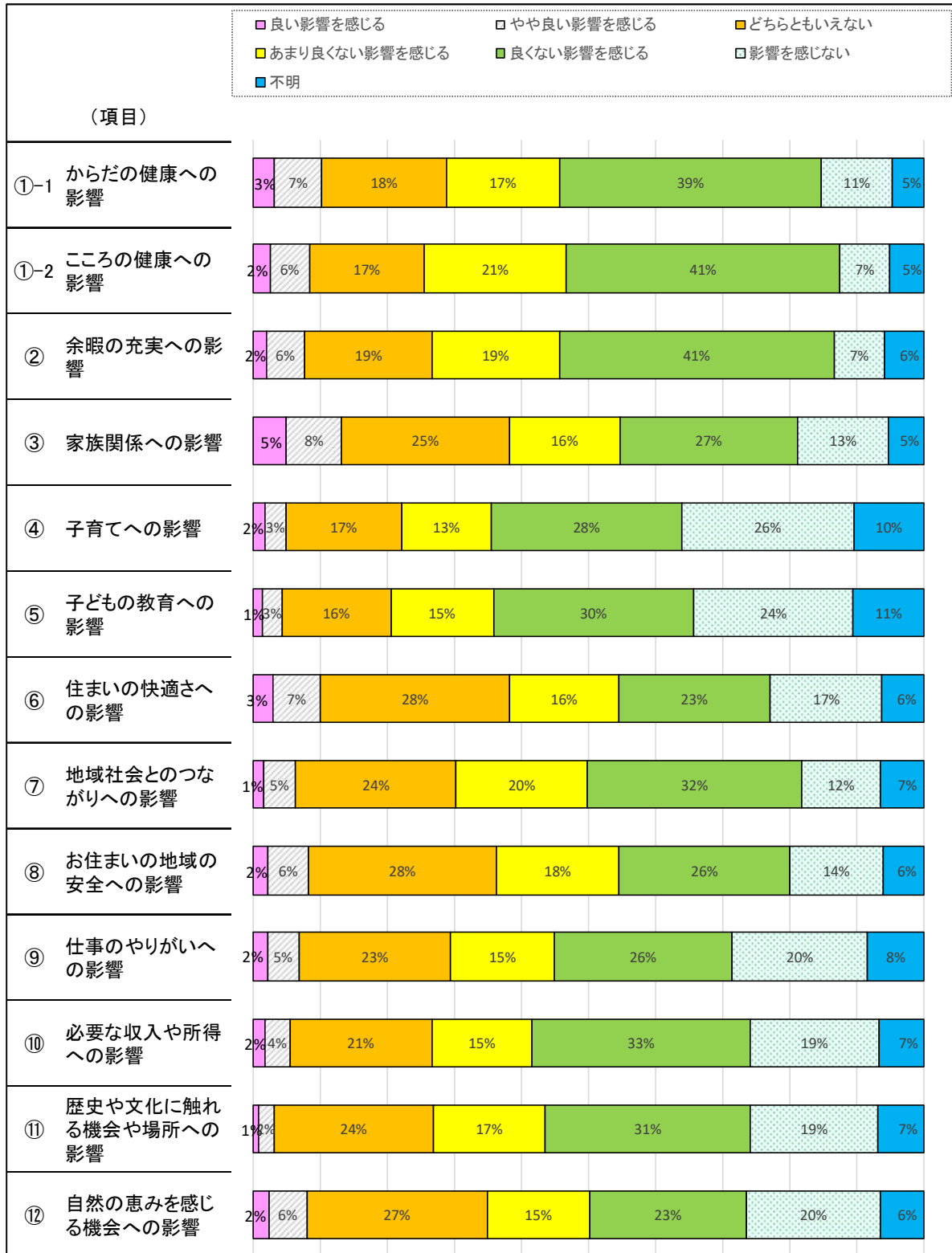
別途公表している県民意識調査結果は、回答者数の地域差を考慮し、居住人口に応じた係数を乗じて集計（母集団拡大集計）を行っていますが、当分析部会の分析データは単純集計結果を用いているため、分析結果は、既に公表されている県民意識調査結果と数値が異なる場合があります。

④ 新型コロナウイルス感染症の影響について

(設問：あなたは新型コロナウイルス感染症の影響についてどのように感じていますか。)

新型コロナウイルス感染症の影響についての分野別の回答結果は、図5のとおりであり、特に「こころの健康」や「余暇の充実」において良くない影響を感じた人が多くなっています。

図5 【県民意識調査】新型コロナウイルス感染症の影響に係る項目の回答状況



2 「県の施策に関する県民意識調査（補足調査）」の結果

2.1 調査目的及び対象等

- ① 調査目的 県民計画を着実に推進していくため、県民意識調査で把握した分野別実感の変動要因を把握し、政策評価に反映していくこと
- ② 調査対象 岩手県内に居住する18歳以上の男女
- ③ 対象者数 598人（各広域振興圏約150人）
- ④ 抽出方法 県民計画の開始直前に当たる平成31年県民意識調査の回答者のうち、補足調査にご協力いただける者から抽出（毎年固定）
（各広域振興圏150人、概ね各年代100人）
- ⑤ 調査方法 設問票によるアンケート調査（郵送法）
- ⑥ 調査時期 令和3年1～2月（県民意識調査の実施と同時期）
- ⑦ 回収者数 571人
- ⑧ 有効回収率 95.5%
- ⑨ 回答者の属性

【男女別】	回答者数	割合
男性	281	(49.2)
女性	258	(45.2)
不明	32	(5.6)

【年齢別】	回答者数	割合
18～19歳	0	(0.0)
20～29歳	46	(8.1)
30～39歳	74	(13.0)
40～49歳	97	(17.0)
50～59歳	103	(18.0)
60～69歳	108	(18.9)
70歳以上	112	(19.6)
不明	31	(5.4)

【所得別】	回答者数	割合
100万円未満	93	(16.3)
100万円～300万円未満	278	(48.7)
300万円～500万円未満	105	(18.4)
500万円～700万円未満	27	(4.7)
700万円～1000万円未満	18	(3.2)
1000万円～1500万円未満	2	(0.4)
1500万円以上	1	(0.2)
不明	47	(8.2)

【居住形態別】	回答者数	割合
持家(一戸建て)	452	(79.2)
持家(集合住宅)	13	(2.3)
借家(一戸建て)	31	(5.4)
借家(集合住宅)	60	(10.5)
その他	9	(1.6)
不明	6	(1.1)

【居住地別】	回答者数	割合
県央広域振興圏	149	(26.1)
県南広域振興圏	141	(24.7)
沿岸広域振興圏	138	(24.2)
県北広域振興圏	143	(25.0)

【職業別】	回答者数	割合
自営業主	47	(8.2)
家族従業者	12	(2.1)
会社役員・団体役員	28	(4.9)
常用雇用者	205	(35.9)
臨時雇用者	77	(13.5)
学生	11	(1.9)
専業主婦(主夫)	46	(8.1)
無職	89	(15.6)
その他	23	(4.0)
不明	33	(5.8)

【子どもの数別】	回答者数	割合
1人	69	(12.1)
2人	213	(37.3)
3人	107	(18.7)
4人	13	(2.3)
5人以上	6	(1.1)
子どもはいない	154	(27.0)
不明	9	(1.6)

【世帯構成別】	回答者数	割合
ひとり暮らし	66	(11.6)
同居人あり	489	(85.6)
単身赴任	4	(0.7)
その他	5	(0.9)
不明	7	(1.2)

【居住年数】	回答者数	割合
1年未満	0	(0.0)
1～5年未満	8	(1.4)
5～10年未満	10	(1.8)
10～20年未満	20	(3.5)
20年以上	526	(92.1)
不明	7	(1.2)

(注) 小数点第1位未満四捨五入の関係から、割合の計が100%にならない場合があります。

2.2 調査結果の概要

① 主観的幸福感（設問：あなたは現在、どの程度幸福だと感じていますか。）

県全体の主観的幸福感については、幸福と感じる（「幸福だと感じる」又は「やや幸福だと感じる」）と回答した人が70.2%（基準年調査：61.8%、前年調査：70.9%）、幸福と感じない（「幸福だと感じない」又は「あまり幸福だと感じない」）と回答した人が11.1%（基準年調査：11.1%、前年調査：11.5%）となっており、新型コロナウイルス感染症の影響があった中においても、幸福と感じている人の割合は横ばいで推移しており、県民意識調査と概ね同様の傾向を示しています。

また、主観的幸福感について、「幸福だと感じる」から「幸福だと感じない」までの5段階の選択肢に応じて5点から1点を配点したところ、県全体の平均値は、5点満点中3.52点（基準年調査：3.77点、前年調査：3.48点）となり、基準年に比べて上昇傾向にあり、県民意識調査と概ね同様の傾向を示しています。

図6 【補足調査】主観的幸福感（県計）の推移〔割合〕

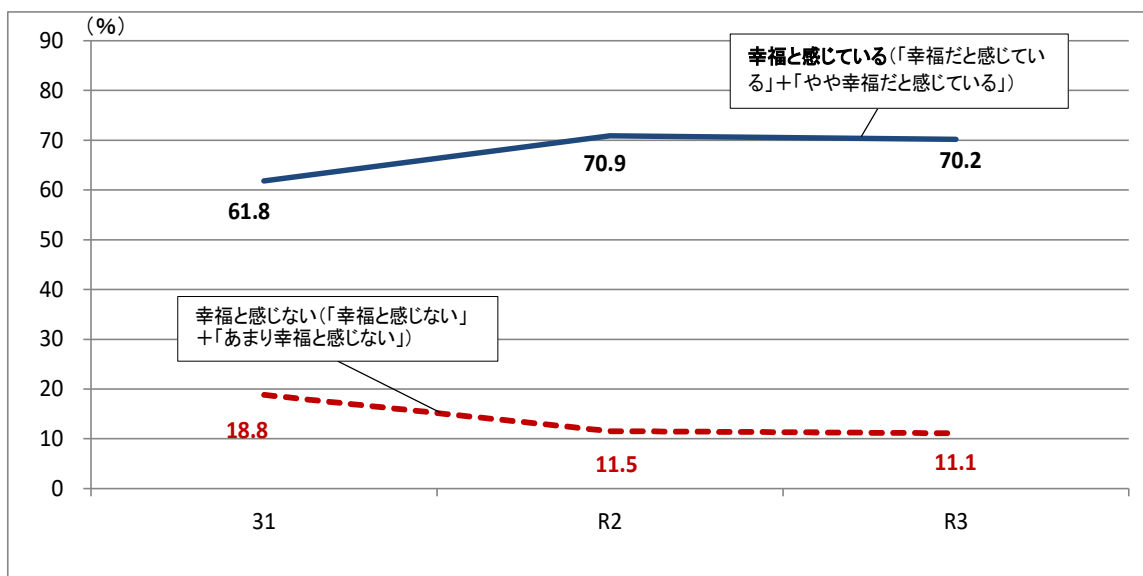
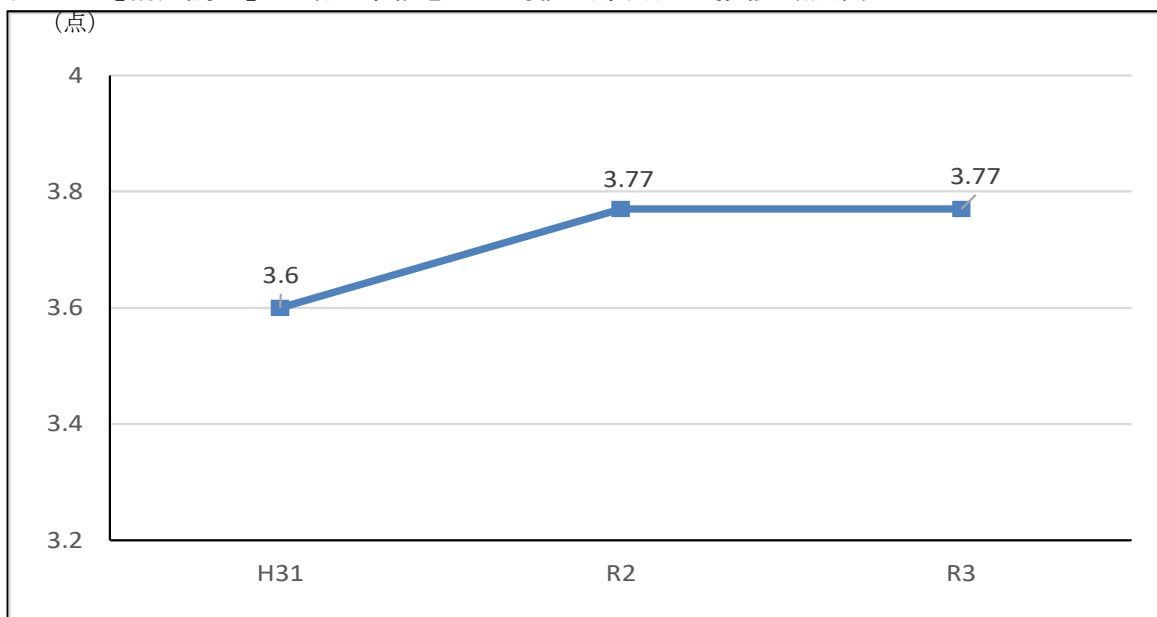


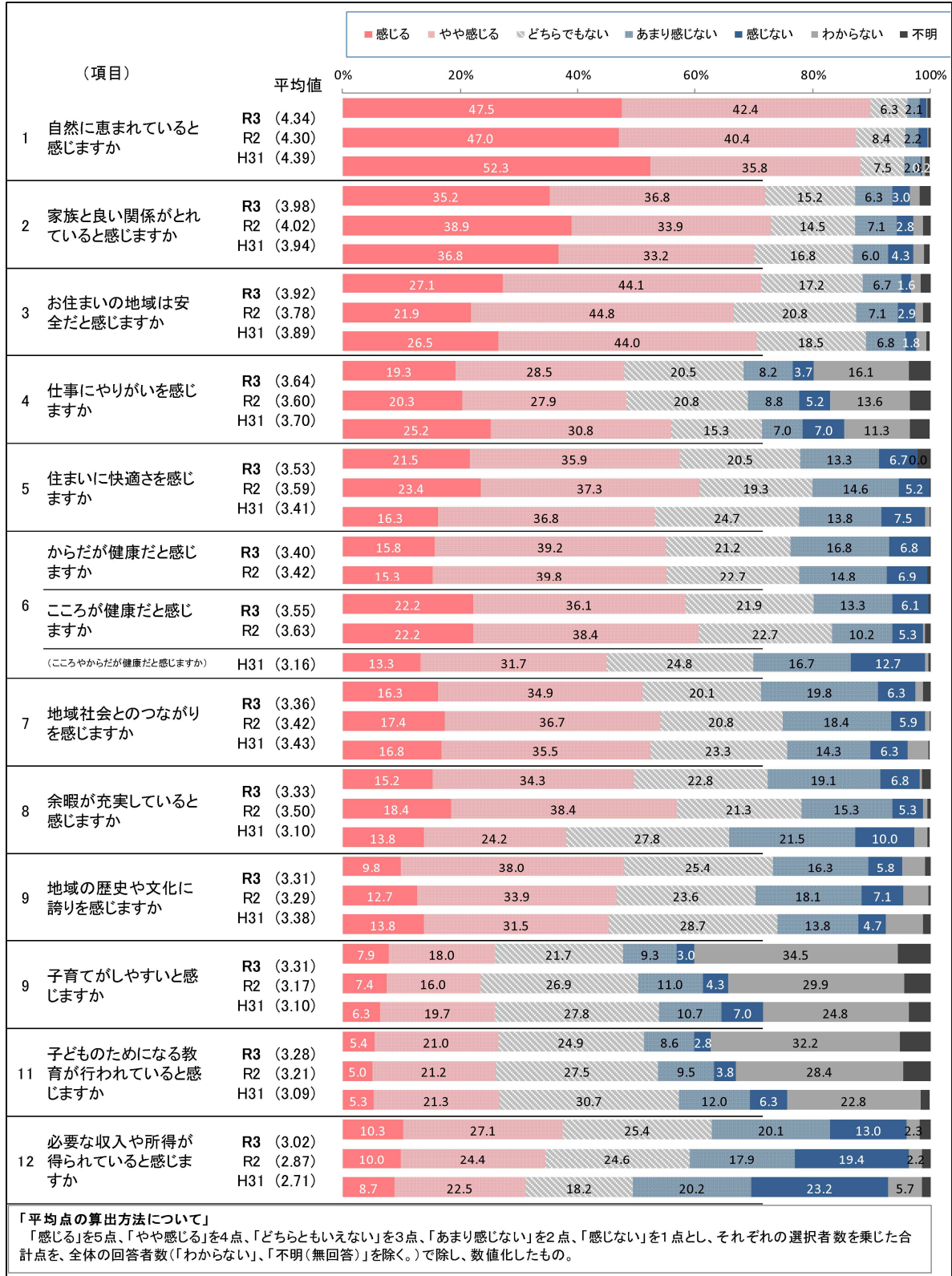
図7 【補足調査】主観的幸福感の平均値（県計）の推移〔点数〕



② 分野別実感（設問：現在のあなたご自身のことについて、おたずねします。）

12 分野について実感を聞いた結果、「自然のゆたかさ」の実感が 4 点を超えているほか、「家族関係」や「地域の安全」の実感も基準年と同様に高くなっている一方で、「収入・所得」の実感は初めて 3 点を超えたものの引き続き低くなっています。（下図は、令和 3 年調査の分野別実感の平均値が高い順に整理しています。）

図 7 【補足調査】分野別実感の回答状況



③ 幸福を判断する際に重視する事項

(設問：あなたが幸福かどうか判断する際に重視した事項は何ですか。)

幸福かどうか判断する際に重視すると回答した項目は、前年までの調査結果と同様に、「健康状況」や「家族関係」が特に高い結果となっており、そのうち最も重視する項目も「健康状況」や「家族関係」が高い状況となっています。

図8 【補足調査】幸福を判断する際に重視する事項の回答状況

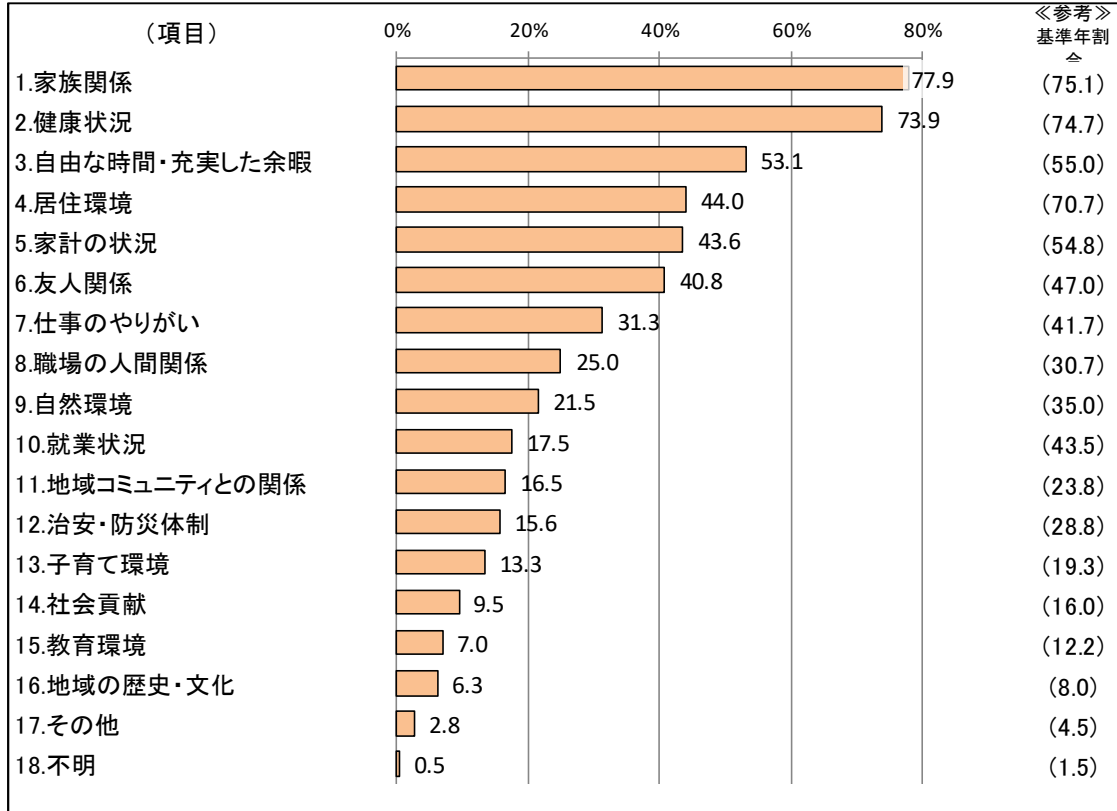
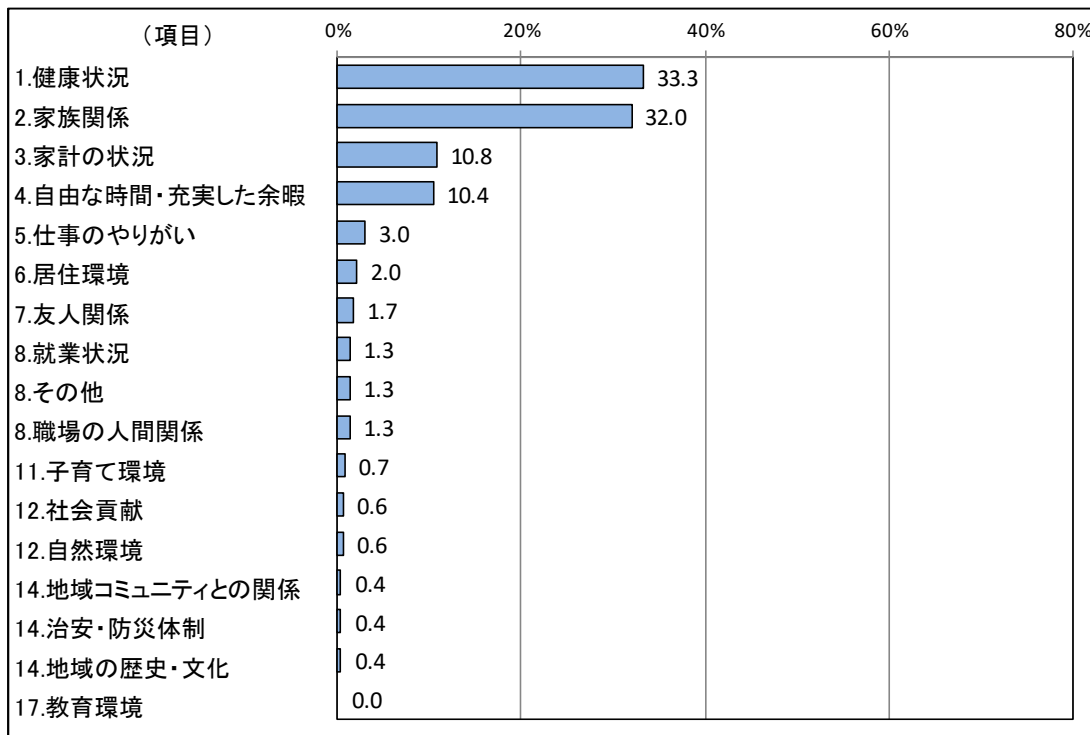


図9 【補足調査】幸福を判断する際に最も重視する事項の回答状況

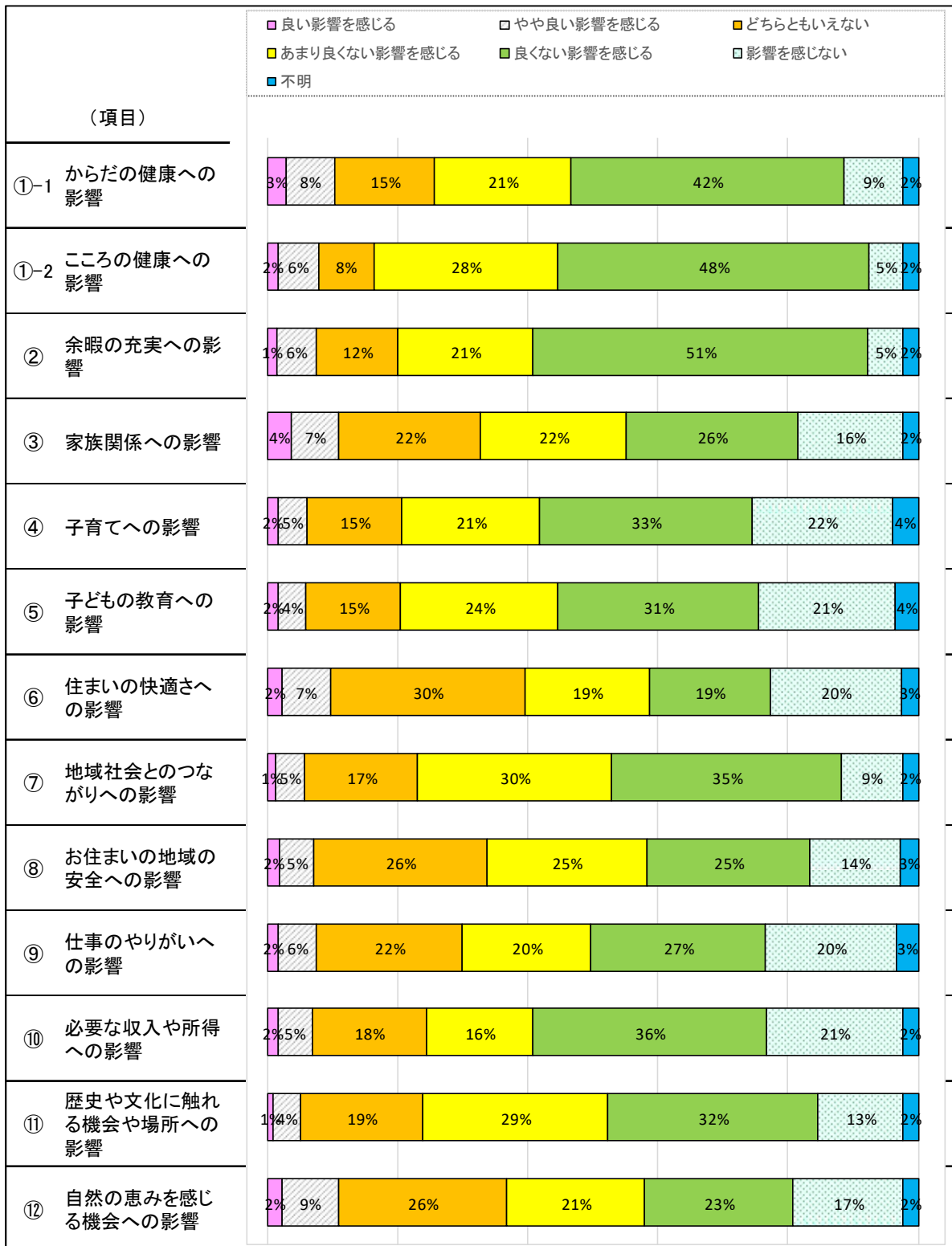


④ 新型コロナウイルス感染症の影響について

(設問：あなたは新型コロナウイルス感染症の影響についてどのように感じていますか。)

新型コロナウイルス感染症の影響についての分野別の回答結果は、図 10 のとおりであり、特に「こころの健康」や「余暇の充実」において良くない影響を感じた人が多くなっています。

図 10 【補足調査】新型コロナウイルス感染症の影響に係る項目の回答状況



⑤ 分野別実感の主な回答項目について

補足調査で得られた分野別実感に対する回答を「感じる・やや感じる」、「どちらともいえない」、「あまり感じない・感じない」の3つに区分し、「分野別実感の回答理由と関連が強い要因として選択された項目」を回答の多い順に整理した結果、表3のとおりとなりました。

表3 【補足調査】分野別実感の回答理由と関連が強い要因として選択された主な項目〔実感別〕

分野	感じる・やや感じる	どちらともいえない	あまり感じない・感じない
(1)-1 からだの健康	ア 睡眠・休養・仕事・学業・運動などのくらしの時間配分(ワークライフバランス) イ 健康診断の結果 ウ こころの健康状態	ア 持病の有無 イ 睡眠・休養・仕事・学業・運動などのくらしの時間配分(ワークライフバランス) ウ 健康診断の結果	ア 持病の有無 イ 睡眠・休養・仕事・学業・運動などのくらしの時間配分(ワークライフバランス) ウ 健康診断の結果 エ こころの健康状態
(1)-2 こころの健康	ア 睡眠・休養・仕事・学業・運動などのくらしの時間配分(ワークライフバランス) イ からだの健康状態 ウ 仕事・学業以外の私生活におけるストレスの有無	ア 仕事・学業におけるストレスの有無 イ 睡眠・休養・仕事・学業・運動などのくらしの時間配分(ワークライフバランス) ウ 仕事・学業以外の私生活におけるストレスの有無	ア 仕事・学業におけるストレスの有無 イ 仕事・学業以外の私生活におけるストレスの有無 ウ 睡眠・休養・仕事・学業・運動などのくらしの時間配分(ワークライフバランス)
(2) 余暇の充実	ア 自由な時間の確保 イ 家族との交流 ウ 趣味・娯楽活動の場所・機会 エ 知人・友人との交流	ア 自由な時間の確保 イ 知人・友人との交流 ウ 趣味・娯楽活動の場所・機会	ア 自由な時間の確保 イ 知人・友人との交流 ウ 趣味・娯楽活動の場所・機会
(3) 家族関係	ア 会話の頻度(多い・少ない) イ 同居の有無 ウ 困った時に助け合えるかどうか	ア 会話の頻度(多い・少ない) イ 家族が自分にもたらす精神的影響(貢献・負担) ウ 自分が家族にもたらす精神的影響(貢献・負担)	ア 同居の有無 イ 家族が自分にもたらす精神的影響(貢献・負担) ウ 会話の頻度(多い・少ない)
(4) 子育て	ア 子どもを預けられる場所の有無(保育所など) イ 子どもを預けられる人の有無(親、親戚など) ウ 配偶者の家事への参加	ア 子どもの教育にかかる費用 イ 子育てにかかる費用 ウ わからない(身近に子どもがいない、子育てに関わっていないなど)	ア 子どもの教育にかかる費用 イ 子育てにかかる費用 ウ 子どもの遊び場(公園など)の充実
(5) 子どもの教育	ア 学力を育む教育内容 イ 人間性、社会性を育むための教育内容 ウ 健やかな体を育む教育内容(体育、部活動の内容など)	ア 人間性、社会性を育むための教育内容 イ わからない(身近に子どもがいない、子育てに関わっていないなど) ウ 学校の選択の幅(高校、大学など)	ア 人間性、社会性を育むための教育内容 イ 学力を育む教育内容 ウ 不登校やいじめなどへの対応 エ 学校の選択の幅(高校、大学など)
(6) 住まいの快適さ	ア 居住形態(持ち家か借家か) イ 住宅の延床面積(広さ・狭さ) ウ 立地の利便性(スーパー、コンビニ、公共施設、医療機関などとの距離など)	ア 立地の利便性(スーパー、コンビニ、公共施設、医療機関などとの距離など) イ 公共交通機関の利便性 ウ 住宅の機能性(バリアフリー、室内の温熱環境など)	ア 公共交通機関の利便性 イ 立地の利便性(スーパー、コンビニ、公共施設、医療機関などとの距離など) ウ 住宅の機能性(バリアフリー、室内の温熱環境など)
(7) 地域社会とのつながり	ア 隣近所との面識・交流 イ その地域で過ごした年数 ウ 自治会・町内会活動への参加(環境美化、防犯・防災活動など)	ア その地域で過ごした年数 イ 隣近所との面識・交流 ウ 自治会・町内会活動への参加(環境美化、防犯・防災活動など)	ア 隣近所との面識・交流 イ 自治会・町内会活動への参加(環境美化、防犯・防災活動など) ウ 地域の行事への参加(お祭り、スポーツ大会など)
(8) 地域の安全	ア 犯罪の発生状況 イ 交通事故の発生状況 ウ 自然災害の発生状況	ア 自然災害の発生状況 イ 地域の防犯体制(防犯パトロール、街頭防犯カメラなど) ウ 交通事故の防止(歩道の整備など)	ア 自然災害の発生状況 イ 社会インフラの老朽化(橋、下水道など) ウ 自然災害に対する予防(堤防の建設、避難経路の確保など)
(9) 仕事のやりがい	ア 現在の職種・業務の内容 イ 職場の人間関係 ウ 現在の収入・給料の額	ア 現在の収入・給料の額 イ 現在の職種・業務の内容 ウ 将来の収入・給料の額の見込み	ア 現在の収入・給料の額 イ 現在の職種・業務の内容 ウ 将来の収入・給料の額の見込み
(10) 必要な収入や所得	ア 自分の収入・所得額(年金を含む) イ 家族の収入・所得額(年金を含む) ウ 生活の程度	ア 自分の収入・所得額(年金を含む) イ 家族の収入・所得額(年金を含む) ウ 自分の支出額	ア 自分の収入・所得額(年金を含む) イ 家族の収入・所得額(年金を含む) ウ 自分の金融資産の額
(11) 歴史・文化への誇り	ア 地域のお祭り・伝統芸能 イ その地域で過ごした年数 ウ 地域の食文化	ア その地域で過ごした年数 イ 地域のお祭り・伝統芸能 ウ 誇りを感じる歴史や文化が見当たらない	ア 誇りを感じる歴史や文化が見当たらない イ 地域の歴史や文化に関心がない ウ その地域で過ごした年数
(12) 自然のゆたかさ	ア 緑の量(豊か・少ない) イ 空気の状態(綺麗・汚い) ウ 水(河川、池、地下水など)の状態(綺麗・汚い)	ア 空気の状態(綺麗・汚い) イ 緑の量(豊か・少ない) ウ 水(河川、池、地下水など)の状態(綺麗・汚い)	ア 自然に関心がない イ 緑の量(豊か・少ない) ウ 水(河川、池、地下水など)の状態(綺麗・汚い) エ 公園・緑地、水辺などの周辺環境

平成 31 年県民意識調査回答時と令和 3 年補足調査回答時において、実感に変動があった人の回答を「実感が上昇した人の回答」、「実感が横ばいの人の回答」、「実感が低下した人の回答」の 3 つに区分し、「分野別実感に対する回答理由と関連が強い要因として選択された項目」を回答が多い順に整理した結果、表 4 のとおりとなりました。
 (「(1) -1 からだの健康」及び「(1) -2 こころの健康」は、令和 2 年と比較)

表 4 【補足調査】分野別実感の回答理由と関連が強い要因として選択された主な項目〔実感の変化別〕

分野	実感が上昇した人の回答	実感が横ばいの人の回答	実感が低下した人の回答
(1)-1 からだの健康	ア 睡眠・休養・仕事・学業・運動などのくらしの時間配分(ワークライフバランス) イ 健康診断の結果 ウ 持病の有無	ア 睡眠・休養・仕事・学業・運動などのくらしの時間配分(ワークライフバランス) イ 健康診断の結果 ウ 持病の有無	ア 持病の有無 イ 健康診断の結果 ウ 睡眠・休養・仕事・学業・運動などのくらしの時間配分(ワークライフバランス)
(1)-2 こころの健康	ア 睡眠・休養・仕事・学業・運動などのくらしの時間配分(ワークライフバランス) イ からだの健康状態 ウ 仕事・学業以外の私生活におけるストレスの有無	ア 睡眠・休養・仕事・学業・運動などのくらしの時間配分(ワークライフバランス) イ 仕事・学業以外の私生活におけるストレスの有無 ウ からだの健康状態	ア 仕事・学業におけるストレスの有無 イ 睡眠・休養・仕事・学業・運動などのくらしの時間配分(ワークライフバランス) ウ 仕事・学業以外の私生活におけるストレスの有無
(2) 余暇の充実	ア 自由な時間の確保 イ 家族との交流 ウ 趣味・娯楽活動の場所・機会	ア 自由な時間の確保 イ 知人・友人との交流 ウ 趣味・娯楽活動の場所・機会	ア 自由な時間の確保 イ 知人・友人との交流 ウ 趣味・娯楽活動の場所・機会
(3) 家族関係	ア 会話の頻度(多い・少ない) イ 同居の有無 ウ 一緒にいる時間(長い・短い)	ア 会話の頻度(多い・少ない) イ 困った時に助け合えるかどうか ウ 同居の有無	ア 家族が自分にもたらず精神的影響(貢献・負担) イ 会話の頻度(多い・少ない) ウ 同居の有無
(4) 子育て	ア 子どもを預けられる場所の有無(保育所など) イ 子どもを預けられる人の有無(親、親戚など) ウ 配偶者の家事への参加 エ 自分の就業状況(労働時間、休業・休暇など) オ 自分の勤め先の子育てに対する理解	ア 子どもを預けられる人の有無(親、親戚など) イ 子どもを預けられる場所の有無(保育所など) ウ 子どもの教育にかかる費用	ア 子どもの教育にかかる費用 イ 子育てにかかる費用 ウ 子どもの習い事の選択の幅
(5) 子どもの教育	ア 学力を育む教育内容 イ 人間性、社会性を育むための教育内容 ウ 健やかな体を育む教育内容(体育、部活動の内容など)	ア 人間性、社会性を育むための教育内容 イ 学力を育む教育内容 ウ 健やかな体を育む教育内容(体育、部活動の内容など)	ア 人間性、社会性を育むための教育内容 イ 学校の選択の幅(高校、大学など) ウ 学力を育む教育内容 エ 不登校やいじめなどへの対応
(6) 住まいの快適さ	ア 居住形態(持ち家か借家か) イ 立地の利便性(スーパー、コンビニ、公共施設、医療機関などとの距離など) ウ 住宅の延床面積(広さ・狭さ)	ア 住宅の延床面積(広さ・狭さ) イ 居住形態(持ち家か借家か) ウ 立地の利便性(スーパー、コンビニ、公共施設、医療機関などとの距離など)	ア 公共交通機関の利便性 イ 立地の利便性(スーパー、コンビニ、公共施設、医療機関などとの距離など) ウ 住宅の機能性(バリアフリー、室内の温熱環境など)
(7) 地域社会とのつながり	ア 隣近所との面識・交流 イ その地域で過ごした年数 ウ 自治会・町内会活動への参加(環境美化、防犯・防災活動など)	ア 隣近所との面識・交流 イ 自治会・町内会活動への参加(環境美化、防犯・防災活動など) ウ その地域で過ごした年数	ア 隣近所との面識・交流 イ 自治会・町内会活動への参加(環境美化、防犯・防災活動など) ウ その地域で過ごした年数
(8) 地域の安全	ア 犯罪の発生状況 イ 自然災害の発生状況 ウ 交通事故の発生状況	ア 犯罪の発生状況 イ 自然災害の発生状況 ウ 交通事故の発生状況	ア 自然災害の発生状況 イ 交通事故の防止(歩道の整備など) ウ 社会インフラの老朽化(橋、下水道など)
(9) 仕事のやりがい	ア 現在の職種・業務の内容 イ 現在の収入・給料の額 ウ 就業形態(正規・非正規など) エ 職場の人間関係	ア 現在の職種・業務の内容 イ 現在の収入・給料の額 ウ 職場の人間関係	ア 現在の職種・業務の内容 イ 現在の収入・給料の額 ウ 将来の収入・給料の額の見込み エ 職場の人間関係
(10) 必要な収入や所得	ア 自分の収入・所得額(年金を含む) イ 家族の収入・所得額(年金を含む) ウ 生活の程度	ア 自分の収入・所得額(年金を含む) イ 家族の収入・所得額(年金を含む) ウ 生活の程度	ア 自分の収入・所得額(年金を含む) イ 家族の収入・所得額(年金を含む) ウ 自分の支出額 エ 家族の支出額
(11) 歴史・文化への誇り	ア その地域で過ごした年数 イ 地域のお祭り・伝統芸能 ウ 郷土の歴史的偉人	ア 地域のお祭り・伝統芸能 イ その地域で過ごした年数 ウ 地域での文化継承・保存活動	ア 誇りを感じる歴史や文化が見当たらない イ 地域のお祭り・伝統芸能 ウ その地域で過ごした年数
(12) 自然のゆたかさ	ア 緑の量(豊か・少ない) イ 空気の状態(綺麗・汚い) ウ 水(河川、池、地下水など)の状態(綺麗・汚い)	ア 緑の量(豊か・少ない) イ 空気の状態(綺麗・汚い) ウ 水(河川、池、地下水など)の状態(綺麗・汚い)	ア 緑の量(豊か・少ない) イ 水(河川、池、地下水など)の状態(綺麗・汚い) ウ 公園・緑地、水辺などの周辺環境 エ 自然(山・海など)と触れ合う機会

第4章 分析結果

県民意識調査及び補足調査で得られた主観的幸福感と分野別実感について、以下の視点、方法で整理しました。

【分析に当たって】

1 分析目的

(1) 主観的幸福感、分野別実感の概況の把握

県民意識の現状を把握するため、県民意識調査で得られた主観的幸福感や分野別実感の時系列変化と属性差を把握します。

(2) 分野別実感の変動要因の推測

県民意識の変化の状況を把握するため、平成 31 年県民意識調査と令和 3 年県民意識調査で有意な差が確認された分野別実感については、県民意識調査や補足調査を用いて、その要因を推測します。

(3) 分野別実感が一貫して低値又は高値で推移している属性の把握とその要因の推測

分野別実感が一貫して低い又は高い属性を把握するため、平成 28 年から令和 3 年までの県民意識調査で得られた分野別実感で一貫して低値（平均値が毎年 3 点未満）又は高値（平均値が毎年 4 点以上）で推移している属性を把握するとともに、補足調査を用いて、その要因を推測します。

2 分析対象

(1) 県民意識調査（詳細は P 3 参照）

県民意識の状況を把握するため、無作為に抽出した 18 歳以上の県民 5,000 人を対象に毎年実施し（調査対象は毎年異なる）、主観的幸福感や分野別実感などを調査しています。

(2) 県民意識調査（補足調査）（詳細は P 9 参照）

県民意識調査結果を補足するため、あらかじめ選定した 600 人を対象に実施し（調査対象は毎年同じ）、主観的幸福感、分野別実感に加え、分野別実感の回答項目に関連が強い要因として選択された項目などを調査しています。

3 分析方法

(1) 基準年に対して実感が低下・上昇した要因分析について

① 「時系列変化の有無」は t 検定で検証

県民意識調査における時系列変化の有無は、2 時点間（平成 31 年と令和 3 年）の差を t 検定で検証し、5 %水準で有意な差があると判定されたものを、期間で差があると判断しました。

② 「属性差の有無」は一元配置分散分析で検証

令和 3 年県民意識調査における男女差などの各属性（年齢階層別等）の区分（20 歳代、30 歳代、40 歳代等）間の差の有無は一元配置分散分析で検証し、5 %水準で有意な差があると判定された属性を区分間で差があると判断しました。

当年次レポートでは、その中で最も値が高い区分と低い区分を記載しています。

なお、「18～19 歳」、「60 歳未満の無職」はサンプル数が小さいため、分析対象からは除外しています。

③ 「分野別実感の変動要因」は県民意識調査や補足調査から推測

以下の 2 つの分析結果をもとに、分野別実感の変動要因を検討しました。

・ **分野別実感の変動に影響を与えた属性の回答項目から変動要因を検証**

県民意識調査をもとに、分野別実感の変動に影響を与えたと判断される属性を把握し、さらに補足調査で当該属性の分野別実感の回答項目に関連が強い要因として選択された項目を把握することで、分野別実感の変動要因を推測しました。

例えば、分野別実感が低下した要因を分析する場合、県民意識調査で当該分野別実感の低下が大きい属性を把握し、補足調査で当該属性の分野別実感の回答項目に関連が強い要因として選択された項目を把握することで、分野別実感の変動要因を検討しました。

・ **補足調査で得られた分野別実感の回答項目から変動要因を推測**

補足調査で得られた分野別実感の回答項目を分野別実感の変化ごと（実感が上昇した人、実感が横ばいの人、実感が低下した人）の3区分に整理し、分野別実感の回答項目に関連が強い要因として選択された項目の内容や各区分間の比較から、分野別実感の変動要因を推測しました。

例えば、分野別実感が低下した要因を分析する場合、「実感が低下した人」の分野別実感の回答項目に関連が強い要因として選択された項目の内容を分析するとともに、「実感が横ばい、上昇した人」の回答項目との比較を通じて、分野別実感の変動要因を検討しました。

なお、より実感の変化を適切に把握するため、実感が低下した場合は「感じる」から「やや感じる」に低下したものを、実感が上昇した場合は「感じない」から「あまり感じない」に上昇したものを、それぞれ分析対象から除外しています。

(2) **分野別実感に対する新型コロナウイルス感染症の影響を検討**

① **「新型コロナウイルス感染症の影響」にかかる実感の把握**

県民意識調査の結果から、「良い影響を感じた割合」と「良くない影響を感じた割合」を整理し、県民の実感を把握しました。

② **「時系列変化の有無」はt検定で検証**

新型コロナウイルス感染症の影響を把握するため、県民意識調査における時系列変化について、2時点間（令和2年と令和3年）の差をt検定で検証し、5%水準で有意な差があると判定されたものを、期間で差があると判断しました。

③ **「新型コロナウイルス感染症の影響」に係る要因の推測**

新型コロナウイルス感染症の影響については、分野別実感に変動があった分野において、「良くない影響を感じた」と回答した人で、前年に比べて「実感が低下した人」の回答項目を分析し、新型コロナウイルス感染症の影響を検討しました。

なお、分野別実感が基準年に対して上昇している場合は、良い影響についても検討を行いました。

(3) **「分野別実感が一貫して低値又は高値で推移している属性とその要因」は、県民意識調査から属性を把握し、補足調査から要因を推測**

平成28年から令和3年までの県民意識調査で得られた分野別実感で、一貫して低値（3点未満）で推移している属性については、補足調査で当該属性の分野別実感が「感じない」「あまり感じない」の分野別実感の回答項目に関連が強い要因として選択された項目を把握することで、低値で推移している要因を推測しました。

また、一貫して高値（4点以上）で推移している属性については、分野全体で一貫して高値で推移している分野を対象として、補足調査で当該属性の分野別実感が「感じる」「やや感じる」と回答した人の分野別実感の回答項目に関連が強い要因として選択された項目を把握することで、高値で推移している要因を推測しました。

県民意識調査から得られた分野別実感の平均値の状況

県民意識調査結果から得られた分野別実感の平均値の状況について、基準年と令和3年を比較し、統計的に有意な差が確認された属性を表5に示しています。

表5 【県民意識調査】属性別平均点一覧表(基準年比較)

		主観的幸福感	心身の健康	余暇の充実	家族関係	子育て
令和3年調査 平均値		3.52	3.07	2.97	3.85	3.16
平成31年調査と令和3年調査の差	県計 (3,549)	0.09	0.07	▲ 0.08	-	0.08
	性別					
	男性(1,561)	0.08	-	-	-	-
	女性(1,949)	0.08	-	▲ 0.10	-	0.09
	その他(参考)(6)					
	年代					
	18~19歳(参考)(53)	0.78	-	0.56	-	-
	20~29歳(200)	-	-	-	-	-
	30~39歳(320)	-	-	-	-	-
	40~49歳(499)	-	-	-	-	0.19
	50~59歳(604)	-	-	▲ 0.23	-	-
	60~69歳(766)	0.17	0.16	-	-	-
	70歳以上(1,009)	-	-	▲ 0.21	-	-
	職業					
	自営業主(282)	-	-	-	-	-
	家族従業者(119)	-	-	-	-	-
	会社役員・団体役員(240)	-	-	-	-	0.35
	常用雇用者(1,025)	-	-	-	-	-
	臨時雇用者(440)	-	-	-	-	-
	学生+その他(119)	-	-	-	0.30	-
	専業主婦・主夫(403)	0.17	-	-	-	0.23
	60歳未満の無職(参考)(77)	-	-	▲ 0.56	-	-
	60歳以上の無職(697)	0.13	0.17	▲ 0.17	-	-
	世帯構成					
	ひとり暮らし(431)	-	-	-	-	-
	夫婦のみ(718)	0.16	-	-	-	-
2世代世帯(1,437)	-	-	-	-	-	
3世代世帯(548)	-	-	-	-	-	
その他(184)	0.25	0.33	-	-	0.39	
子の数						
1人(450)	-	-	▲ 0.19	-	-	
2人(1,270)	0.11	-	-	-	-	
3人(682)	-	-	-	-	-	
4人以上(159)	-	-	-	-	-	
子どもはいない(802)	-	-	-	-	0.23	
居住年数						
10年未満(100)	-	-	-	-	-	
10~20年未満(145)	-	-	-	-	-	
20年以上(3,174)	0.07	0.07	▲ 0.09	-	0.08	
広域振興圏						
県央(1,011)	-	-	-	-	-	
県南(1,080)	0.17	0.14	-	-	0.15	
沿岸(833)	-	-	▲ 0.13	-	-	
県北(625)	-	-	-	-	-	

() は、R3調査のサンプル数

■ : 上昇 □ : 横ばい ■ : 低下

子どもの教育	住まいの快適さ	地域社会とのつながり	地域の安全	仕事のやりがい	必要な収入や所得	歴史・文化への誇り	自然のゆたかさ
3.20	3.31	3.09	3.76	3.49	2.77	3.18	4.18
0.10	-	▲ 0.25	▲ 0.06	-	0.13	▲ 0.11	-
0.09	-	▲ 0.28	-	-	-	▲ 0.10	-
0.10	-	▲ 0.23	-	-	0.18	▲ 0.12	-
-	-	-	-	-	1.07	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
0.31	-	▲ 0.20	-	-	-	-	-
-	-	▲ 0.28	-	-	-	-	-
-	▲ 0.15	▲ 0.39	▲ 0.15	-	-	▲ 0.14	-
0.19	-	▲ 0.22	-	-	0.14	-	-
-	-	▲ 0.21	-	▲ 0.23	-	▲ 0.13	-
-	-	▲ 0.19	-	-	-	-	-
-	-	▲ 0.33	-	▲ 0.35	-	-	-
0.29	-	-	-	-	-	-	-
0.13	-	▲ 0.30	▲ 0.09	-	0.13	-	-
-	-	▲ 0.32	-	-	-	▲ 0.20	▲ 0.15
-	-	-	-	-	-	-	-
0.19	-	-	-	-	0.43	▲ 0.17	-
-	-	▲ 0.47	-	-	-	-	▲ 0.49
-	-	▲ 0.24	▲ 0.12	▲ 0.25	-	▲ 0.15	-
-	-	▲ 0.32	-	-	-	-	-
-	-	▲ 0.20	-	-	0.15	-	-
0.09	-	▲ 0.33	▲ 0.11	-	-	▲ 0.11	-
-	-	▲ 0.21	-	-	-	-	-
0.32	0.23	-	-	-	-	-	-
0.15	-	▲ 0.32	-	-	-	-	-
0.14	-	▲ 0.22	-	-	0.16	▲ 0.10	-
-	-	▲ 0.23	-	▲ 0.18	-	▲ 0.16	-
-	-	-	▲ 0.27	-	0.38	-	-
0.14	-	▲ 0.28	-	-	-	-	-
0.38	0.37	▲ 0.38	-	-	0.43	-	-
-	-	-	-	-	0.65	-	-
0.09	-	▲ 0.27	▲ 0.07	-	0.09	▲ 0.12	-
0.13	-	▲ 0.23	▲ 0.11	-	0.14	-	-
-	-	▲ 0.25	-	-	0.16	-	-
-	-	▲ 0.28	-	▲ 0.15	-	▲ 0.20	-
-	-	▲ 0.27	-	-	0.16	▲ 0.18	-

新型コロナウイルス感染症の影響を推測するに当たり、県民意識調査結果から得られた分野別実感の平均値の状況について、新型コロナウイルス感染症の影響前（令和2年）と影響後（令和3年）を比較し、統計的に有意な差が確認された属性を表6に示しています。

表6 【県民意識調査】属性別平均点一覧表(前年比較)

		主観的幸福感	心身の健康	余暇の充実	家族関係	子育て
令和3年調査 平均値		3.52	3.07	2.97	3.85	3.16
令和2年調査と令和3年調査の差	県計(3,549)	-	▲ 0.08	-	-	0.09
	性別					
	男性(1,561)	-	▲ 0.09	-	-	-
	女性(1,949)	-	-	-	-	0.11
	その他(参考)(6)	-	-	-	-	-
	年代					
	18～19歳(参考)(53)	0.47	-	0.49	-	-
	20～29歳(200)	-	-	-	-	-
	30～39歳(320)	-	-	-	-	0.41
	40～49歳(499)	-	-	-	-	0.23
	50～59歳(604)	-	▲ 0.24	-	-	-
	60～69歳(766)	0.13	-	-	-	-
	70歳以上(1,009)	-	-	-	-	-
	職業					
	自営業主(282)	-	-	-	-	-
	家族従業者(119)	-	▲ 0.44	-	-	-
	会社役員・団体役員(240)	-	-	-	-	0.35
	常用雇用者(1,025)	-	-	-	-	0.17
	臨時雇用者(440)	-	▲ 0.20	-	-	-
	学生+その他(119)	0.35	-	0.35	-	-
	専業主婦・主夫(403)	0.20	-	-	-	-
	60歳未満の無職(参考)(77)	-	-	-	-	0.54
	60歳以上の無職(697)	-	-	-	-	-
	世帯構成					
	ひとり暮らし(431)	-	▲ 0.19	-	-	-
	夫婦のみ(718)	-	-	-	-	-
	2世代世帯(1,437)	-	-	-	-	0.13
3世代世帯(548)	-	-	-	-	-	
その他(184)	0.25	-	0.26	-	0.37	
子の数						
1人(450)	-	-	-	-	-	
2人(1,270)	0.11	-	-	-	-	
3人(682)	-	-	-	-	-	
4人以上(159)	-	-	-	-	-	
子どもはいない(802)	-	-	-	-	-	
居住年数						
10年未満(100)	-	-	-	-	-	
10～20年未満(145)	0.37	-	-	-	-	
20年以上(3,174)	-	▲ 0.08	-	-	0.09	
広域振興圏						
県央(1,011)	-	-	-	-	0.18	
県南(1,080)	-	-	-	-	-	
沿岸(833)	-	▲ 0.13	-	-	-	
県北(625)	-	-	-	-	-	

() は、R3調査のサンプル数

■ : 上昇 □ : 横ばい ■ : 低下

子どもの教育	住まいの快適さ	地域社会とのつながり	地域の安全	仕事のやりがい	必要な収入や所得	歴史・文化への誇り	自然のゆたかさ
3.20	3.31	3.09	3.76	3.49	2.77	3.18	4.18
0.11	-	▲ 0.06	0.10	0.11	0.21	▲ 0.08	-
0.10	-	-	-	-	0.20	▲ 0.11	-
0.12	-	-	0.14	0.15	0.22	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
0.33	-	-	-	-	0.34	▲ 0.20	-
0.22	-	-	0.20	-	0.32	-	-
-	-	▲ 0.19	-	-	0.23	▲ 0.18	-
-	-	-	0.19	0.15	0.17	-	0.10
-	-	-	-	-	0.15	-	-
-	-	-	-	-	0.23	-	-
-	-	▲ 0.27	-	▲ 0.28	-	-	-
-	-	-	-	-	0.42	-	-
0.18	-	-	0.10	0.11	0.25	-	-
-	-	▲ 0.18	-	-	0.26	▲ 0.16	-
0.28	-	-	0.31	0.46	0.38	0.29	0.25
0.19	-	-	0.15	-	0.22	-	-
0.57	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	▲ 0.25	-	-	-	▲ 0.26	-
-	-	-	0.20	0.14	0.24	-	0.12
0.13	-	▲ 0.13	-	0.10	0.17	-	-
0.16	-	-	0.12	0.17	0.27	-	-
0.37	0.39	-	0.28	-	0.37	-	0.21
-	▲ 0.17	-	-	-	0.25	-	-
0.12	0.09	-	0.12	0.17	0.24	-	-
-	-	-	0.13	-	0.23	-	-
-	-	-	-	0.31	-	-	-
0.18	-	-	0.11	-	0.17	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	0.36	0.45	-	-
0.11	-	▲ 0.08	0.09	0.10	0.21	▲ 0.08	-
0.17	-	-	-	-	0.25	-	-
-	-	-	-	0.13	0.12	-	-
0.12	-	-	0.20	-	0.22	-	-
-	-	-	0.15	0.21	0.28	-	-

次に、県民意識調査において分野別実感の調査を始めた平成28年から令和3年までにおいて、実感平均値が一貫して低値（3点未満）又は高値（4点以上）で推移している属性を表7に示しています。

表7【県民意識調査】属性別平均値一覧表（調査開始年から令和3年まで一貫して低値又は高値で推移している属性）

■ : 低値、□ : 高値

		余暇の充実	家族関係	子育て	子どもの教育	必要な収入や所得	自然のゆたかさ
県計(3,549)						2.44～2.77	4.16～4.27
性別	男性(1,561)					2.46～2.75	4.13～4.25
	女性(1,949)					2.43～2.79	4.18～4.29
	その他(参考)(6)						
	18～19歳(参考)(53)						
年代	20～29歳(200)			2.75～2.99		2.44～2.68	4.20～4.37
	30～39歳(320)	2.71～2.88				2.36～2.71	4.22～4.33
	40～49歳(499)	2.82～2.88				2.50～2.82	4.16～4.42
	50～59歳(604)	2.68～2.92				2.46～2.75	4.24～4.38
	60～69歳(766)					2.37～2.77	4.09～4.24
	70歳以上(1,009)					2.45～2.80	4.08～4.20
	職業	自営業主(282)					2.53～2.86
家族従業者(119)						2.42～2.91	4.12～4.50
会社役員・団体役員(240)							4.20～4.30
常用雇用者(1,025)		2.82～2.89				2.55～2.86	4.21～4.33
臨時雇用者(440)						2.20～2.65	4.16～4.36
学生+その他(119)						2.49～2.94	4.09～4.59
専業主婦・主夫(403)						2.34～2.89	4.15～4.29
60歳未満の無職(参考)(77)							
60歳以上の無職(697)						2.25～2.46	4.04～4.09
世帯構成	ひとり暮らし(431)			2.71～2.97		2.52～2.75	4.07～4.22
	夫婦のみ(718)		4.00～4.05			2.43～2.92	4.10～4.22
	2世代世帯(1,437)	2.80～2.98				2.41～2.71	4.16～4.29
	3世代世帯(548)					2.49～2.82	4.29～4.44
	その他(184)						
子の数	1人(450)					2.41～2.78	4.16～4.28
	2人(1,270)					2.48～2.86	4.16～4.25
	3人(682)					2.48～2.83	4.16～4.30
	4人以上(159)					2.31～2.86	4.18～4.32
	子どもはいない(802)	2.84～2.97		2.60～2.83	2.80～2.98	2.37～2.59	4.14～4.30
居住年数	10年未満(100)					2.55～2.99	4.16～4.46
	10～20年未満(145)						4.21～4.35
	20年以上(3,174)					2.42～2.75	4.15～4.27
広域振興圏	県央(1,011)					2.47～2.87	4.16～4.28
	県南(1,080)					2.39～2.70	4.11～4.26
	沿岸(833)					2.51～2.76	4.13～4.26
	県北(625)					2.34～2.76	4.22～4.37

() は、R3 調査のサンプル数

1 主観的幸福感について

① 主観的幸福感の推移

令和3年県民意識調査結果によると、「幸福だと感じる」と「やや幸福だと感じる」と回答した人の割合は、県全体で55.4%となり、基準年より3.1ポイント上昇し、前年調査より0.7ポイント低下しました。

「幸福だと感じる」から「幸福だと感じない」の5段階の選択肢に応じて5点から1点を配点したところ、県全体の平均値は3.52点となり、基準年より0.09点上昇し、前年調査と比べても0.04点上昇しています。

t検定を行った結果、基準年調査に比べて有意に上昇していることから、当該分野の実感は上昇していると考えられます。

なお、前年調査の実感平均値と比べると有意な差があるとはいえないため、主観的幸福感については横ばいに推移していると考えられます。

② 属性別の状況

ア 令和3年県民意識調査の状況

- ・ 性別では、「男性」が低く、「女性」が高くなりました。
- ・ 年代別では、「50歳代」が低く、「60歳代」が高くなりました。
- ・ 職業別では、「臨時雇用者」が低く、「学生+その他」が高くなりました。
- ・ 世帯構成別では、「ひとり暮らし」が低く、「夫婦のみ世帯」が高くなりました。
- ・ 子の数別では、「子どもはいない」が低く、「2人」が高くなりました。
- ・ 居住年数別では、「20年以上」が低く、「10～20年未満」が高くなりました。
- ・ 広域振興圏別では、「県北広域振興圏」が低く、「県央広域振興圏」が高くなりました。

イ 令和3年県民意識調査と基準年調査との比較

基準年調査と比較して有意に変化した属性は表8のとおりでした。

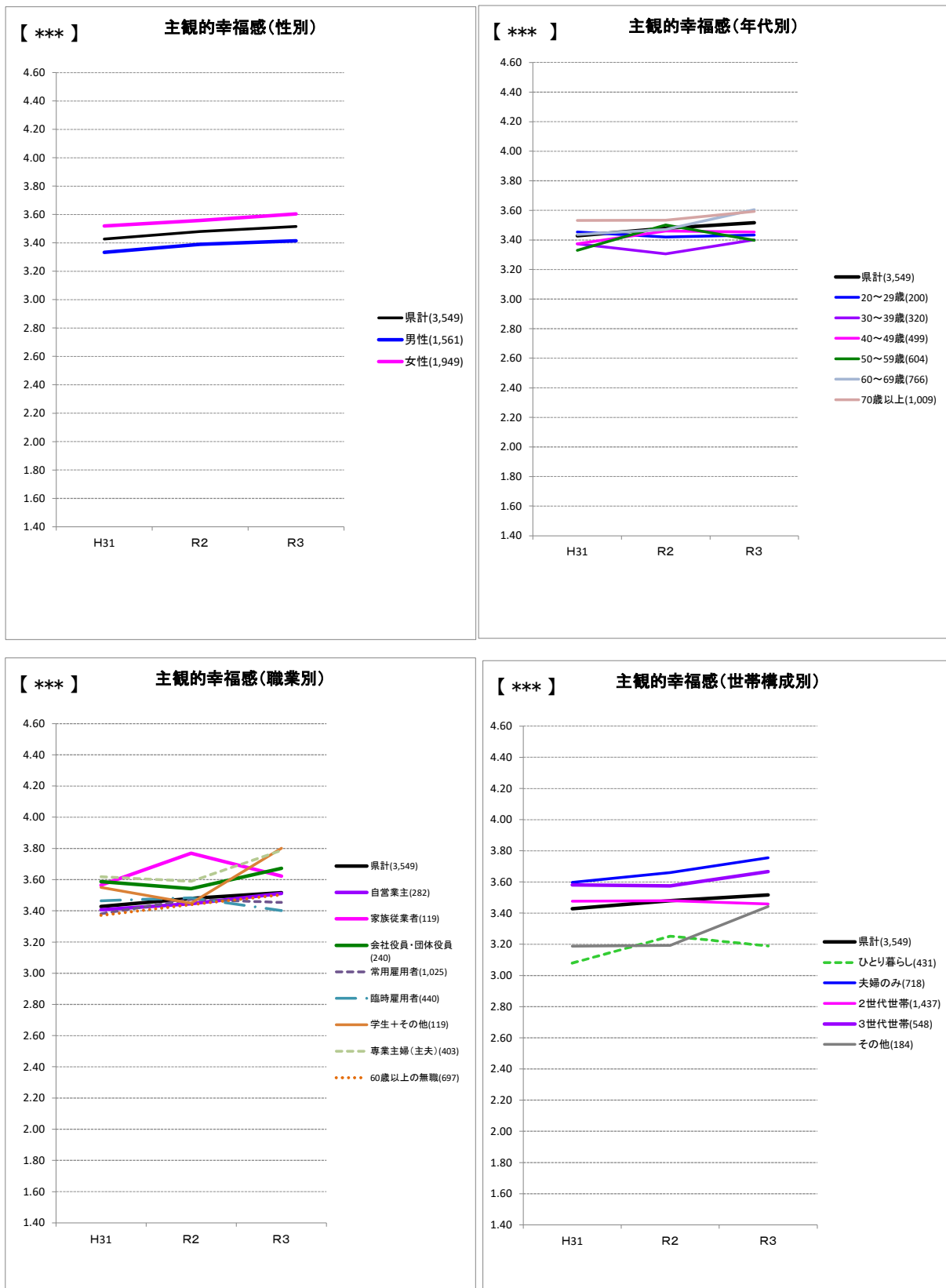
表8 主観的幸福感において有意な変化があった属性と前年差

属性		H31	R3	R3-H31 (対基準年差)
年代	60～69歳	3.44	3.60	0.17
職業	専業主婦・主夫	3.62	3.79	0.17
	60歳以上の無職	3.37	3.50	0.13
世帯構成	夫婦のみ	3.60	3.75	0.16
	その他	3.19	3.44	0.25
子の数	2人	3.56	3.68	0.11
居住年数	20年以上	3.42	3.50	0.07
広域振興圏	県南広域振興圏	3.31	3.48	0.17

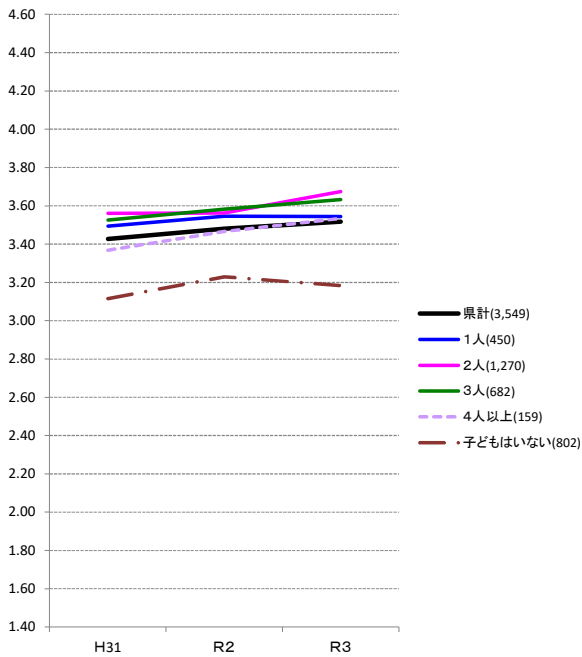
③ 幸福感を判断する上で重視された項目

令和3年県民意識調査において、回答した人が幸福感を判断する上で特に重視した項目は、「健康状況」や「家族関係」でした。

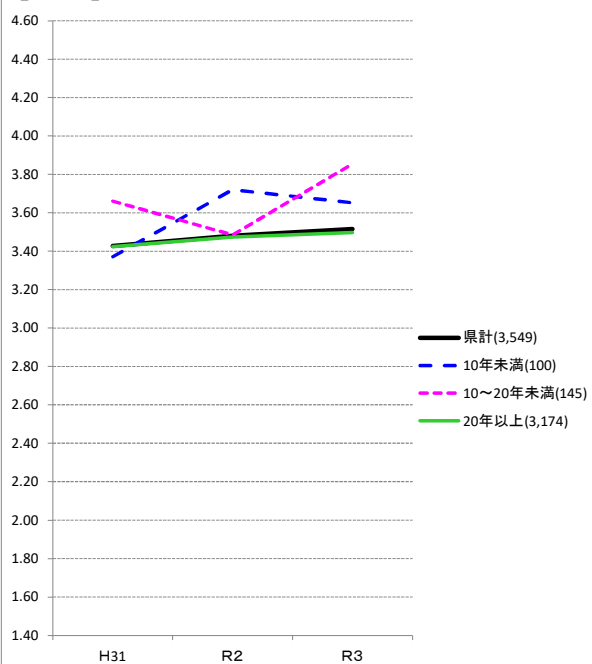
図 11 主観的幸福感の属性別集計結果



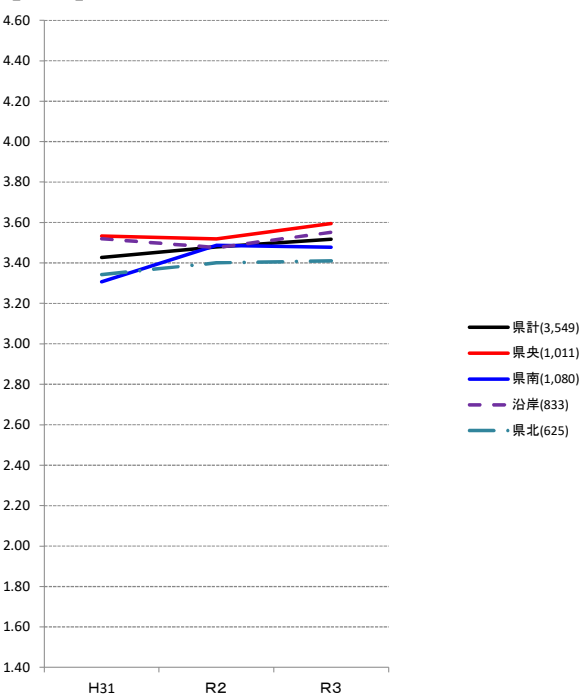
【***】 主観的幸福感(子の数別)



【***】 主観的幸福感(居住年数別)



【***】 主観的幸福感(広域圏別)



「主観的幸福感(平均)について」

幸福感平均の算出方法
 「幸福だと感じている」を5点、「やや幸福だと感じている」を4点、「どちらともいえない」を3点、「あまり幸福だと感じていない」を2点、「幸福だと感じていない」を1点とし、それぞれの選択者数を乗じた合計点を、全体の回答者数(「わからない」、「不明(無回答)」を除く。)で除し、数値化したもの。

- 凡例■
 グラフ左上の*は、R3調査結果の属性別一元配置分散分析結果を示す。
 【***】 1%水準で差が有意(差が認められる)
 【**】 5%水準で差が有意(差が認められる)
 【*】 10%水準で差が有意(差が認められる)
 [-] 差が認められない

2 分野別実感について

令和3年県民意識調査結果から得られた分野別実感の平均値は表9のとおりであり、県民計画の開始前である平成31年を基準とした場合、4分野で上昇、4分野で横ばい、4分野で低下が見られました。

表9 【県民意識調査】分野別実感の時系列分析結果（基準年比較）

政策分野	分野別実感	平均値の推移		
		H31 (基準年)	R2	R3 (当該年度)
I 健康・余暇	(1) 心身の健康	3.00	3.15 ↑ (0.15)	3.07 ↑ (0.07)
	(2) 余暇の充実	3.05	2.93 ↓ (Δ0.12)	2.97 ↓ (Δ0.08)
II 家族・子育て	(3) 家族関係	3.84	3.86 - (0.02)	3.85 - (0.01)
	(4) 子育て	3.08	3.07 - (Δ0.01)	3.16 ↑ (0.08)
III 教育	(5) 子どもの教育	3.10	3.09 - (Δ0.01)	3.20 ↑ (0.10)
IV 居住環境・コミュニティ	(6) 住まいの快適さ	3.34	3.29 - (Δ0.04)	3.31 - (Δ0.02)
	(7) 地域社会とのつながり	3.35	3.16 ↓ (Δ0.19)	3.09 ↓ (Δ0.25)
V 安全	(8) 地域の安全	3.82	3.66 ↓ (Δ0.16)	3.76 ↓ (Δ0.06)
VI 仕事・収入	(9) 仕事のやりがい	3.54	3.38 ↓ (Δ0.16)	3.49 - (Δ0.05)
	(10) 必要な収入や所得	2.65	2.56 ↓ (Δ0.09)	2.77 ↑ (0.13)
VII 歴史・文化	(11) 歴史・文化への誇り	3.28	3.25 - (Δ0.03)	3.18 ↓ (Δ0.11)
VIII 自然環境	(12) 自然のゆたかさ	4.21	4.16 ↓ (Δ0.05)	4.18 - (Δ0.03)

(注) ① () は基準年調査との差。

なお、四捨五入の関係から年平均値とその差の合計が一致しない場合があります。

② t検定の結果、5%水準で有意な変化が確認できたものは、網掛けと矢印で表記。

なお、参考まで、分野別実感の平均値を前年と比較とした場合、5分野で上昇、4分野で横ばい、3分野で低下が見られました。

表 10 【県民意識調査】分野別実感の時系列分析結果（前年比較）

政策分野	分野別実感	平均値の推移	
		R2 (前年)	R3 (当該年度)
I 健康・余暇	(1) 心身の健康	3.15	3.07 ↓ (Δ0.08)
	(2) 余暇の充実	2.93	2.97 - (0.04)
II 家族・子育て	(3) 家族関係	3.86	3.85 - (Δ0.01)
	(4) 子育て	3.07	3.16 ↑ (0.09)
III 教育	(5) 子どもの教育	3.09	3.20 ↑ (0.11)
IV 居住環境・コミュニティ	(6) 住まいの快適さ	3.29	3.31 - (0.02)
	(7) 地域社会とのつながり	3.16	3.09 ↓ (Δ0.06)
V 安全	(8) 地域の安全	3.66	3.76 ↑ (0.10)
VI 仕事・収入	(9) 仕事のやりがい	3.38	3.49 ↑ (0.11)
	(10) 必要な収入や所得	2.56	2.77 ↑ (0.21)
VII 歴史・文化	(11) 歴史・文化への誇り	3.25	3.18 ↓ (Δ0.08)
VIII 自然環境	(12) 自然のゆたかさ	4.16	4.18 - (0.02)

(注) ① () は前年調査との差。

なお、四捨五入の関係から年平均値とその差の合計が一致しない場合があります。

② t 検定の結果、5%水準で有意な変化が確認できたものは、網掛けと矢印で表記。

2.1 実感が低下した分野

(1) 「余暇の充実」の実感

① 分野別実感の概況

ア 分野別実感の推移

実感平均値は2.97点であり、基準年調査より0.08点低下しています。

t検定を行った結果、基準年調査に比べて有意に低下していることから、当該分野の実感は低下していると考えられます。

なお、前年調査の実感平均値と比べると0.04点上昇していますが、t検定を行った結果、有意な変化は見られなかったことから、横ばいと考えられます。

イ 属性別の状況

○ 令和3年県民意識調査の状況

- ・ 年代別では、「50歳代」が低く、「20歳代」が高くなりました。
- ・ 職業別では、「家族従業者」が低く、「学生+その他」が高くなりました。
- ・ 世帯構成別では、「2世代世帯」が低く、「夫婦のみ世帯」が高くなりました。
- ・ 子の数別では、「1人」が低く、「2人」が高くなりました。
- ・ 居住年数別では、「20年以上」が低く、「10～20年未満」が高くなりました。
- ・ 広域振興圏別では、「県南広域振興圏」が低く、「県央広域振興圏」が高くなりました。

○ 令和3年県民意識調査と基準年調査との比較

基準年調査と比較して有意に変化した属性は表11のとおりでした。

表11 「余暇の充実」の実感において有意な変化があった属性と基準年差

属性		H31	R3	R3-H31 (対基準年差)
県計		3.05	2.97	▲0.08
男女	女性	3.08	2.98	▲0.10
年代	50～59歳	2.92	2.70	▲0.23
	70歳以上	3.36	3.15	▲0.21
職業	60歳以上の無職	3.26	3.09	▲0.17
子の数	1人	3.05	2.86	▲0.19
居住年数	20年以上	3.03	2.95	▲0.09
広域振興圏	沿岸広域振興圏	3.09	2.96	▲0.13

ウ 新型コロナウイルス感染症の影響

当該分野別実感に係る新型コロナウイルス感染症の影響に対する県民の実感を県民意識調査において把握したところ、良い影響を感じた割合は8%、良くない影響を感じた割合は60%となりました。

また、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける前の令和2年調査と影響後の本年調査の実感を属性別に比較すると表12のとおりでした。

表12 「余暇の充実」の実感において有意な変化があった属性と前年差

属性		R2	R3	R3-R2 (対前年差)
職業	学生+その他	3.05	3.38	0.35
世帯構成	その他	2.72	2.98	0.26

② 分野別実感が低下した要因

- ・ 県民意識調査の結果、実感が有意に低下した属性は、表 11 のとおり幅広く存在しており、特徴的な属性は確認できませんでした。
- ・ 補足調査で把握している「分野別実感の回答理由と関連が強い要因として選択された項目」で、実感が低下した人の主な回答項目は以下のとおりでした。
 - (ア) 自由な時間の確保
 - (イ) 知人・友人との交流
 - (ウ) 趣味・娯楽活動の場所・機会
- ・ 補足調査結果において、実感が低下した人の上記回答項目と、実感が横ばい、上昇した人の回答項目を比較しても特徴的な要因は抽出できませんでした。
- ・ 以上を踏まえ、当該分野の実感が低下した要因は、「自由な時間を十分に確保できなかったこと」「知人・友人との交流が減ったこと」「趣味・娯楽活動の場所・機会が減ったこと」であると推測されます。
- ・ なお、前年に比べて分野別実感が横ばいとなっているものの、新型コロナウイルス感染症の影響について「良くない影響を感じた人」の割合が 60%を占めています。

そのうち、前年調査に比べて実感が低下した人の主な回答項目は以下のとおりであり、これは、「分野別実感が低下した要因」と同じ項目となっていることから、**分野別実感の低下に新型コロナウイルス感染症の影響が一定程度あったものと考えられます。**

 - (ア) 自由な時間の確保
 - (イ) 知人・友人との交流
 - (ウ) 趣味・娯楽活動の場所・機会

③ 一貫して低値又は高値で推移している属性とその要因

- ・ 平成 28 年から令和 3 年までの県民意識調査で、一貫して高値（4 点以上）で推移している属性はなく、低値（3 点未満）で推移している属性は表 13 のとおりです。
- ・ 補足調査において、これらの属性で「あまり感じない・感じない」と回答した人の主な回答項目は、「自由な時間が十分に確保できなかったこと」「趣味・娯楽活動の場所・機会が少ないこと」「知人・友人との交流が少ないこと」で全て同一であったことから、これらが要因として推測されます。

表 13 「余暇の充実」の実感において低値で推移している属性

属性		H28	H29	H30	H31	R 2	R 3
年代	30～39 歳	2.73	2.88	2.88	2.71	2.78	2.86
	40～49 歳	2.88	2.82	2.88	2.87	2.88	2.83
	50～59 歳	2.68	2.85	2.79	2.92	2.78	2.70
職業別	常用雇用者	2.82	2.87	2.82	2.89	2.85	2.86
世帯構成	2 世代世帯	2.80	2.98	2.94	2.97	2.84	2.92
子の数	子どもはいない	2.84	2.92	2.97	2.92	2.91	2.91

(2) 「地域社会とのつながり」の実感

① 分野別実感の概況

ア 分野別実感の推移

実感平均値は 3.09 点であり、基準年調査より 0.25 点低下しています。

t 検定を行った結果、基準年調査に比べて有意に低下していることから、**当該分野の実感**は低下していると考えられます。

なお、前年調査の実感平均値と比べると 0.06 点低下しており、t 検定を行った結果、有意に低下していることから、前年に比べて実感が低下していると考えられます。

イ 属性別の状況

○ 令和3年県民意識調査の状況

- ・ 年代別では、「20歳代」が低く、「70歳以上」が高くなりました。
- ・ 職業別では、「常用雇用者」が低く、「自営業主」が高くなりました。
- ・ 世帯構成別では、「ひとり暮らし」が低く、「3世代世帯」が高くなりました。
- ・ 子の数別では、「子どもはいない」が低く、「3人」が高くなりました。
- ・ 居住年数別では、「10年未満」が低く、「10～20年未満」が高くなりました。
- ・ 広域振興圏別では、「県央広域振興圏」が低く、「沿岸広域振興圏」が高くなりました。

○ 令和3年県民意識調査と基準年調査との比較

基準年調査と比較して有意に変化した属性は表14のとおりでした。

表14 「地域社会とのつながり」の実感において有意な変化があった属性と基準年差

属性		H31	R3	R3-H31 (対基準年差)
県計		3.35	3.09	▲0.25
性別	男性	3.37	3.09	▲0.28
	女性	3.33	3.09	▲0.23
年代	30～39歳	3.03	2.83	▲0.20
	40～49歳	3.22	2.94	▲0.28
	50～59歳	3.30	2.91	▲0.39
	60～69歳	3.37	3.15	▲0.22
	70歳以上	3.59	3.38	▲0.21
職業	自営業主	3.52	3.33	▲0.19
	家族従業者	3.58	3.25	▲0.33
	常用雇用者	3.22	2.92	▲0.30
	臨時雇用者	3.27	2.95	▲0.32
	60歳以上の無職	3.48	3.24	▲0.24
世帯構成	ひとり暮らし	3.15	2.84	▲0.32
	夫婦のみ	3.39	3.19	▲0.20
	2世代世帯	3.34	3.01	▲0.33
	3世代世帯	3.53	3.32	▲0.21
子の数	1人	3.31	2.99	▲0.32
	2人	3.45	3.22	▲0.22
	3人	3.47	3.24	▲0.23
	子どもはいない	3.08	2.79	▲0.28
居住年数	10年未満	3.04	2.67	▲0.38
	20年以上	3.37	3.10	▲0.27
広域振興圏	県央広域振興圏	3.24	3.00	▲0.23
	県南広域振興圏	3.40	3.15	▲0.25
	沿岸広域振興圏	3.43	3.16	▲0.28
	県北広域振興圏	3.33	3.07	▲0.27

ウ 新型コロナウイルス感染症の影響

当該分野別実感に係る新型コロナウイルス感染症の影響に対する県民の実感を県民

意識調査において把握したところ、良い影響を感じた割合は6%、良くない影響を感じた割合は52%となりました。

また、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける前の令和2年調査と影響後の本年調査の実感を属性別に比較すると表15のとおりでした。

表15 「地域社会とのつながり」の実感において有意な変化があった属性と前年差

属性		R 2	R 3	R3-R2 (対前年差)
県計		3.16	3.09	▲0.06
年代	50～59歳	3.10	2.91	▲0.19
職業	家族従業者	3.53	3.25	▲0.27
	臨時雇用者	3.13	2.95	▲0.18
世帯構成	ひとり暮らし	3.09	2.84	▲0.25
	2世代世帯	3.14	3.01	▲0.13
居住年数	20年以上	3.17	3.10	▲0.08

② 分野別実感が低下した要因

- ・ 県民意識調査の結果、実感が有意に低下した属性は、表14のとおり幅広く存在しており、特徴的な属性は確認できませんでした。
- ・ 補足調査で把握している「分野別実感の回答理由と関連が強い要因として選択された項目」で、実感が低下した人の回答項目は以下のとおりでした。
 - (ア) 隣近所との面識・交流
 - (イ) 自治会・町内会活動への参加（環境美化、防犯・防災活動など）
 - (ウ) その地域で過ごした年数
- ・ 補足調査結果において、実感が低下した人の上記回答項目と、実感が横ばい、上昇した人の回答項目を比較しても特徴的な要因は抽出できませんでした。
- ・ 以上を踏まえ、当該分野の実感が低下した要因は、「隣近所との面識・交流が減ったこと」、「自治会・町内会活動への参加が減ったこと（環境美化、防犯・防災活動など）」、「その地域で過ごした年数が短いこと」であると推測されます。
- ・ なお、前年に比べて分野別実感が低下しているほか、新型コロナウイルス感染症の影響について「良くない影響を感じた人」の割合が52%を占めています。
 - そのうち、前年調査に比べて実感が低下した人の主な回答項目は以下のとおりであり、これは「分野別実感が低下した要因」と同じ項目となっていることから、**分野別実感の低下に新型コロナウイルス感染症の影響が一定程度あったものと考えられます。**
 - (ア) 自治会・町内会活動への参加（環境美化、防犯・防災活動など）
 - (イ) 隣近所との面識・交流
 - (ウ) その地域で過ごした年数

③ 一貫して低値又は高値で推移している属性とその要因

平成28年から令和3年までの県民意識調査で、一貫して低値（3点未満）又は高値（4点以上）で推移している属性はありませんでした。

(3) 「地域の安全」の実感

① 分野別実感の概況

ア 分野別実感の推移

実感平均値は3.76点であり、基準年調査より0.06点低下しています。

t検定を行った結果、基準年調査に比べて有意に低下していることから、**当該分野の**

実感は低下していると考えられます。

なお、前年調査の実感平均値と比べると0.10点上昇しており、t検定を行った結果、有意に上昇していることから、前年に比べて実感は上昇していると考えられます。

イ 属性別の状況

○ 令和3年県民意識調査の状況

- ・ 世帯構成別では、「2世代世帯」が低く、「3世代世帯」が高くなりました。
- ・ 子の数別では、「4人以上」が低く、「2人」が高くなりました。

○ 令和3年県民意識調査と基準年調査との比較

基準年調査と比較して有意に変化した属性は表16のとおりでした。

表16 「地域の安全」の実感において有意な変化があった属性と基準年差

属性		H31	R3	R3-H31 (対基準年差)
県計		3.82	3.76	▲0.06
年代	50～59歳	3.84	3.69	▲0.15
職業	常用雇用者	3.83	3.74	▲0.09
	60歳以上の無職	3.86	3.74	▲0.12
世帯構成	2世代世帯	3.81	3.70	▲0.11
子の数	4人以上	3.92	3.65	▲0.27
居住年数	20年以上	3.83	3.76	▲0.07
広域振興圏	県央広域振興圏	3.87	3.76	▲0.11

ウ 新型コロナウイルス感染症の影響

当該分野別実感に係る新型コロナウイルス感染症の影響に対する県民の実感を県民意識調査において把握したところ、良い影響を感じた割合8%、良くない影響を感じた割合は44%となりました。

また、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける前の令和2年調査と影響後の本年調査の実感を属性別に比較すると表17のとおりでした。

表17 「地域の安全」の実感において有意な変化があった属性と前年差

属性		R2	R3	R3-R2 (対前年差)
県計		3.66	3.76	0.10
性別	女性	3.61	3.75	0.14
年代	40～49歳	3.59	3.79	0.20
	60～69歳	3.58	3.77	0.19
職業	常用雇用者	3.64	3.74	0.10
	学生+その他	3.57	3.88	0.31
	専業主婦・主夫	3.71	3.86	0.15
世帯構成	夫婦のみ	3.64	3.84	0.20
	3世代世帯	3.72	3.85	0.12
	その他	3.51	3.79	0.28
子の数	2人	3.70	3.82	0.12
	3人	3.67	3.80	0.13
	子どもはいない	3.62	3.73	0.11

居住年数	20年以上	3.67	3.76	0.09
広域振興圏	沿岸広域振興圏	3.54	3.74	0.20
	県北広域振興圏	3.63	3.78	0.15

② 分野別実感が低下した要因

- ・ 県民意識調査の結果、実感が有意に低下した属性は、表 16 のとおり幅広く存在しており、特徴的な属性は確認できませんでした。
- ・ 補足調査で把握している「分野別実感の回答理由と関連が強い要因として選択された項目」で、実感が低下した人の回答項目は以下のとおりでした。
 - (ア) 自然災害の発生状況
 - (イ) 交通事故の防止(歩道の整備など)
 - (ウ) 社会インフラの老朽化(橋、下水道など)
- ・ 補足調査結果において、実感が低下した人の上記回答項目と、実感が横ばい、上昇した人の回答項目を比較しても特徴的な要因は抽出できませんでした。
- ・ 以上を踏まえ、当該分野の実感が低下した要因は、「自然災害の発生が多いこと」、「交通事故の防止対策(歩道の整備など)が十分とは言えないこと」、「社会インフラの老朽化(橋、下水道など)が懸念されること」であると推測されます。
- ・ なお、東日本台風の影響のあった前年に比べ、実感は上昇しているものの、新型コロナウイルス感染症の影響について「良くない影響を感じた人」の割合が44%を占めています。

そのうち前年調査に比べて実感が低下した人の主な回答項目は以下のとおりとなっており、これは「分野別実感が低下した要因」と概ね同じ項目となっているほか、新型コロナウイルス感染症の影響と思われる「感染症の予防に関する行政の情報発信」が上位になっていることから、分野別実感に新型コロナウイルス感染症の影響が一定程度あったと考えられます。

- (ア) 自然災害の発生状況
- (イ) 感染症の予防に関する行政の情報発信(感染症の発生状況、予防対策に関する知識の普及啓発など)
- (ウ) 社会インフラの老朽化(橋、下水道など)

③ 一貫して低値又は高値で推移している属性とその要因

平成28年から令和3年までの県民意識調査で、一貫して低値(3点未満)又は高値(4点以上)で推移している属性はありませんでした。

(4) 「歴史・文化への誇り」の実感

① 分野別実感の概況

ア 分野別実感の推移

実感平均値は3.18点であり、基準年調査より0.11点低下しています。

t検定を行った結果、基準年調査に比べて有意に低下していることから、当該分野の実感低下していると考えられます。

なお、前年調査の実感平均値と比べると0.08点低下しており、t検定を行った結果、有意に低下していることから、前年に比べて実感低下していると考えられます。

イ 属性別の状況

○ 令和3年県民意識調査の状況

- ・ 性別では、「男性」が低く、「女性」が高くなりました。
- ・ 年代別では、「30歳代」が低く、「70歳以上」が高くなりました。

- ・ 職業別では、「臨時雇用者」が低く、「学生+その他」が高くなりました。
- ・ 広域振興圏別では、「県北広域振興圏」が低く、「県央広域振興圏」が高くなりました。

○ 令和3年県民意識調査と基準年調査との比較

基準年調査と比較して有意に変化した属性は表18のとおりでした。

表18 「歴史・文化への誇り」の実感において有意な変化があった属性と基準年差

属性		H31	R3	R3-H31 (対基準年差)
県計		3.28	3.18	▲0.11
性別	男性	3.22	3.13	▲0.10
	女性	3.35	3.22	▲0.12
年代	50～59歳	3.26	3.11	▲0.14
	70歳以上	3.42	3.28	▲0.13
職業	臨時雇用者	3.27	3.07	▲0.20
	専業主婦・主夫	3.40	3.23	▲0.17
	60歳以上の無職	3.28	3.13	▲0.15
世帯構成	2世代世帯	3.27	3.15	▲0.11
子の数	2人	3.35	3.25	▲0.10
	3人	3.26	3.10	▲0.16
居住年数	20年以上	3.30	3.17	▲0.12
広域振興圏	沿岸広域振興圏	3.30	3.10	▲0.20
	県北広域振興圏	3.25	3.07	▲0.18

ウ 新型コロナウイルス感染症の影響

当該分野別実感に係る新型コロナウイルス感染症の影響に対する県民の実感を県民意識調査において把握したところ、良い影響を感じた割合は4%、良くない影響を感じた割合は48%となりました。

また、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける前の令和2年調査と影響後の本年調査の実感を属性別に比較すると表19のとおりでした。

表19 「歴史・文化への誇り」の実感において有意な変化があった属性と前年差

属性		R2	R3	R3-R2 (対前年差)
県計		3.25	3.18	▲0.08
性別	男性	3.23	3.13	▲0.11
年代	30～39歳	3.24	3.04	▲0.20
	50～59歳	3.29	3.11	▲0.18
職業	臨時雇用者	3.22	3.07	▲0.16
	学生+その他	3.16	3.44	0.29
世帯構成	ひとり暮らし	3.37	3.11	▲0.26
居住年数	20年以上	3.25	3.17	▲0.08

② 分野別実感が低下した要因

- ・ 県民意識調査の結果、実感が有意に低下した属性は、表18のとおり幅広く存在しており、特徴的な属性は確認できませんでした。

- ・ 補足調査で把握している「分野別実感の回答理由と関連が強い要因として選択された項目」で、実感が低下した人の主な回答項目は以下のとおりでした。
 - (ア) 誇りを感じる歴史や文化が見当たらない
 - (イ) 地域のお祭り・伝統芸能
 - (ウ) その地域で過ごした年数
- ・ 補足調査結果において、実感が低下した人の上記回答項目と、実感が横ばい、上昇した人の回答項目を比較しても特徴的な要因は抽出できませんでした。
- ・ 以上を踏まえ、当該分野の実感が低下した要因は、「誇りを感じる歴史や文化が見当たらないこと」、「地域のお祭り・伝統芸能に関心がないこと」、「その地域で過ごした年数が短いこと」であると推測されます。
- ・ なお、前年に比べて分野別実感が低下しているほか、新型コロナウイルス感染症の影響について「良くない影響を感じた人」の割合が47%を占めています。

そのうち、前年調査に比べて実感が低下した人の主な回答項目は以下のとおりとなっており、これは、「分野別実感が低下した要因」と同じ項目とであることから、**分野別実感の低下に新型コロナウイルス感染症の影響が一定程度あったものと考えられます。**

 - (ア) 誇りを感じる歴史や文化が見当たらない
 - (イ) その地域で過ごした年数
 - (ウ) 地域のお祭り・伝統芸能

③ 一貫して低値又は高値で推移している属性とその要因

平成28年から令和3年までの県民意識調査で、一貫して低値（3点未満）又は高値（4点以上）で推移している属性はありませんでした。

2.2 実感が上昇した分野

(1) 「心身の健康」の実感

① 分野別実感の概況

ア 分野別実感の推移

実感平均値は3.07点であり、基準年調査より0.07点上昇しています。

t検定を行った結果、基準年調査に比べて有意に上昇していることから、**当該分野の実感**は上昇していると考えられます。

なお、前年調査の実感平均値と比べると0.08点低下しており、t検定を行った結果、有意に低下していることから、前年に比べて実感**は低下している**と考えられます。

イ 属性別の状況

○ 令和3年県民意識調査の状況

- ・ 性別では、「男性」が低く、「女性」が高くなりました。
- ・ 年代別では、「50歳代」が低く、「60歳代」が高くなりました。
- ・ 職業別では、「家族従業者」が低く、「学生+その他」が高くなりました。
- ・ 世帯構成別では、「ひとり暮らし」が低く、「夫婦のみ世帯」が高くなりました。
- ・ 子の数別では、「子どもはいない」が低く、「2人」が高くなりました。
- ・ 居住年数別では、「20年以上」が低く、「10～20年未満」が高くなりました。

○ 令和3年県民意識調査と基準年調査との比較

基準年調査と比較して有意に変化した属性は表20のとおりでした。

表 20 「心身の健康」の実感において有意な変化があった属性と基準年差

属性		H31	R 3	R3-H31 (対基準年差)
県計		3.00	3.07	0.07
年代	60～69 歳	3.05	3.20	0.16
職業	60 歳以上の無職	2.90	3.07	0.17
世帯構成	その他	2.82	3.15	0.33
居住年数	20 年以上	2.98	3.05	0.07
広域振興圏	県南広域振興圏	2.92	3.06	0.14

ウ 新型コロナウイルス感染症の影響

当該分野別実感に係る新型コロナウイルス感染症の影響に対する県民の実感を令和 3 年県民意識調査において把握したところ、「からだの健康」については、良い影響を感じた割合が 10%、良くない影響を感じた割合が 56%となり、「こころの健康」については、良い影響を感じた割合が 8%、良くない影響を感じた割合が 62%となりました。

また、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける前の令和 2 年調査と影響後の令和 3 年調査の実感を属性別に比較すると表 21 のとおりでした。

表 21 「心身の健康」の実感において有意な変化があった属性と前年差

属性		R 2	R 3	R3-R2 (対前年差)
県計		3.15	3.07	▲ 0.08
性別	男性	3.12	3.03	▲ 0.09
年代	50～59 歳	3.06	2.82	▲ 0.24
職業	家族従業者	3.43	2.99	▲ 0.44
	臨時雇用者	3.22	3.02	▲ 0.20
世帯構成	ひとり暮らし	3.18	2.99	▲ 0.19
子の数	子どもはいない	3.04	2.89	▲ 0.15
居住年数	20 年以上	3.13	3.05	▲ 0.08
広域振興圏	沿岸広域振興圏	3.15	3.02	▲ 0.13

② 分野別実感が上昇した要因

- ・ 県民意識調査の結果、実感が有意に上昇した属性は、表 20 のとおり幅広く存在しており、特徴的な属性は確認できませんでした。
- ・ 補足調査で把握している「分野別実感の回答理由と関連が強い要因として選択された項目」については、当該項目の実績が令和 2 年調査からしかないことから、令和 2 年調査と今年調査で実感が上昇した人の主な回答項目は以下のとおりでした。

【からだ】

- (ア) 睡眠・休養・しごと・学業・運動などの暮らしの時間配分 (ワークライフバランス)
- (イ) 健康診断の結果
- (ウ) 持病の有無

【こころ】

- (ア) 睡眠・休養・しごと・学業・運動などの暮らしの時間配分 (ワークライフバランス)
- (イ) からだの健康状態
- (ウ) 仕事・学業以外の私生活におけるストレスの有無

- ・ 以上を踏まえ、当該分野の実感が上昇した要因は、からだの健康が「睡眠・休養・しごと・学業・運動などの暮らしの時間配分（ワークライフバランス）が良かったこと」「健康診断の結果が良かったこと」「持病がないこと」であり、こころの健康が「睡眠・休養・しごと・学業・運動などの暮らしの時間配分（ワークライフバランス）が良かったこと」「からだの健康状態が良好であること」「仕事・学業以外の私生活におけるストレスが減ったこと」とであると推測されます。
- ・ なお、新型コロナウイルス感染症の影響について「良い影響を感じた人」は、「からだの健康」で10%、「こころの健康」で8%となっています。
そのうち前年調査に比べて実感が上昇した人の分野別実感の回答理由と関連が強い要因として選択された主な回答項目は以下のとおりでした。
 - 【からだ】
 - (ア) 睡眠・休養・しごと・学業・運動などの暮らしの時間配分（ワークライフバランス）
 - (イ) 健康診断の結果
 - (ウ) 持病の有無
 - (エ) こころの健康状態
 - 【こころ】
 - (ア) 充実した余暇の有無（仕事学業以外の趣味など）
 - (イ) からだの健康状態
 - (ウ) 睡眠・休養・しごと・学業・運動などの暮らしの時間配分（ワークライフバランス）
 - (エ) 仕事・学業以外の私生活におけるストレスの有無
 - (オ) 相談相手の有無
- ・ また、新型コロナウイルス感染症の影響について「良くない影響を感じた人」は、「からだの健康」で56%、「こころの健康」で62%を占めており、そのうち前年調査に比べて実感が低下した人の主な回答項目は以下のとおりでした。
 - 【からだ】
 - (ア) 持病の有無
 - (イ) 健康診断の結果
 - (ウ) 睡眠・休養・しごと・学業・運動などの暮らしの時間配分（ワークライフバランス）
 - 【こころ】
 - (ア) 仕事・学業の私生活におけるストレスの有無
 - (イ) 睡眠・休養・しごと・学業・運動などの暮らしの時間配分（ワークライフバランス）
 - (ウ) 仕事・学業以外の私生活におけるストレスの有無
- ・ 当該分野については、基準年に比べて実感の上昇が見られるものの、前年調査に比べて実感が低下しており、新型コロナウイルス感染症の影響について良くない影響を感じた人が高い割合を占めていることから、**分野別実感に新型コロナウイルス感染症の影響が一定程度あったものと考えられます。**

(2) 「子育て」の実感

① 分野別実感の概況

ア 分野別実感の推移

実感平均値は3.16点であり、基準年調査より0.08点上昇しています。

t検定を行った結果、基準年調査に比べて有意に上昇していることから、**当該分野の実感の上昇していると考えられます。**

なお、前年調査の実感平均値と比べると0.09点上昇しており、t検定を行った結果、有意に上昇していることから、前年に比べて実感の上昇していると考えられます。

イ 属性別の状況

○ 令和3年県民意識調査の状況

- ・ 性別では、「男性」が低く、「女性」が高くなりました。
- ・ 年代別では、「20歳代」が低く、「40歳代」が高くなりました。
- ・ 世帯構成別では、「ひとり暮らし」が低く、「その他世帯」が高くなりました。
- ・ 子の数別では、「子どもはいない」が低く、「2人」が高くなりました。
- ・ 広域振興圏別では、「沿岸広域振興圏」が低く、「県央広域振興圏」が高くなりました。

○ 令和3年県民意識調査と基準年調査との比較

基準年調査と比較して有意に変化した属性は表22のとおりでした。

表22 「子育て」の実感において有意な変化があった属性と基準年差

属性		H31	R3	R3-H31 (対基準年差)
県計		3.08	3.16	0.08
性別	女性	3.11	3.21	0.09
年代	40～49歳	3.09	3.28	0.19
職業	会社役員・団体役員	2.94	3.29	0.35
	専業主婦・主夫	3.04	3.27	0.23
世帯構成	その他	2.93	3.31	0.39
子の数	子どもはいない	2.60	2.83	0.23
居住年数	20年以上	3.09	3.16	0.08
広域振興圏	県南広域振興圏	2.97	3.11	0.15

ウ 新型コロナウイルス感染症の影響

当該分野別実感に係る新型コロナウイルス感染症の影響に対する県民の実感を令和3年県民意識調査において把握したところ、良い影響を感じた割合は5%、良くない影響を感じた割合は41%となりました。

また、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける前の令和2年調査と影響後の本年調査の実感を比較すると表23のとおりでした。

表23 「子育て」の実感において有意な変化があった属性と前年差

属性		R2	R3	R3-R2 (対前年差)
県計		3.07	3.16	0.09
性別	男性	3.10	3.21	0.11
年代	30～39歳	2.82	3.22	0.41
	40～49歳	3.05	3.28	0.23
職業	会社役員・団体役員	2.95	3.29	0.35
	常用雇用者	2.96	3.13	0.17
世帯構成	2世代世帯	3.05	3.18	0.13
	その他世帯	2.94	3.31	0.37
居住年数	20年以上	3.07	3.16	0.09
広域振興圏	県央広域振興圏	3.10	3.28	0.18

② 分野別実感が上昇した要因

- ・ 県民意識調査の結果、実感が有意に上昇した属性は、表 11 のとおり幅広く存在しており、特徴的な属性は確認できませんでした。
- ・ 補足調査で把握している「分野別実感の回答理由と関連が強い要因として選択された項目」については、実感が上昇した人の主な回答項目は以下のとおりでした。
 - (ア) 子どもを預けられる場所の有無(保育所など)
 - (イ) 子どもを預けられる人の有無(親、親戚など)
 - (ウ) 配偶者の家事への参加
 - (エ) 自分の就業状況(労働時間、休業・休暇など)
 - (オ) 自分の勤め先の子育てに対する理解
- ・ 以上を踏まえ、当該分野の実感が上昇した要因は、「子どもを預けられる場所(保育所など)があること」、「子どもを預けられる人(親、親戚など)がいること」、「配偶者が家事に参加していること」、「自分の就業状況(労働時間、休業・休暇など)が良好であること」、「自分の勤め先の子育てに対する理解があること」であると推測されます。
- ・ なお、新型コロナウイルス感染症の影響について、良い影響を感じた人は5%であって、そのうち前年調査に比べて実感が上昇した人の主な回答項目は以下のとおりでした。
 - (ア) 子どもを預けられる人の有無(親、親戚など)
 - (イ) 子どもを預けられる場所の有無(保育所など)
 - (ウ) 配偶者の家事への参加
- ・ また、新型コロナウイルス感染症の影響について、良くない影響を感じた人は41%であって、そのうち前年調査に比べて実感が低下した人の主な回答項目は以下のとおりでした。
 - (ア) 子どもの教育にかかる費用
 - (イ) 子育てにかかる費用
 - (ウ) 子どもの習い事の種類
- ・ 当該分野については、基準年及び前年と比べても実感が上昇しており、新型コロナウイルス感染症の影響が一定程度あったことは想定されるものの、分野別実感にはあまり影響を与えなかったものと考えられます。

③ 一貫して低値又は高値で推移している属性とその要因

平成 28 年から令和 3 年までの県民意識調査で、一貫して高値（4 点以上）で推移している属性はなく、低値（3 点未満）で推移している属性は表 24 のとおりです。

○ 20 歳代

補足調査結果で把握している「分野別実感の回答理由と関連が強い要因として選択された項目」で、「20 歳代」の回答者が「あまり感じない・感じない」と回答した項目から、以下の要因が推測されます。

- (ア) 子育てにかかる費用が高いこと
- (イ) 子どもを預けられる場所(保育所など)がないこと
- (ウ) 子育て支援サービスの内容に不満があること

○ ひとり暮らし

補足調査結果で把握している「分野別実感の回答理由と関連が強い要因として選択された項目」で、「ひとり暮らし」の回答者が「あまり感じない・感じない」と回答した項目から、以下の要因が推測されます。

- (ア) 子どもを預けられる場所(保育所など)がないこと
- (イ) 子育て支援サービスの内容に不満があること

(ウ) 子育てにかかる費用が高いこと

○ 子どもはいない

補足調査結果で把握している「分野別実感の回答理由と関連が強い要因として選択された項目」で、「子どもはいない人」の回答者が「あまり感じない・感じない」と回答した項目から、以下の要因が推測されます。

- (ア) 子育てにかかる費用が高いこと
- (イ) 子育て支援サービスの内容に不満があること
- (ウ) わからない(身近に子どもがいない、子育てにかかわっていないなど)

表 24 「子育て」の実感において低値で推移している属性

属性		H28	H29	H30	H31	R 2	R 3
年代	20～29 歳	2.83	2.84	2.75	2.80	2.89	2.99
世帯構成	ひとり暮らし	2.71	2.80	2.86	2.80	2.94	2.97
子の数	子どもはいない	2.61	2.73	2.63	2.60	2.72	2.83

(3) 「子どもの教育」の実感

① 分野別実感の概況

ア 分野別実感の推移

実感平均値は 3.20 点であり、基準年調査より 0.10 点上昇しています。

t 検定を行った結果、基準年調査に比べて有意に上昇していることから、当該分野の実感は上昇していると考えられます。

なお、前年調査の実感平均値と比べると 0.11 点上昇しており、t 検定を行った結果、有意に上昇していることから、前年に比べて実感は上昇していると考えられます。

イ 属性別の状況

○ 令和 3 年県民意識調査の状況

- ・ 年代別では、「50 歳代」が低く、「70 歳以上」が高くなりました。
- ・ 職業別では、「臨時雇用者」が低く、「専業主婦・主夫」が高くなりました。
- ・ 世帯構成別では、「ひとり暮らし」が低く、「その他世帯」が高くなりました。
- ・ 子の数別では、「子どもはいない」が低く、「2 人」が高くなりました。

○ 令和 3 年県民意識調査と基準年調査との比較

基準年調査と比較して有意に変化した属性は表 25 のとおりでした。

表 25 「子どもの教育」の実感において有意な変化があった属性と基準年差

属性		H31	R 3	R3-H31 (対基準年差)
県計		3.10	3.20	0.10
性別	男性	3.08	3.17	0.09
	女性	3.12	3.23	0.10
年代	30～39 歳	2.98	3.28	0.31
	60～69 歳	2.95	3.14	0.19
職業	会社役員・団体役員	2.97	3.26	0.29
	常用雇用者	3.03	3.16	0.13
	専業主婦・主夫	3.17	3.36	0.19
世帯構成	2 世代世帯	3.10	3.19	0.09

	その他	3.05	3.37	0.32
子の数	1人	3.09	3.24	0.15
	2人	3.14	3.29	0.14
	子どもはいない	2.84	2.98	0.14
居住年数	10年未満	2.78	3.16	0.38
	20年以上	3.10	3.20	0.09
広域振興圏	県央広域振興圏	3.14	3.28	0.13

ウ 新型コロナウイルス感染症の影響

当該分野別実感に係る新型コロナウイルス感染症の影響に対する県民の実感を令和3年県民意識調査において把握したところ、良い影響を感じた割合は4%、良くない影響を感じた割合は45%となりました。

また、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける前の令和2年調査と影響後の令和3年調査の実感を比較すると表26のとおりでした。

表26 「子どもの教育」の実感において有意な変化があった属性と前年差

属性		R2	R3	R3-R2 (対前年差)
県計		3.09	3.20	0.11
性別	男性	3.07	3.17	0.10
	女性	3.11	3.23	0.12
年代	30～39歳	2.96	3.28	0.33
	40～49歳	3.05	3.26	0.22
職業	常用雇用者	2.98	3.16	0.18
	学生+その他	2.99	3.27	0.28
	専業主婦・主夫	3.17	3.36	0.19
世帯構成	2世代世帯	3.07	3.19	0.13
	3世代世帯	3.15	3.31	0.16
	その他世帯	3.00	3.37	0.37
子の数	2人	3.16	3.29	0.12
	子どもはいない	2.80	2.98	0.18
居住年数	20年以上	3.09	3.20	0.11
広域振興圏	県央広域振興圏	3.10	3.28	0.17
	沿岸広域振興圏	3.05	3.17	0.12

② 分野別実感が上昇した要因

- ・ 県民意識調査の結果、実感が有意に上昇した属性は、表25のとおり幅広く存在しており、特徴的な属性は確認できませんでした。
- ・ 補足調査で把握している「分野別実感の回答理由と関連が強い要因として選択された項目」については、実感が上昇した人の主な回答項目は以下のとおりでした。
 - (ア) 学力を育む教育内容
 - (イ) 人間性、社会性を育むための教育内容
 - (ウ) 健やかな体を育む教育内容(体育、部活動の内容など)
- ・ 以上を踏まえ、当該分野の実感が上昇した要因は、「学力を育む教育内容となっていること」、「人間性、社会性を育むための教育内容となっていること」、「健やかな体を育む教育内容(体育、部活動の内容など)となっていること」であると推測されます。

- ・ なお、新型コロナウイルス感染症の影響について、良い影響を感じた人は4%であつて、前年調査に比べて実感が上昇した人の主な回答項目は以下のとおりであり、「分野別実感の回答理由と関連が強い要因として選択された項目」と概ね同じ項目でした。
 - (ア) 人間性、社会性を育むための教育内容
 - (イ) 健やかな体を育む教育内容(体育、部活動の内容など)
 - (ウ) 学力を育む教育内容
 - (エ) 不登校やいじめなどへの対応
 - (オ) 学校の選択の幅(高校、大学など)
- ・ また、新型コロナウイルス感染症の影響について、「良くない影響を感じた人」は45%であつて、そのうち前年調査に比べて実感が低下した人の主な回答項目は以下のとおりでした。
 - (ア) 人間性、社会性を育むための教育内容
 - (イ) 不登校やいじめなどへの対応
 - (ウ) 学校の選択の幅(高校、大学など)
- ・ 当該分野については、基準年及び前年と比べても実感は上昇しており、新型コロナウイルス感染症の影響が一定程度あったことは想定されるものの、分野別実感にはあまり影響を与えなかったものと考えられます。

③ 一貫して低値又は高値で推移している属性とその要因

- ・ 平成28年から令和3年までの県民意識調査で、一貫して高値(4点以上)で推移している属性はなく、低値(3点未満)で推移している属性は表27のとおりでした。

○ 子どもはいない

補足調査結果で把握している「分野別実感の回答理由と関連が強い要因として選択された項目」で、「子どもはいない」の回答者が「あまり感じない・感じない」と回答した項目から、以下の要因が推測されます。

- (ア) 人間性、社会性を育むための教育内容が十分とは言えないこと
- (イ) 学力を育む教育内容が十分とは言えないこと
- (ウ) 不登校やいじめなどの対応が十分とは言えないこと
- (エ) わからない(身近に子どもがいない、子育てにかかわっていないなど)

表27 「子どもの教育」の実感において低値で推移している属性

属性		H28	H29	H30	H31	R2	R3
子の数	子どもはいない	2.96	2.94	2.92	2.84	2.80	2.98

(4) 「必要な収入や所得」の実感

① 分野別実感の概況

ア 分野別実感の推移

実感平均値は2.77点であり、基準年調査より0.13点上昇しています。

t検定を行った結果、基準年調査に比べて有意に上昇していることから、当該分野の実感は上昇していると考えられます。

なお、前年調査の実感平均値と比べると0.21点上昇しており、t検定を行った結果、有意に上昇していることから、前年に比べて実感は上昇していると考えられます。

イ 属性別の状況

○ 令和3年県民意識調査の状況

- ・ 職業別では、「60歳以上の無職」が低く、「会社役員・団体役員」が高くなりました。

- ・ 世帯構成別では、「その他世帯」が低く、「夫婦のみ世帯」が高くなりました。
- ・ 子の数別では、「子どもはいない」が低く、「2人」が高くなりました。
- ・ 居住年数別では、「20年以上」が低く、「10～20年未満」が高くなりました。
- ・ 広域振興圏別では、「県南広域振興圏」が低く、「県央広域振興圏」が高くなりました。

○ 令和3年県民意識調査と基準年調査との比較

基準年調査と比較して有意に変化した属性は表28のとおりでした。

表28 「必要な収入や所得」の実感において有意な変化があった属性と基準年差

属性		H31	R3	R3-H31 (対基準年差)
県計		2.65	2.77	0.13
性別	女性	2.61	2.79	0.18
年代	60～69歳	2.63	2.77	0.14
職業	常用雇用者	2.72	2.86	0.13
	専業主婦・主夫	2.46	2.89	0.43
世帯構成	夫婦のみ	2.76	2.92	0.15
子の数	2人	2.71	2.86	0.16
	4人以上	2.48	2.86	0.38
居住年数	10年未満	2.55	2.99	0.43
	10～20年未満	2.48	3.14	0.65
	20年以上	2.66	2.75	0.09
広域振興圏	県央広域振興圏	2.73	2.87	0.14
	県南広域振興圏	2.54	2.70	0.16
	県北広域振興圏	2.60	2.76	0.16

ウ 新型コロナウイルス感染症の影響

当該分野別実感に係る新型コロナウイルス感染症の影響に対する県民の実感を令和3年県民意識調査において把握したところ、良い影響を感じた割合は6%、良くない影響を感じた割合は48%となりました。

また、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける前の令和2年調査と影響後の令和3年調査の実感を比較すると表29のとおりでした。

表29 「必要な収入や所得」の実感において有意な変化があった属性と前年差

属性		R2	R3	R3-R2 (対前年差)
県計		2.56	2.77	0.21
性別	男性	2.55	2.75	0.20
	女性	2.58	2.79	0.22
年代	30～39歳	2.36	2.71	0.34
	40～49歳	2.50	2.82	0.32
	50～59歳	2.52	2.75	0.23
	60～69歳	2.59	2.77	0.17
	70歳以上	2.65	2.80	0.15
職業	自営業主	2.63	2.86	0.23
	会社役員・団体役員	2.85	3.27	0.42

	常用雇用者	2.60	2.86	0.25
	臨時雇用者	2.39	2.65	0.26
	学生＋その他	2.55	2.94	0.38
	専業主婦・主夫	2.67	2.89	0.22
世帯構成	夫婦のみ	2.68	2.92	0.24
	2世代世帯	2.54	2.71	0.17
	3世代世帯	2.55	2.82	0.27
	その他世帯	2.30	2.68	0.37
子の数	1人	2.53	2.78	0.25
	2人	2.62	2.86	0.24
	3人	2.59	2.83	0.23
	子どもはいない	2.42	2.59	0.17
居住年数	10～20年未満	2.68	3.14	0.45
	20年以上	2.54	2.75	0.21
広域振興圏	県央広域振興圏	2.62	2.87	0.25
	県南広域振興圏	2.58	2.70	0.12
	沿岸広域振興圏	2.53	2.76	0.22
	県北広域振興圏	2.48	2.76	0.28

② 分野別実感が上昇した要因

- ・ 県民意識調査の結果、実感が有意に上昇した属性は、表 28 のとおり幅広く存在しており、特徴的な属性は確認できませんでした。
- ・ 補足調査で把握している「分野別実感の回答理由と関連が強い要因として選択された項目」については、実感が上昇した人の主な回答項目は以下のとおりでした。
 - (ア) 自分の収入・所得額(年金を含む)
 - (イ) 家族の収入・所得額(年金を含む)
 - (ウ) 生活の程度
- ・ 以上を踏まえ、当該分野の実感が上昇した要因は、「自分の収入・所得額(年金を含む)に満足していること」、「家族の収入・所得額(年金を含む)に満足していること」、「生活の程度が十分であること」であると推測されます。
- ・ なお、新型コロナウイルス感染症の影響について、「良い影響を感じた人」は5%であって、前年調査に比べて実感が上昇した人の主な回答項目は以下のとおりであり、「分野別実感の回答理由と関連が強い要因として選択された項目」と概ね同じ項目でした。
 - (ア) 自分の収入・所得額(年金を含む)
 - (イ) 家族の収入・所得額(年金を含む)
 - (ウ) 生活の程度
- ・ また、新型コロナウイルス感染症の影響について、「良くない影響を感じた人」は47%であって、そのうち前年調査に比べて実感が低下した人の主な回答項目は以下のとおりでした。
 - (ア) 自分の収入・所得額(年金を含む)
 - (イ) 家族の収入・所得額(年金を含む)
 - (ウ) 自分の支出額
- ・ 当該分野については、基準年及び前年と比べても実感は上昇しており、新型コロナウイルス感染症の影響が一定程度あったことは想定されるものの、特別定額給付金などの公的支援等の影響もあり、分野別実感にはあまり影響を与えなかったものと考えられます。

③ 一貫して低値又は高値で推移している属性とその要因

- 平成 28 年から令和 3 年までの県民意識調査で、一貫して高値（4 点以上）で推移している属性はなく、低値（3 点未満）で推移している属性は表 30 のとおりでした。
- ほぼ全ての属性において一貫して低値で推移していることから、補足調査において、当該分野別実感で「あまり感じない・感じない」と回答した人の主な回答項目から、「自分の収入・所得額（年金を含む）に満足していないこと」、「家族の収入・所得額（年金を含む）に満足していないこと」、「自分の金融資産の額に満足していないこと」が一貫して低値で推移している要因として推測されます。

表 30 「必要な収入や所得」の実感において低値で推移している属性

属性		H28	H29	H30	H31	R 2	R 3
県計		2.44	2.58	2.45	2.65	2.56	2.77
性別	男性	2.46	2.60	2.47	2.68	2.55	2.75
	女性	2.43	2.56	2.43	2.61	2.58	2.79
年代	20～29 歳	2.48	2.51	2.44	2.66	2.49	2.68
	30～39 歳	2.44	2.47	2.42	2.51	2.36	2.71
	40～49 歳	2.51	2.56	2.52	2.66	2.50	2.82
	50～59 歳	2.46	2.52	2.49	2.60	2.52	2.75
	60～69 歳	2.37	2.57	2.40	2.63	2.59	2.77
	70 歳以上	2.46	2.70	2.45	2.75	2.65	2.80
職業別	自営業主	2.53	2.69	2.58	2.86	2.63	2.86
	家族従業者	2.61	2.85	2.42	2.91	2.73	2.81
	常用雇用者	2.58	2.66	2.55	2.72	2.60	2.86
	臨時雇用者	2.20	2.31	2.30	2.56	2.39	2.65
	学生＋その他	2.49	2.73	2.63	2.80	2.55	2.94
	専業主婦（主夫）	2.37	2.48	2.34	2.46	2.67	2.89
	60 歳以上の無職	2.25	2.46	2.29	2.37	2.46	2.42
世帯構成	ひとり暮らし	2.52	2.65	2.53	2.65	2.57	2.75
	夫婦のみ	2.59	2.72	2.43	2.76	2.68	2.92
	2 世代世帯	2.41	2.54	2.51	2.62	2.54	2.74
	3 世代世帯	2.49	2.56	2.52	2.72	2.55	2.87
	その他	2.15	2.42	2.18	2.47	2.30	2.53
子の数	1 人	2.41	2.52	2.48	2.70	2.53	2.78
	2 人	2.48	2.61	2.49	2.71	2.62	2.86
	3 人	2.52	2.70	2.48	2.69	2.59	2.83
	4 人以上	2.36	2.54	2.31	2.48	2.58	2.86
	子どもはいない	2.37	2.44	2.40	2.53	2.42	2.59
居住年数	10 年未満	2.78	2.74	2.71	2.55	2.92	2.99
	20 年以上	2.42	2.57	2.44	2.66	2.54	2.75
広域振興圏	県央広域振興圏	2.47	2.59	2.50	2.73	2.62	2.87
	県南広域振興圏	2.39	2.53	2.42	2.54	2.58	2.70
	沿岸広域振興圏	2.52	2.63	2.51	2.71	2.53	2.76
	県北広域振興圏	2.37	2.57	2.34	2.60	2.48	2.76

2.3 実感が横ばいの分野

(1) 「家族関係」の実感

① 分野別実感の概況

ア 分野別実感の推移

実感平均値は3.85点であり、基準年調査より0.01点低下しています。

t検定を行った結果、基準年調査に比べて有意な変化は見られなかったことから、当該分野の実感は横ばいと考えられます。

なお、前年調査の実感平均値と比べると0.01点減少しているが、t検定を行った結果、有意な変化が見られなかったことから、前年に比べて実感は横ばいと考えられません。

イ 属性別の状況

○ 令和3年県民意識調査の状況

- ・ 年代別では、「50歳代」が低く、「20歳代」が高くなりました。
- ・ 職業別では、「家族従業者」が低く、「学生+その他」が高くなりました。
- ・ 世帯構成別では、「ひとり暮らし」が低く、「夫婦のみ世帯」が高くなりました。
- ・ 子の数別では、「4人以上」が低く、「2人」が高くなりました。
- ・ 居住年数別では、「20年以上」が低く、「10～20年未満」が高くなりました。
- ・ 広域振興圏別では、「県北広域振興圏」が低く、「県央広域振興圏」が高くなりました。

○ 令和3年県民意識調査と基準年調査との比較

基準年調査と比較して有意に変化した属性は表31のとおりでした。

表31 「家族関係」の実感において有意な変化があった属性と基準年差

属性		H31	R3	R3-H31 (対基準年差)
職業	会社役員・団体役員	3.73	3.98	0.25
	学生+その他	3.87	4.17	0.30

ウ 新型コロナウイルス感染症の影響

当該分野別実感に係る新型コロナウイルス感染症の影響に対する県民の実感を令和3年県民意識調査において把握したところ、良い影響を感じた割合は13%、良くない影響を感じた割合は43%となりました。

また、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける前の令和2年調査と影響後の令和3年調査の実感を比較すると有意な変化があった属性はありませんでした。

② 一貫して低値又は高値で推移している属性とその要因

- ・ 平成28年から令和3年までの県民意識調査で、一貫して高値（4点以上）で推移している属性は表32のとおりであり、低値（3点未満）で推移している属性はありませんでした。

○ 夫婦のみ世帯

補足調査結果で把握している「分野別実感の回答理由と関連が強い要因として選択された項目」で、「夫婦のみ世帯」の回答者が「感じる・やや感じる」と回答した項目から、以下の要因が推測されます。

(ア) 会話の頻度が多いこと

(イ) 同居（あるいは別居）がうまくいっていること

(ウ) 家族がよい精神的影響（貢献）を自分にもたらしていること

表 32 「家族関係」の実感において低値で推移している属性

属性		H28	H29	H30	H31	R 2	R 3
世帯構成	夫婦のみ	4.05	4.00	4.04	4.02	4.03	4.02

(2) 「住まいの快適さ」の実感

① 分野別実感の概況

ア 分野別実感の推移

実感平均値は 3.31 点であり、前年調査より 0.02 点低下しています。

t 検定を行った結果、前年調査に比べて有意な変化は見られなかったことから、当該分野の実感は横ばいと考えられます。

なお、前年調査の実感平均値と比べると 0.02 点上昇しているが、t 検定を行った結果、有意な変化が見られなかったことから、前年に比べて実感は横ばいと考えられます。

イ 属性別の状況

○ 令和 3 年県民意識調査の状況

- ・ 年代別では、「50 歳代」が低く、「70 歳以上」が高くなりました。
- ・ 職業別では、「家族従業者」が低く、「専業主婦・主夫」が高くなりました。
- ・ 世帯構成別では、「ひとり暮らし」が低く、「夫婦のみ世帯」が高くなりました。
- ・ 子の数別では、「子どもはいない」が低く、「2 人」が高くなりました。
- ・ 居住年数別では、「20 年以上」が低く、「10～20 年未満」が高くなりました。
- ・ 広域振興圏別では、「県北広域振興圏」が低く、「県央広域振興圏」が高くなりました。

○ 令和 3 年県民意識調査と基準年調査との比較

基準年調査と比較して有意に変化した属性は表 33 のとおりでした。

表 33 「住まいの快適さ」の実感において有意な変化があった属性と前年差

属性		H31	R 3	R2-H31 (対前年差)
年代	50～59 歳	3.26	3.11	▲0.15
居住年数	10 年未満	2.96	3.33	0.37

ウ 新型コロナウイルス感染症の影響

当該分野別実感に係る新型コロナウイルス感染症の影響に対する県民の実感を令和 3 年県民意識調査において把握したところ、良い影響を感じた割合は 13%、良くない影響を感じた割合は 43%となりました。

また、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける前の令和 2 年調査と影響後の令和 3 年調査の実感を比較すると表 34 のとおりでした。

表 34 「住まいの快適さ」の実感において有意な変化があった属性と前年差

属性		R 2	R 3	R3-R2 (対前年差)
世帯構成	その他	3.02	3.26	0.24
子の数	1 人	3.37	3.20	▲0.17
	2 人	3.37	3.46	0.09

(3) 「仕事のやりがい」の実感

① 分野別実感の概況

ア 分野別実感の推移

実感平均値は 3.49 点であり、基準年調査より 0.05 点低下しています。

t 検定を行った結果、基準年調査に比べて有意な変化は見られなかったことから、当該分野の実感は横ばいと考えられます。

なお、前年調査の実感平均値と比べると 0.11 点上昇しており、t 検定を行った結果、有意に上昇していることから、前年に比べて実感は上昇していると考えられます。

イ 属性別の状況

○ 令和 3 年県民意識調査の状況

- ・ 職業別では、「60 歳以上の無職」が低く、「自営業主」が高くなりました。
- ・ 世帯構成別では、「その他世帯」が低く、「3 世代世帯」が高くなりました。
- ・ 子の数別では、「子どもはいない」が低く、「2 人」が高くなりました。
- ・ 居住年数別では、「20 年以上」が低く、「10～20 年未満」が高くなりました。

○ 令和 3 年県民意識調査と基準年調査との比較

基準年調査と比較して有意に変化した属性は表 35 のとおりでした。

表 35 「仕事のやりがい」の実感において有意な変化があった属性と基準年差

属性		H31	R 3	R3-H31 (対前年差)
年代	70 歳以上	3.72	3.50	▲0.23
職業	家族従業者	3.77	3.41	▲0.35
	60 歳以上の無職	3.32	3.07	▲0.25
世帯構成	その他	3.54	3.32	▲0.21
子の数	3 人	3.74	3.56	▲0.18
広域振興圏	沿岸広域振興圏	3.57	3.42	▲0.15

ウ 新型コロナウイルス感染症の影響

当該分野別実感に係る新型コロナウイルス感染症の影響に対する県民の実感を令和 3 年県民意識調査において把握したところ、良い影響を感じた割合は 13%、良くない影響を感じた割合は 43%となりました。

また、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける前の令和 2 年調査と影響後の令和 3 年調査の実感を比較すると表 36 のとおりでした。

表 36 「仕事のやりがい」の実感において有意な変化があった属性と前年差

属性		R 2	R 3	R3-R2 (対前年差)
県計		3.38	3.49	0.11
性別	女性	3.35	3.50	0.15
年代	60～69 歳	3.45	3.61	0.15
職業	家族従業者	3.70	3.41	▲0.28
	常用雇用者	3.36	3.47	0.11
	学生＋その他	3.34	3.79	0.46
世帯構成	夫婦のみ	3.43	3.56	0.14
	2 世代世帯	3.36	3.50	0.13

	3世代世帯	3.45	3.64	0.18
子の数	2人	3.43	3.60	0.17
	4人以上	3.29	3.59	0.31
居住年数	10～20年未満	3.45	3.81	0.36
	20年以上	3.37	3.47	0.10
広域振興圏	県南広域振興圏	3.36	3.49	0.13
	県北広域振興圏	3.33	3.54	0.21

(4) 「自然のゆたかさ」の実感

① 分野別実感の概況

ア 分野別実感の推移

実感平均値は4.18点であり、基準年調査より0.03点低下しています。

t検定を行った結果、基準年調査に比べて有意な変化は見られなかったことから、当該分野の実感は横ばいと考えられます。

なお、前年調査の実感平均値と比べると0.02点上昇しているが、t検定を行った結果、有意な変化が見られなかったことから、前年に比べて実感は横ばいと考えられます。

イ 属性別の状況

○ 令和3年県民意識調査の状況

- ・ 年代別では、「70歳以上」が低く、「50歳代」が高くなりました。
- ・ 職業別では、「60歳以上の無職」が低く、「学生+その他」が高くなりました。
- ・ 世帯構成別では、「ひとり暮らし」が低く、「その他世帯」が高くなりました。

○ 令和3年県民意識調査と基準年調査との比較

基準年調査と比較して有意に変化した属性は、表36のとおりでした。

表36 「自然のゆたかさ」の実感において有意な変化があった属性と基準年差

属性		H31	R3	R2-H31 (対基準年差)
職業	臨時雇用者	4.31	4.16	▲0.15

ウ 新型コロナウイルス感染症の影響

当該分野別実感に係る新型コロナウイルス感染症の影響に対する県民の実感を令和3年県民意識調査において把握したところ、良い影響を感じた割合は8%、良くない影響を感じた割合は38%となりました。

また、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける前の令和2年調査と影響後の令和3年調査の実感を比較すると表37のとおりでした。

表37 「自然のゆたかさ」の実感において有意な変化があった属性と前年差

属性		R2	R3	R3-R2 (対前年差)
年代	60～69歳	4.09	4.19	0.10
職業	学生+その他	4.09	4.34	0.25
世帯構成	夫婦のみ	4.10	4.21	0.12
	その他	4.09	4.26	0.17

② 一貫して低値又は高値で推移している属性とその要因

- 平成 28 年から令和 3 年までの県民意識調査で、一貫して低値（3 点未満）で推移している属性はなく、高値（4 点以上）で推移している属性は表 38 のとおりです。
- 全ての属性において高値で推移していることから、補足調査において、当該分野別実感の「感じる・やや感じる」と回答した項目から、「緑の量が豊かであること」「空気の状態が綺麗であること」「水（河川、池、地下水など）の状態が綺麗であること」が一貫して高値で推移している要因として推測されます。

表 38 「自然のゆたかさ」の実感において高値で推移している属性

属性		H29	H30	H31	R 2	R 3
県計		4.26	4.27	4.21	4.16	4.18
性別	男性	4.23	4.25	4.19	4.13	4.16
	女性	4.29	4.28	4.23	4.18	4.20
年代	20～29 歳	4.37	4.36	4.20	4.20	4.21
	30～39 歳	4.28	4.31	4.22	4.33	4.24
	40～49 歳	4.30	4.42	4.30	4.16	4.22
	50～59 歳	4.30	4.38	4.27	4.25	4.24
	60～69 歳	4.24	4.18	4.17	4.09	4.19
	70 歳以上	4.20	4.14	4.17	4.10	4.08
職業別	自営業主	4.29	4.29	4.21	4.22	4.19
	家族従業者	4.50	4.31	4.12	4.33	4.15
	会社役員・団体役員	4.28	4.26	4.28	4.20	4.30
	常用雇用者	4.30	4.33	4.25	4.21	4.24
	臨時雇用者	4.36	4.31	4.31	4.22	4.16
	学生＋その他	4.37	4.59	4.33	4.09	4.34
	専業主婦（主夫）	4.22	4.29	4.21	4.15	4.21
	60 歳以上の無職	4.09	4.04	4.09	4.04	4.07
世帯構成	ひとり暮らし	4.18	4.22	4.18	4.16	4.07
	夫婦のみ	4.21	4.22	4.20	4.10	4.21
	2 世代世帯	4.29	4.28	4.22	4.19	4.16
	3 世代世帯	4.44	4.39	4.34	4.29	4.29
子の数	1 人	4.28	4.25	4.21	4.16	4.24
	2 人	4.24	4.25	4.25	4.16	4.19
	3 人	4.28	4.30	4.23	4.16	4.18
	4 人以上	4.32	4.28	4.25	4.22	4.18
	子どもはいない	4.27	4.30	4.14	4.19	4.18
居住年数	10 年未満	4.16	4.22	4.20	4.46	4.24
	10～20 年未満	4.21	4.29	4.24	4.31	4.35
	20 年以上	4.27	4.27	4.22	4.15	4.17
広域振興圏	県央広域振興圏	4.26	4.28	4.19	4.20	4.16
	県南広域振興圏	4.22	4.26	4.15	4.11	4.15
	沿岸広域振興圏	4.25	4.25	4.26	4.13	4.21
	県北広域振興圏	4.37	4.27	4.31	4.23	4.22

第5章 まとめ

1 主観的幸福感について

令和3年県民意識調査結果によると、「幸福だと感じる」と「やや幸福だと感じる」と回答した人の割合は、県全体で55.4%となり、基準年より3.1ポイント上昇し、前年調査より0.8ポイント低下しました。

「幸福だと感じる」から「幸福だと感じない」の5段階の選択肢に応じて5点から1点を配点したところ、県全体の平均値は3.52点（基準年調査：3.43点）となり、基準年より0.09点上昇し、前年調査（3.48点）と比べても0.04点上昇しています。

t検定を行った結果、基準年調査と比べて有意に上昇しているため、主観的幸福感については上昇していると考えられます。

なお、前年調査と比べて有意な差があるとはいえないため、主観的幸福感については横ばいに推移していると考えられます。

前年調査と比較して上昇した属性は、性別では「男性」、「女性」、年代別では「60歳代」、職業別では、「専業主婦・主夫」、「60歳以上の無職」、世帯構成では「夫婦のみ世帯」、「その他世帯」、子の数では「2人」、居住年数では「20年以上」、広域振興圏別では「県南広域振興圏」であり、低下した属性はありませんでした。

また、幸福を判断するに当たっては、「健康状況」や「家族関係」を特に重視していることが分かりました。

2 分野別実感について

分野別の実感について、「感じる」から「感じない」の5段階の選択肢に応じて5点から1点を配点したところ、分野別実感の平均値は、基準年調査と比較して、4分野で上昇、4分野で横ばい、4分野で低下が見られました。

2.1 実感が低下した分野

(1) 「余暇の充実」の実感

令和3年県民意識調査における当該分野の実感平均値は、基準年調査より0.08点低下して2.97点であり、当該分野の実感は低下していると考えられます。

基準年調査と比較して低下した属性は、性別では「女性」、年代別では「50歳代」、「70歳以上」、職業別では「60歳以上の無職」、子の数別では「1人」、居住年数別では「20年以上」、広域振興圏別では「沿岸広域振興圏」であり、上昇した属性はありませんでした。

当該分野の実感が低下した要因として、補足調査の結果より、以下の要因が推測されます。

- (ア) 自由な時間が十分に確保できなかったこと
- (イ) 知人・友人との交流が減ったこと
- (ウ) 趣味・娯楽活動の場所・機会が減ったこと

また、分野別実感の前年に比べると横ばいとなっているものの、新型コロナウイルス感染症の影響について良くない影響を感じている人の割合が高く、その人の実感が下がった項目等を分析した結果、当該分野別実感の低下に新型コロナウイルス感染症の影響が一定程度あったものと考えられます。

一貫して低値で推移している属性は、年代別で見ると、「30歳代から50歳代」、職業別で見ると、「常用雇用者」、世帯構成別で見ると、「2世代世帯」、子の数別で見ると、「子どもはいない」であり、補足調査の結果より、これらの属性で「あまり感じない・感じない」と回答した項目が全て同じであることから、以下の要因が推測されます。

- (ア) 自由な時間が十分に確保できなかったこと

- (イ) 知人・友人との交流が少ないこと
- (ウ) 趣味・娯楽活動の場所・機会が少ないこと

(2) 「地域社会とのつながり」の実感

令和3年県民意識調査における当該分野の実感平均値は、基準年調査より0.25点低下して3.09点であり、当該分野の実感は低下していると考えられます。

基準年調査と比較して低下した属性は、性別では「男女両方」、年代別では「30歳以上」、職業別では「自営業主」、「家族従業者」、「常用雇用者」、「臨時雇用者」、「60歳以上の無職」、世帯構成別では「全ての属性」、子の数別では「4人以上を除く全ての属性」、居住年数では「10年未満」及び「20年以上」、広域振興圏別では「全ての属性」であり、上昇した属性はありませんでした。

当該分野の実感が低下した要因として、補足調査の結果より、以下の要因が推測されます。

- (ア) 隣近所との面識・交流が減ったこと
- (イ) 自治会・町内会活動への参加（環境美化、防犯・防災活動など）が減ったこと
- (ウ) その地域で過ごした年数が短いこと

また、分野別実感は前年に比べると低下しており、かつ、新型コロナウイルス感染症の影響について良くない影響を感じている人の割合が高く、その人の実感が下がった理由等を分析した結果、当該分野別実感の低下に新型コロナウイルス感染症の影響が一定程度あったものと考えられます。

(3) 「地域の安全」の実感

令和3年県民意識調査における当該分野の実感平均値は、基準年調査より0.06点低下して3.76点であり、当該分野の実感は低下していると考えられます。

基準年調査と比較して低下した属性は、年代別では「50歳代」、職業別では「常用雇用者」、「60歳以上の無職」、世帯構成別では「2世代世帯」、子の数別では「4人以上」、居住年数別では「20年以上」、広域振興圏別では「県央広域振興圏」であり、上昇した属性はありませんでした。

当該分野の実感が低下した要因として、補足調査の結果より、以下の要因が推測されます。

- (ア) 自然災害の発生が多いこと
- (イ) 交通事故の防止対策（歩道の整備など）が十分とは言えないこと
- (ウ) 社会インフラの老朽化（橋、下水道など）が懸念されること

また、分野別実感は前年に比べると上昇しているものの、新型コロナウイルス感染症の影響について良くない影響を感じている人の割合が高く、その人の実感が下がった理由等を分析した結果、当該分野別実感の低下に新型コロナウイルス感染症の影響が一定程度あったものと考えられます。

(4) 「歴史・文化への誇り」の実感

令和3年県民意識調査における当該分野の実感平均値は、基準年調査より0.11点低下して3.18点であり、当該分野の実感は低下していると考えられます。

基準年調査と比較して低下した属性は、性別では「男女両方」、年代別では「50歳代」及び「70歳以上」、職業別では「臨時雇用者」、「専業主婦・主夫」、「60歳以上の無職」、世帯構成別では「2世代世帯」、子の数別では「2人」、「3人」、居住年数別では「20年以上」、広域振興圏別では「沿岸広域振興圏」、「県北広域振興圏」であり、上昇した属性はありませんでした。

当該分野の実感が低下した要因として、補足調査の結果より、以下の要因が推測されます。

- (ア) 誇りを感じる歴史や文化が見当たらないこと
- (イ) 地域のお祭り・伝統芸能に関心がないこと
- (ウ) その地域で過ごした年数が短いこと

また、分野別実感は前年と比べても低下しており、新型コロナウイルス感染症の影響について良くない影響を感じている人が高い割合を占めており、その人の実感が下がった項目等を分析した結果、当該分野別実感の低下に新型コロナウイルス感染症の影響が一定程度あったものと考えられます。

2.2 実感が上昇した分野

(1) 「心身の健康」の実感

令和3年県民意識調査における当該分野の実感平均値は、基準年調査より0.07点上昇して3.07点であり、当該分野の実感は上昇していると考えられます。

基準年調査と比較して上昇した属性は、年代別では「60歳代」、職業別では「60歳以上の無職」、世帯構成別では「その他世帯」、居住年数別では「20年以上」、広域振興圏別では「県南広域振興圏」であり、低下した属性はありませんでした。

当該分野の実感が上昇した要因として、補足調査の結果より、以下の要因が推測されます。

【からだ】

- (ア) 睡眠・休養・しごと・学業・運動などの暮らしの時間配分（ワークライフバランス）が良かったこと
- (イ) 健康診断の結果が良かったこと
- (ウ) 持病がないこと

【こころ】

- (ア) 睡眠・休養・しごと・学業・運動などの暮らしの時間配分（ワークライフバランス）が良かったこと
- (イ) からだの健康状態が良好であること
- (ウ) 仕事・学業以外の私生活におけるストレスが減ったこと

また、分野別実感は基準年と比べて上昇しているものの、前年と比べて低下しており、新型コロナウイルス感染症の影響について良くない影響を感じている人が高い割合を占めており、その人の実感が下がった項目等を分析した結果、当該分野別実感に新型コロナウイルス感染症の影響が一定程度あったものと考えられます。

(2) 「子育て」の実感

令和3年県民意識調査における当該分野の実感平均値は、基準年調査より0.08点上昇して3.16点であり、当該分野の実感は上昇していると考えられます。

基準年調査と比較して上昇した属性は、性別では「女性」、年代別では「40歳代」、職業別では「会社役員・団体役員」及び「専業主婦・主夫」、世帯構成別では「その他世帯」、子の数別では「子どもはいない」、居住年数別では「20年以上」、広域振興圏別では「県南広域振興圏」であり、低下した属性はありませんでした。

当該分野の実感が上昇した要因として、補足調査の結果より、以下の要因が推測されます。

- (ア) 子どもを預けられる場所（保育所など）があること
- (イ) 子どもを預けられる人（親、親戚など）がいること
- (ウ) 配偶者が家事に参加していること

(エ) 自分の就業状況（労働時間、休業・休暇など）が良好であること

(オ) 自分の勤め先の子育てに対する理解があること

また、分野別実感は基準年及び前年と比べて上昇しており、新型コロナウイルス感染症の影響が一定程度あったことは想定されるものの、分野別実感にはあまり影響を与えなかったものと考えられます。

一貫して低値で推移している属性は、年代別で「20歳代」、世帯構成別で「ひとり暮らし」、子の数別で「子どもはいない」であり、その要因は補足調査の結果より、以下のとおり推測されます。

○ 20歳代

(ア) 子育てにかかる費用が高いこと

(イ) 子どもを預けられる場所（保育所など）がないこと

(ウ) 子育て支援サービスの内容に不満があること

○ ひとり暮らし

(ア) 子どもを預けられる場所（保育所など）がないこと

(イ) 子育て支援サービスの内容に不満があること

(ウ) 子育てにかかる費用が高いこと

○ 子どもはいない

(ア) 子育てにかかる費用が高いこと

(イ) 子育て支援サービスの内容に不満があること

(ウ) わからない（身近に子どもがいない、子育てにかかわっていないなど）

(3) 「子どもの教育」の実感

令和3年県民意識調査における当該分野の実感平均値は、基準年調査より0.10点上昇して3.20点であり、当該分野の実感は上昇していると考えられます。

基準年調査と比較して上昇した属性は、性別では「男女両方」、年代別では「30歳代」及び「60歳代」、職業別では「会社役員・団体役員」、「常用雇用者」及び「専業主婦・主夫」、世帯構成別では「2世代世帯」及び「その他世帯」、子の数別では「1人」、「2人」及び「子どもはいない」、居住年数別では「10年未満」及び「20年以上」、広域振興圏別では「県央広域振興圏」であり、低下した属性はありませんでした。

当該分野の実感が上昇した要因として、補足調査の結果より、以下の要因が推測されます。

(ア) 学力を育む教育内容となっていること

(イ) 人間性、社会性を育む教育内容となっていること

(ウ) 健やかな体を育む教育内容となっていること

また、分野別実感は基準年及び前年と比べて上昇しており、新型コロナウイルス感染症の影響が一定程度あったことは想定されるものの、分野別実感にはあまり影響を与えなかったものと考えられます。

一貫して低値で推移している属性は、子の数別では「子どもはいない」であり、補足調査の結果より、以下の要因が推測されます。

(ア) 人間性、社会性を育むための教育内容が十分とは言えないこと

(イ) 学力を育む教育内容が十分とは言えないこと

(ウ) 不登校やいじめなどへの対応が十分とは言えないこと

(エ) わからない（身近に子どもがいない、子育てにかかわっていないなど）

(4) 「必要な収入や所得」の実感

令和3年県民意識調査における当該分野の実感平均値は、基準年調査より0.13点上昇して2.72点であり、当該分野の実感は上昇していると考えられます。

基準年調査と比較して上昇した属性は、性別では「女性」、年代別では「60歳代」、職業別では「常用雇用者」及び「専業主婦・主夫」、世帯構成別では「夫婦のみ」、子の数別では「2人」及び「4人以上」、居住年数別では全属性、広域振興圏別では「県北広域振興圏を除くすべての属性」であり、低下した属性はありませんでした。

当該分野の実感が上昇した要因として、補足調査の結果より、以下の要因が推測されます。

- (ア) 自分の収入・所得額（年金を含む）に満足していること
- (イ) 家族の収入・所得額（年金を含む）に満足していること
- (ウ) 生活の程度が十分であること

また、分野別実感は基準年及び前年と比べて上昇しており、新型コロナウイルス感染症の影響が一定程度あったことは想定されるものの、特別定額給付金などの公的支援等の影響もあり、分野別実感にはあまり影響を与えなかったものと考えられます。

一貫して低値で推移している属性は、「会社役員・団体役員、居住年数10～20年未満を除く全ての属性」であり、補足調査の結果より、以下の要因が推測されます。

- (ア) 自分の収入・所得額（年金を含む）に満足していないこと
- (イ) 家族の収入・所得額（年金を含む）に満足していないこと
- (ウ) 自分の金融資産の額に満足していないこと

2.3 実感が横ばいの分野

(1) 「家族関係」の実感

令和3年県民意識調査における当該分野の実感平均値は、基準年調査より0.01点低下して3.85点であり、当該分野の実感は横ばいと考えられます。

基準年調査と比較して上昇した属性は、職業別で「会社役員・団体役員」及び「学生＋その他」であり、低下した属性はありませんでした。

(2) 「住まいの快適さ」の実感

令和3年県民意識調査における当該分野の実感平均値は、基準年調査より0.02点低下して3.31点であり、当該分野の実感は横ばいと考えられます。

基準年調査と比較して低下した属性は、年代別で「50～59歳」で「立地の利便性に満足していないこと」であり、上昇した属性は、居住年数別の「10年未満」でした。

(3) 「仕事のやりがい」の実感

令和3年県民意識調査における当該分野の実感平均値は、基準年調査より0.05点低下して3.49点であり、当該分野の実感は横ばいと考えられます。

基準年調査と比較して低下した属性は、年代別では「70歳以上」、職業別では「家族従業者」及び「60歳以上の無職」、世帯構成別では「その他世帯」、子の数別では「3人」、広域振興圏別では「沿岸広域振興圏」であり、上昇した属性はありませんでした。

(4) 「自然のゆたかさ」の実感

令和3年県民意識調査における当該分野の実感平均値は、基準年調査より0.03点低下して4.18点であり、当該分野の実感は横ばいと考えられます。

基準年調査と比較して低下した属性は、職業別で「臨時雇用者」であり、上昇した属性はありませんでした。

全ての属性が一貫して高値（４点以上）で推移しており、補足調査の結果より、以下の要因が推測されます。

- （ア） 緑の量が豊かであること
- （イ） 空気が綺麗であること
- （ウ） 水（河川、池、地下水など）の状態が綺麗であること

<参考>

1 県民の幸福感に関する分析部会運営要領

(設置)

第1条 岩手県総合計画審議会条例（昭和54年岩手県条例第29号）第7条の規定に基づき、岩手県総合計画審議会に県民の幸福感に関する分析部会（以下「部会」という。）を置く。

(所掌)

第2条 部会の所掌事項は、次のとおりとする。

- (1) 「県の施策に関する県民意識調査」等で把握した、県民の幸福に対する実感の分析に関すること。
- (2) その他いわて県民計画の推進に当たって必要な事項に関すること。

(組織)

第3条 部会は、岩手県総合計画審議会委員及び外部委員をもって組織する。

2 外部委員は、当該部会の所掌事項に関して十分な知識又は経験を有する者のうちから、知事が任命する。

(部会長及び副部会長)

第4条 部会に、部会長及び副部会長を各1名置く。

- 2 部会長は、委員の互選によって定める。
- 3 副部会長は、委員のうちから部会長が指名する。
- 4 部会長は、会務を総理し、会議の議長となる。
- 5 副部会長は部会長を補佐し、部会長に事故があるとき又は部会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(オブザーバー)

第5条 部会にオブザーバーを置くことができる。

- 2 オブザーバーは、知事が任命する。
- 3 オブザーバーは、必要に応じて会議に出席し、意見を述べることができる。

(会議)

第6条 部会は、知事が招集する。

- 2 部会は、委員の半数以上が出席しなければ会議を開くことができない。
- 3 部会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(意見の聴取)

第7条 部会は、必要に応じて専門的知識を有する者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

(庶務)

第8条 部会の庶務は、政策企画部政策企画課において処理する。

(補則)

第9条 この要領に定めるもののほか、部会の運営に関し必要な事項は、部会長が定める。

附 則

この要領は、令和元年6月6日から施行する。

附 則

この要領は、令和2年4月1日から施行する。

2 県民の幸福感に関する分析部会委員等名簿

氏名	現所属等	備考
吉野 英岐	岩手県立大学総合政策学部 教授	部会長
若菜 千穂	特定非営利活動法人いわて地域づくり支援センター 常務理事	副部会長
竹村 祥子	浦和大学社会学部 教授	
谷藤 邦基	株式会社イーアールアイ 取締役	
Tee Kian Heng	岩手県立大学総合政策学部 教授	
山田 佳奈	岩手県立大学総合政策学部 准教授	
和川 央	岩手県立大学研究・地域連携本部 特任准教授	
広井 良典	京都大学こころの未来研究センター 副センター長	オブザーバー

3 令和3年度における部会開催状況等

月日	検討内容等
5月20日(木)	第1回部会開催 (1) 県民の幸福感に関する分析部会について (2) 県民の幸福感に関する分析方針(案)について (3) 分野別実感の分析について
5月27日(木)	第2回部会開催 (1) 分野別実感の分析について
6月17日(木)	第3回部会開催 (1) 分野別実感の分析について
7月29日(木)	第4回部会開催 (1) 令和3年度「県民の幸福感に関する分析部会」年次レポート(素案)について
9月13日(木)	第5回部会開催 (1) 令和3年度「県民の幸福感に関する分析部会」年次レポート(案)について (2) 令和4年県民意識調査(補足調査)について
11月 日()	第〇回総合計画審議会で分析結果を報告

岩手県総合計画審議会「県民の幸福感に関する分析部会」
令和3年度年次レポート（案）

発行 令和3年〇月

発行者 岩手県総合計画審議会 県民の幸福感に関する分析部会

事務局 岩手県政策企画部政策企画課

TEL 019-629-5181 FAX 019-629-6229